

科目名	探究ゼミ (FEP0M310)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study III
担当教員名	松岡律(まつおかただし), 山下浩之(やましたひろゆき), 井本美穂(いもとみほ)
対象学年	3年
開講学期	通期
曜日時限	水曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション - 探究ゼミ の目的を理解する (全教員)
2回	プランニング(1) - 各自の進路目標を宣言する。 (全教員)
3回	プランニング(2) - キャリアアドバイザーの講話から学ぶ。 (全教員)
4回	プランニング(3) - ゲストティーチャーからの学びを整理する。 (全教員)
5回	プランニング(4) - これからの大学での学びを考える。(ゼミ) (全教員)
6回	グループワーク(1) - 希望進路ごとに情報交換する。 (全教員)
7回	グループワーク(2) - 課題と対策を明確化する。 (全教員)
8回	プレゼンテーション - 互いの進路目標と対策を発表する。 (全教員)
9回	大学での学びのゴールを定める。 (全教員)
10回	ゼミ研究(1) 様々な研究を知る。 (全教員)
11回	ゼミ研究(2) 様々な研究を知る。 (全教員)
12回	ゼミ研究(3) 様々な研究を知る。 (全教員)
13回	ゼミ研究(4) 研究テーマを決定する。 (全教員)
14回	今後の学びと卒業後のキャリアの関連について検討する。 (全教員)
15回	最後の1年の過ごし方を定める。 (全教員)

回数	準備学習
1回	自分の進路について考えを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	発表の準備をしておくこと。(標準学習時間30分)
3回	改めて自己課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)

4 回	2 分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	残り2年間でどんな学びを深めたいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
6 回	志望する業界について情報収集しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	目標達成のためにどうすればいいか考えておくこと。(標準学習時間30分)
8 回	各自プレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9 回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
11 回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
12 回	卒業に向けた研究について考えておくこと。(標準学習時間60分)
13 回	希望の研究テーマを確定しておくこと。
14 回	大学での学びと実社会との関係について考えておくこと。(標準学習時間60分)
15 回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「キャリア形成」を年間テーマにして、個々の学生が教員採用や就職、進学など、進路決定に向けた行動を探究することを目標とする。具体的には、教職への適性を考え、教員として教育現場で実践できるだけの基礎力を培うためにすべきことや、教員以外で希望する業界で可能性を生かすために必要なことはなにかといった課題を設定して、調査・報告などの活動を行うことによって進路への意識を高める。また、外部講師を招き、社会人としての持続可能な社会貢献等についても議論し理解を深める。 (初等教育学科学位授与の方針にもっとも強く関与する)
達成目標	「探究ゼミ」として趣を変え、今度は気づきと学びを自分自身の内面で醸成する作業を通じて、大学生としての学びを研究に昇華することと、卒業後の自分の生き方を同時に考え、二つの目標に同時に取り組めるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60%)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	指定しない。
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FEP0Q110)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study I
担当教員名	原田省吾(はらだしょうご), 笹山健作(ささやまけんさく), 妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	1年
開講学期	通期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	イントロダクション 問いを立てる意味に気づく (全教員)
2回	世の中に対して問いを立てる(1) 探究作業 (全教員)
3回	世の中に対して問いを立てる(2) 班内意見交換 (全教員)
4回	世の中に対して問いを立てる(3) 班内プレゼン (全教員)
5回	班代表プレゼンテーション(1) (全教員)
6回	自分自身を問う(1) 探究作業 (全教員)
7回	自分自身を問う(2) 班内意見交換 (全教員)
8回	自分自身を問う(3) 班内プレゼン (全教員)
9回	班代表プレゼンテーション(2) (全教員)
10回	大学生としてどう生きるか(1) 探究作業 (全教員)
11回	大学生としてどう生きるか(2) 意見交換、課題設定 (全教員)
12回	大学生としてどう生きるか(3) プラン&アクション1 (全教員)
13回	大学生としてどう生きるか(4) プラン&アクション2 (全教員)
14回	大学生としてどう生きるか(5) 成果の整理 (全教員)
15回	全体まとめ プレゼンテーション (全教員)

回数	準備学習
1回	日常生活における不思議について考えておくこと。(標準学習時間30分)
2回	新聞等を読んで、自分が分からないことをまとめておくこと。(標準学習時間30分)
3回	第2回を踏まえて、自分の意見を他者に伝える準備をしておくこと。(標準学習時間30分)

4 回	第 3 回を踏まえ、自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
5 回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
6 回	自己認識、自己概念、Iとmeなどについて調べておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
7 回	他者と意見を交換し合うための準備をしておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
8 回	自分の考えを説得的に表現できるよう準備しておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
9 回	他者の意見を正確に記述するための準備をしておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 0 回	小・中・高と違う大学の特徴について考えおくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 1 回	どの課題を選ぶか、考えておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 2 回	課題を踏まえ次に何をするか考えておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 3 回	引き続き、成果に結びつけるための方途を考えておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 4 回	成果として挙げられるものを、理由も含めて考えておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 5 回	全体の場合でどのようにプレゼンテーションするか、準備しておくこと。(標準学習時間 3 0 分)

講義目的	“大学生としてどう生きるか？”を年間テーマとして、前半は科目履修の考え方やレポートの書き方等の大学生活への導入を行う。後半は、5～6名のグループに分かれ、学修への姿勢や人間関係、そして理想的な教育のあり方など、主に大学4年間のすごし方をめぐり学生たちが様々な課題を自主的に取り上げ、検討し討論し合う活動が中心となる。活動の成果は学生個々人がプレゼンテーションならびにレポートにまとめて提出する。(初等教育学科の学位授与方針Dに最も強く関与する)
達成目標	大学生としての自分自身の立場、将来目標を明確に把握し、この先何をなすべきかを他者に分かりやすく説明できるほど明確に意識し、またそれを文章として表現できるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60%)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	妻藤研究室A1号館9階 原田研究室A1号館9階 笹山研究室A1号館10階
注意・備考	・提出課題のフィードバックは授業中にコメントする。 ・講義中の録音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	探究ゼミ (FEP0U210)
英文科目名	Seminar for Inquiry-based Study II
担当教員名	小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 紙田路子(かみたみちこ)
対象学年	2 年
開講学期	通期
曜日時限	金曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	イントロダクション - 探究テーマを考える (全教員)
2 回	プランニング(1) - 1st プロジェクトを構想する。 (全教員)
3 回	プランニング(2) - 1st プロジェクトを決定する。 (全教員)
4 回	プランニング(3) - プロジェクト発表(班代表) + 意見交換をする。 (全教員)
5 回	プランニング(4) - プロジェクトを準備する。 (全教員)
6 回	1st プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
7 回	1st プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
8 回	リフレクション(1) - 1st プロジェクトの振り返りをする。 (全教員)
9 回	2nd プロジェクトを構想する。 (全教員)
10 回	プランニング(5) - 2ndプロジェクトの内容を検討する。 (全教員)
11 回	プランニング(6) - プロジェクトの内容を決定する。 (全教員)
12 回	2nd プロジェクト実行(1) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
13 回	2nd プロジェクト実行(2) - 実際の取り組みをする。 (全教員)
14 回	リフレクション(2) - 2nd プロジェクトの振り返り(クラス内プレゼンならびに選抜)をする。 (全教員)
15 回	リフレクション(3) - 学年全体で選抜チームによるプレゼンをする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	「探究ゼミ」の成果と今後の課題について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	グループ討論の準備(アイデア準備)をしておくこと。(標準学習時間30分)

3 回	第 2 回の議論を踏まえ、課題を整理しておくこと。(標準学習時間30分)
4 回	10分程度のプレゼンテーション準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	決定したプロジェクト実現に必要な手順についてよく整理しておくこと。(標準学習時間30分)
6 回	個々の役割分担等について整理しておくこと。(標準学習時間30分)
7 回	プロジェクトの円滑な進行に必要な条件を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
8 回	各班でプレゼンテーションの準備をしておくこと。(標準学習時間90分)
9 回	地域と関わる活動について考えておくこと。(標準学習時間30分)
1 0 回	前回の議論に基づき各自プランを練っておくこと。(標準学習時間30分)
1 1 回	前回の議論から、プランを整理しておくこと。(標準学習時間30分)
1 2 回	各自の役割を明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
1 3 回	地域との関わりを明確にしておくこと。(標準学習時間30分)
1 4 回	1st プロジェクトと同様にプレゼン準備をしておくこと。(標準学習時間60分)
1 5 回	1年間の振り返りを探究ノートにきちんとまとめること。(標準学習時間60分)

講義目的	「学びを深める」を年間テーマに、仲間や地域の人々との関わりの中で、マネジメント力・コーディネート力・ファシリテーション力の獲得を目指す。グループ単位で社会貢献活動等の企画を立案・実行し、その成果をプレゼンテーション等を通じて他者に情報発信する中で、自分と異なる意見を理解し尊重し、調和することの大切さを学ぶ。また活動の成果を報告会で互いに発表し合うことを通じて、プレゼンテーション力の向上も図る。教員はテーマの指示および討論の助言を行う。活動の成果は学生個人が毎回記録し、最終的にレポートにまとめる。(初等教育学科学位授与の方針Dにもっとも強く関与する)
達成目標	「探究ゼミ」で培った仲間とのコラボレーション力を基に、学外の地域と人々との関わりの中で課題を発見し、取り組み、解決し、その成果を効果的に発表するスキルを身につける。 そして他者の発表を自らと比較しながらそれぞれの長所を見出し、深く理解できるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	探究ゼミノート50%、課題ごとのプレゼンテーションと最終レポート50%により成績評価し、総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	教育現場観察実習（初等）（FEP0Z110）
英文科目名	Observation Training for Elementary Schools
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）、小川孝司（おがわたかし）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、松岡律（まつおかたし）、山下浩之（やましたひろゆき）、紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	1 年
開講学期	通期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション・・・実習目的理解のための演習 (全教員)
2 回	事前演習(1)・・・観察視点の明確化 (全教員)
3 回	観察実習（施設観察・授業観察・活動観察） (全教員)
4 回	観察実習（施設観察・授業観察・活動観察） (全教員)
5 回	観察実習（施設観察・授業観察・活動観察） (全教員)
6 回	観察実習の振り返り演習(1) (全教員)
7 回	事前演習(2)・・・観察視点の明確化（発達段階に着目する） (全教員)
8 回	観察実習(2)（施設観察・授業観察・活動観察） (全教員)
9 回	観察実習(2)（施設観察・授業観察・活動観察） (全教員)
1 0 回	観察実習の振り返り演習(2) (全教員)
1 1 回	事前演習(3)・・・参加テーマの設定、確認 (全教員)
1 2 回	参加実習（学級経営・授業補助・学級活動） (全教員)
1 3 回	参加実習（学級経営・授業補助・学級活動） (全教員)
1 4 回	参加実習（学級経営・授業補助・学級活動） (全教員)
1 5 回	まとめを行う (全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んで授業予定を理解しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	観察対象についてよく考えておくこと。（標準学習時間60分）

3 回	学校の1日のスケジュールについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	前回の実習を踏まえて次回の課題を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	前回の実習を踏まえて次回の課題を整理しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	予期した観察イメージと現場との一致・ずれを明確に表現できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	学校教育と児童の発達段階との関係について調べ・考えておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	発達の観点から、児童の年齢的特徴を丁寧に観察できるように準備すること。（標準学習時間60分）
9 回	発達の観点から、児童の年齢的特徴を丁寧に観察できるよう準備にすること。（標準学習時間60分）
10 回	年齢に応じた発達の進行・特徴について観察したことを明確に表現できるようにしておくこと。（標準学習時間60分）
11 回	参加実習における自身の目標を考えておくこと。（標準学習時間60分）
12 回	半日参加におけるスケジュール（特に授業の）をよく理解しておくこと。（標準学習時間60分）
13 回	半日参加におけるスケジュール（特に授業の）をよく理解しておくこと。（標準学習時間60分）
14 回	半日参加におけるスケジュール（特に授業の）をよく理解しておくこと。（標準学習時間60分）
15 回	これまでの実習から得た知見をよく整理しておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	教職に向けた学修を開始するにあたり、小・中の教育現場をあらためて観察し、これまでの学習者の視点から教師の視点への“視点の転換”及び“教職への動機づけ”を主たる目的としている。（初等教育学科のディプロマポリシーBに最も強く関与する）
達成目標	教員の職務および学校運営について客観的に理解すること。
キーワード	教職 学校
成績評価（合格基準60	事前演習における小レポート（30%）、振り返り演習のレポート[礼状を含む]（70%）により評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職論
教科書	使用しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 各担当教員の研究室。
注意・備考	実習受け入れ校の事情により、実習内容に変化の生ずる場合がある。 実習時の時間・服装・態度等に細心の注意を払うこと。（問題のある者は実習に参加させない＝単位を取得できない）
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学 (再) (FEP1E110)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち)
対象学年	1 年
開講学期	春1
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科 (~17)
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2 回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3 回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4 回	静電気力を使った技術 (コピー機など) を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5 回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6 回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7 回	前回に引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供 (疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8 回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスをを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8 回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー (教養) をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験 (主に物理・化学分野) とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法 (クリッカー等のICT活用も含む) を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	1. 科学・技術全般に関心を持ち、学び続けようとする意欲をもつ。 2. 原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージを持ち、それを他者に説明できる。 3. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見を持ち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	科学・工作ボランティア入門【火3金3】(FEP1H110)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activities for Science and Technology
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 滝澤昇(たきざわのぼる), 山口一裕(やまぐちかずひろ)
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	火曜日 3時限 / 金曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2回	講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3回	発表会準備(1) 発表会の進行について説明する。班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4回	発表会準備(2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。発表会の内容を決定する。 (全教員)
5回	発表会準備(3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6回	発表会準備(4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7回	発表会準備(5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。(全教員) (全教員)
8回	発表会準備(6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9回	発表会準備(7) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける(予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
10回	発表会準備(8) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。 (全教員)
11回	発表会準備(9) 発表会の準備を完了させる。 (全教員)
12回	発表会(1) 発表会で発表する。12回目~14回目は土曜日に連続して行う。 (全教員)
13回	発表会(2) 他班の発表を聞いて相互評価を行う。

	(全教員)
14回	発表会(3) 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。発表会の片づけを行う。
	(全教員)
15回	この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	紹介したウェブサイトを読み、閲覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べること。(標準学習時間120分)
8回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9回	予行演習の準備を行うこと。(標準学習時間60分)
10回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
11回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
12回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。発表会当日の会場設営・準備に参加すること。(12回目～14回目の合計の標準学習時間180分)
13回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
14回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
15回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えてくること。(標準学習時間60分)

講義目的	近年、市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されるようになった。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。 まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学园内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につける。同時に、社会人として必要となるコミュニケーション力等の汎用的な能力の向上も目指す。グループ内での討論、教員への報告、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。(初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し、これに積極的に参加する意欲をもつ。 2. 科学ボランティア活動を行う上で最低限必要となる知識・能力を身につける。 3. 科学・技術全般に関心をもつ。 4. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
成績評価(合格基準60)	レポートの内容(70%)、発表会の内容(30%)によって評価する。発表会の評価には、受講生相互の評価も加味する。
関連科目	科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。

参考書	「ものづくりハンドブック 1~7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、発表会は土曜日に行う。 ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・本講義は科学ボランティアリーダー資格認定の必修の講義である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	探究活動（FEP1X110）
英文科目名	Investigation Activities I
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）、紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	1年
開講学期	春1
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、観察の視点の持ち方や事象へのアプローチの方法を、事例を基にして説明する。 （全教員）
2回	標本作製の目的や手順を十分に理解した上で、本キャンパス内の木本植物で葉の標本作製を行う。 （全教員）
3回	十分に乾燥させた標本を冊子にし、葉の特徴や標準和名・学名等を記載した後、フィールドに出て実際の植物の外観を観察する。 （全教員）
4回	キャンパス内で観察される木本植物を選択し、その植物についての解説をグループごとにプレゼンテーション方式で行う。 （全教員）
5回	地域調査、およびフィールドワークの意味を理解し、追求するテーマを設定する。調査活動についての計画の立案をする。（場所、データ収集の観点、準備物等） （全教員）
6回	計画をもとにフィールドワークを行う。 （全教員）
7回	グループごとにフィールドワークの結果を地図にまとめ、発表する。（ワークショップ形式） （全教員）
8回	フィールドワークと実地調査を振り返り探究活動の意義について話し合う。最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。 （全教員）

回数	準備学習
1回	第2回までに両担当の講義概略を確認しておくこと。（60分）
2回	第2回の準備物として水彩画用の平筆または大筆、木工用ボンド、新聞紙1枚が必要。植物図鑑でキャンパス内の植物が大まかに同定できるようにしておくこと。（60分）
3回	第4回のプレゼンテーションに備えて、最低5本のTEDを視聴し、学習した点を記録すること。（60分）
4回	木本植物をあらかじめ決定しておき、第4回のプレゼンテーションの準備を十分に行うこと。（60分）
5回	フィールドワークの観点を設定できるように、岡山理科大学構内、および周辺の地図を概観しておくこと。（60分）
6回	第1回フィールドワークの目的やコース、収集すべき情報をグループで確認しておくこと。（60分）
7回	フィールドメモをもとに、フィールドノーツを作成すること。（100分）
8回	フィールドワークや実地調査の意義や手法、分析について復習しておくこと。（120分）

講義目的	教師に求められる実践的指導力は、科学的、客観的態度で物事の本質を追究し続ける力が基盤となっている。この授業では課題に気づき、考え、理解し、発信する学習サイクルを重視し、そのために必要な探究する力と言葉の力を培うための基礎能力をアクティブラーニングによって養うことを目標とする。（この講義は初等教育学科の学位授与方針のE・C・Dに強く関与する）
達成目標	環境に恵まれた本学周辺エリアの自然・文化・歴史等について理解を深め、グループ単位でテ

	ーマを設定することができる。(E) 観察や見学，調査・討論などの他者と協同して問題を解決するための活動の方法や思考法を身につける。(C) グループ単位でプレゼンテーションを行い，成果を共有するとともに批判的な視点から議論を深めることができる。(D)
キーワード	探究する力・言葉の力
成績評価（合格基準60	最終評価試験 50%（主に達成目標 1・2 を評価），プレゼンテーション 40%（主に達成目標 2・3 を評価），レポート 10%（主に達成目標 1 を評価）により評価し，総計で得点率 60%以上を合格とする。
関連科目	探究活動 A、探究活動 B、探究活動 C
教科書	指定しない。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 紙田研究室、1 0 F 山下研究室
注意・備考	・探究活動 は主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の意義と基本的な方法を習得するための講義である。自ら進んで参加する姿勢をもって講義に臨むこと。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。 ・講義中の録音，録画，撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	現代人の科学 (FEP2W110)
英文科目名	Science Literacy I
担当教員名	高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	春2
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	この講義の概要を説明する。原子論について説明する。気体や結晶などを例に、原子論的な捉え方の有用性を解説する。
2回	様々な物質の電気伝導性、自由電子について説明する。物質の電気伝導性と磁性の関係を整理する。
3回	電気回路についての様々な現象を自由電子のイメージで理解できることを示す。原子の世界を支配する静電気力について説明する。
4回	静電気力を使った技術(コピー機など)を紹介する。イオンおよびイオンを題材とした物質の循環について説明する。
5回	イオンに関連して酸とアルカリについて復習する。人体を構成している物質について説明する。DNAの生体内での役割について説明する。生体内での物質の代謝について説明する。
6回	核反応および放射線について概説する。原子力発電を題材に科学と社会の関係について考える。原子力発電について、受講生間で意見交換する。
7回	前回到引き続き、原子力発電について受講生間で意見交換する。多面的なデータに基づいて判断することの重要性を説明する。科学的な見方・考え方についての話題提供(疑似科学など)、受講生間で意見交換する。
8回	この授業の全体について振り返る。科学を学び続けるためのアドバイスを行う。最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。高校までに学習してきた原子について復習しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	前回配布された資料等を読んで、原子論について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
3回	前回配布された資料等を読んで、物質の電気伝導性と磁性について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
4回	前回配布された資料等を読んで、電気回路と静電気力について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
5回	前回配布された資料等を読んで、イオン、物質の循環について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
6回	前回配布された資料等を読んで、酸・アルカリ、人体を構成している物質とその代謝について復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間60分)
7回	前回配布された資料等を読んで、核反応、放射線、原子力発電のしくみについて復習し、Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。原子力発電のメリット・デメリットについて自ら調べ、自分なりの意見をまとめておく。(標準学習時間180分)
8回	この授業全体について復習をしておくこと。Momo-campusで出題された問題を解いておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	現代の科学技術文明社会を生きる市民は、よりよい判断を行うために一定の科学リテラシー(教養)をもつことが望ましい。同時に、科学の楽しさを知ることは、人生を豊かにしてくれる。本講義では、身の回りの材料を使った演示実験(主に物理・化学分野)とその解説などを通じて、自然科学を学び続けるために役立つ科学リテラシーの基礎を伝えとともに、受講生の自然科学への興味・関心を高めることを目指す。また、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方について話題提供し、受講生間で意見交換もしながら、自分なりの意見を持てるようにする。科学についての基礎知識の修得を前提とせず、わかりやすい説明に徹する。また、可能な限り双方向的な授業手法(クリッカー等のICT活用も含む)を取り入れて、学生の能動的な学修を促す。(理科教育センター開講科目の単位認定方針Bに強く関与)
達成目標	1. 科学・技術全般に関心を持ち、学び続けようとする意欲をもつ。 2. 原子論、物質循環、DNAなどの現代科学の重要概念について一定のイメージを持ち、それを他者に説明できる。 3. 科学と社会の関係や科学的な見方・考え方について自分の意見を持ち、それを他者に説明で

	きる。
キーワード	科学リテラシー、原子論、物質循環、DNA、科学と社会の関係、科学的な見方・考え方
成績評価（合格基準60	課題提出状況（65%）および最終評価試験の点数（35%）によって評価する。
関連科目	他の科学技術教育科目
教科書	特になし
参考書	授業中に指示する。
連絡先	高原周一（教育学部初等教育学科、A1号館3階319、e-mail：takahara[アトマーク]ped.ous.ac.jp）
注意・備考	・本科目は教育学部の専門科目「現代人の科学」と同時開講で、文系学生の受講を念頭に置いた内容である。 ・「現代人の科学」との合計の受講希望者が100名を超える場合は、「現代人の科学」の受講生（教育学部生）および経営学部生の受講を優先し、それ以外の学部の学生に対して受講を制限する可能性がある。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループディスカッションを行う。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・Momo-campusで出題した確認テストは自動採点され結果がフィードバックされる。Momo-campus経由で出された意見・質問については、Momo-campus上で回答するとともに、主なものは次の講義で紹介するという形でフィードバックを行う。
試験実施	実施する

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP3R110)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 滝澤昇(たきざわのぼる), 高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具を準備・作製し、予備実験を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 予備実験の続きを行う。発表会での実験の流れと役割分担を決める。プレゼンテーションの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。教員の指導を参考に発表内容を修正する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。発表会の総括、事後自己評価、授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	発表会での実験の流れと役割分担について考えておくこと。プレゼンテーションについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	予行演習の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベント(例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など)で科学ボランティア活動を2時間以上実践する(主にブース出展形式)。この科学ボランティア
------	--

	活動を安全かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が事前・事後指導を行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学イベントへのブースの出展が、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできるようになる。 3) 科学イベントへのブースの出展に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60）	個人評価：各自作成する毎回活動レポートとポートフォリオを担当教員が評価する（40%）。科学イベントでの科学ボランティア体験の活動報告書(10%)と事後自己評価(10%)。 班評価：科学イベントでの教員評価(20%)と受講生相互の評価(20%)。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは理学部基礎理学科 山口一裕（D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp）
注意・備考	・受講希望者が40名を超える場合は、ガイダンス（初回講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスの講義には必ず出席すること。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に休日に行われる。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー認定制度については、以下のサイトに説明がある。 http://ridai-svc.org ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP3Z110)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities I
担当教員名	山口一裕(やまぐちかずひろ), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 滝澤昇(たきざわのぼる), 高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	1年
開講学期	秋1
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス(講義内容と進め方の説明)理科大学認定資格:科学ボランティアリーダーとは? 出展可能な科学イベント(科学博物館など)の紹介をする。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員を決定する。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1) チーム毎に他のメンバーに書籍紹介を行う。出展内容を決定する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2) 実験器具を準備・作製し、予備実験を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3) 予備実験の続きを行う。発表会での実験の流れと役割分担を決める。プレゼンテーションの準備を行う。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4) 発表会予行演習を行う。教員の指導を参考に発表内容を修正する。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
7回	科学イベント準備(5) 発表会準備をほぼ完了させる。事前レポートと実験配布資料(実験書)を完成させる。毎回活動レポートを作成する。 (全教員)
8回	科学イベントを実施する(科学博物館などの科学イベント)。発表会レポート作成と相互評価を実施する。発表会の総括、事後自己評価、授業アンケートを実施する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスを読んで授業内容と科学ボランティアリーダーについて理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回授業で紹介された科学イベントでどのような実験をしたいかを考えておくこと。関心のある分野の自然科学の書籍を読んでおくこと。(標準学習時間180分)
3回	実験内容決定のための情報を書籍やインターネットで収集しておくこと。(標準学習時間180分)
4回	実験に必要な器具や予備実験の内容を考えておくこと。(標準学習時間120分)
5回	発表会での実験の流れと役割分担について考えておくこと。プレゼンテーションについて考えておくこと。(標準学習時間120分)
6回	予行演習の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
7回	事前レポートと実験配布資料(実験書)作成の準備をしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	チーム内での科学イベント発表会の事前準備をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベント(例えば本学の大学祭企画「科学博物館」など)で科学ボランティア活動を2時間以上実践する(主にブース出展形式)。この科学ボランティア
------	--

	活動を安全かつ効果的に実施できるよう、主にチームごとに決めた指導教員が事前・事後指導を行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学イベントへのブースの出展が、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできるようになる。 3) 科学イベントへのブースの出展に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	地域での実践 科学博物館 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	個人評価：各自作成する毎回活動レポートとポートフォリオを担当教員が評価する（40%）。科学イベントでの科学ボランティア体験の活動報告書(10%)と事後自己評価(10%)。 班評価：科学イベントでの教員評価(20%)と受講生相互の評価(20%)。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	科学ボランティアセンター（B4号館1階）もしくは理学部基礎理学科 山口一裕（D2号館1階、e-mail:kyamaguchi〔アトマーク〕das.ous.ac.jp）
注意・備考	・受講希望者が40名を超える場合は、ガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板に張り出す。 ・科学イベント準備の日時はチームごとに担当教員と相談して決定する。 ・科学イベントは基本的に休日に行われる。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定の必修科目である。科学ボランティアリーダー認定制度については、以下のサイトに説明がある。 http://ridai-svc.org ・科学ボランティアリーダー養成科目は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	図画工作科内容論（FEP5A210）
英文科目名	Arts and Handicrafts
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の計画とその進め方の説明をする。 検定教科書の変遷について説明する。
2 回	図画工作科教育のあゆみを説明する。
3 回	学習指導要領の変遷を説明する。
4 回	図画工作科の意義と目的を説明する。
5 回	教科目標と内容の構成を説明する。
6 回	表現（１）「造形遊び」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
7 回	表現（２）「絵に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
8 回	表現（２）「立体に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
9 回	表現（２）「工作に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
10 回	鑑賞の学習指導（目的と内容等）について説明する。また、ここまでの講義内容（教科の内容）について振り返るとともに、ここまでの講義内容について中間的な評価をするためのテストを実施する。
11 回	学習指導要領と検定教科書の題材配列（発達と学びの連続性）について説明する。
12 回	地域の特性を生かしたカリキュラム（特色ある学校づくり，学級づくり）について説明する。
13 回	指導の実際と評価について説明する。
14 回	図画工作科の基礎知識（用語、備品、用具、デジタル機器の活用例）について解説する。
15 回	振り返りと総括をする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	次期学習指導要領総則と第7節図画工作科（文科省ホームページ参照）を読み、教科目標や領域の内容の大体を把握しておくこと。 （標準学習時間60分）
2 回	検定教科書の変遷について復習し、その概要が説明できるようにしておくこと。 自分の小学生時の図画工作の授業を想起し、描いたり、つくったりしたものを用いた材料や道具、実施学年とともにまとめること。 （標準学習時間60分）
3 回	図画工作科教育がどのような経緯を経て現在に至っているか復習すること。 現行の学習指導要領総則と次期学習指導要領総則を比較し、相違点をまとめること。（文科省ホームページ参照） （標準学習時間60分）
4 回	学習指導要領において図画工作科がどのような経緯を経て現在に至っているか復習すること。 自分の経験をもとに、図画工作科で培われる力を考え、理由をつけて説明できるようまとめること。（標準学習時間90分）
5 回	教科の意義と目的について復習する。 次期学習指導要領第7節図画工作科を読み、教科目標と各学年の目標をまとめること。 （標準学習時間90分）
6 回	教科目標と内容を復習すること。 表現（１）「造形遊び」の学習指導について、教科書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。 （標準学習時間90分）
7 回	表現（１）「造形遊び」の学習指導について、復習すること。 表現（２）「絵に表す」の学習指導について、教科書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。 （標準学習時間90分）
8 回	表現（２）「絵に表す」の学習指導について、復習すること。 表現（２）「立体に表す」の学習指導について、参考書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。

	めておくこと。 (標準学習時間 90 分)
9 回	表現 (2) 「立体に表す」の学習指導について、復習すること。また、 表現 (2) 「工作に表す」の学習指導について、参考書や配布資料等で、目標や題材についてま とめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
10 回	教科の意義や教科目標、表現 (1) (2) の学習指導について復習すること。(中間テストの内容) 鑑賞の目標について、教科書や配布資料等でまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
11 回	鑑賞の学習指導について復習すること。 配付資料 (教科書題材配列) を見て、どのような題材があるか領域のいずれかについてまとめてお くこと。(標準学習時間 90 分)
12 回	検定教科書の題材配列と系統性について復習すること。 地域の特性を生かしたカリキュラムにはどのような題材があるか自分の経験や参考書等で説明でき るようにまとめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
13 回	地域の教材について復習すること。 評価の観点や本教科での評価の特徴について教科書等を読み、まとめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
14 回	指導の実際と評価について復習すること。 図画工作科の授業で使う道具や用具、デジタル機器を使った題材にはどんなものがあるか教科書等 で調べ、まとめておくこと。 (標準学習時間 60 分)
15 回	1 回から 14 回までの内容をよく理解し、整理すること。 総括としての話し合いで、本教科に対する自分の考えが発言できるようにまとめておくこと。 (標準学習時間 100 分)
16 回	1 回から 15 回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 (標準学習時間 180 分)

講義目的	図画工作科の意義や目的、教科内容を正しく理解し、学校現場での指導において、題材 (単元) の 指導的意義を把握しながら、主体的かつ創造的に年間指導計画を立てたり、児童の実態に応じた指 導の工夫をしたりすることのできる力を養うことを目的とする。その方法として、学習指導要領に 挙げられている教科の内容と検定教科書に提示されている題材と児童の実際の表現活動を照らし合 わせながら講義をする。初等教育学科の学位授与の方針 A1 に関連する科目である。
達成目標	図画工作科についての歴史的変遷について講義し、その理解を深める (A)。 学習指導要領解説図画工作編について講義し、教科の目標、内容、児童の発達と題材につ いて理解を深める (A)。 地域の特性を生かした題材についての講義を行い、校区の自然環境や文化財等の生かし方 について理解を深める (A)。 図画工作科で使用する道具や用具、デジタル機器について講義し、学校備品についての知 識やデジタル機器を使った授業の実際についての理解を深める (A)。
キーワード	教科目標と内容、題材と使用する道具、表現における児童の発達
成績評価 (合格基準 60)	毎時間ごとのワークシートの内容 20 %、中間テスト 30 %、最終評価試験 50 % により成績を評 価し、総計で 60 % 以上を合格とする。ただし、最終評価試験においては、60 点以上を合格とし 、それ未満は不合格とする。
関連科目	図画工作科教育法 教材分析・開発演習 C
教科書	「図画工作科の指導と学び」村田利裕・新関伸也編 ミネルヴァ書房 今春出版予定
参考書	平成 20 年度学習指導要領解説 図画工作編 小学校図画工作科教科書 (日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1 号館 9 階妻藤研究室
注意・備考	・この講義では、内容に応じてグループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または解説によるフィードバック を行う。 ・講義資料を講義開始時、または講義途中に配布する。特別な事情がない限り、後日配布は しない。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談す ること。
試験実施	実施する

科目名	初等音楽科内容論 (FEP5B110)
英文科目名	Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。小学校における音楽の役割を考え、音楽指導を行うためにどのような音楽の知識・技術が必要なのかを説明する。
2 回	音の長さ（音符と休符、リズムにのろう）：音の長さを表す方法を説明する。
3 回	音の高さ（音名あそび、イロハうた、ドレミのうた）：音の高さを表す方法を説明する。
4 回	音程（全音と半音、長短・完全系の音程）：音同士の関係を説明する。
5 回	音階と調（長音階、調あてクイズ）：長音階と長調のしくみを説明する。
6 回	音階と調（短音階、調あてクイズ）：短音階と短調のしくみを説明する。
7 回	和音（長 3 和音と短 3 和音）：和音の構造を説明する。
8 回	これまで学んだ音楽理論を復習する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
9 回	コードネームを弾いてみよう（コードの基本）：コード記号を用いて演奏する方法を説明する。
1 0 回	コードネームで伴奏してみよう（メジャーコード）：メジャーコードの曲の伴奏付けを説明する。
1 1 回	コードネームで伴奏してみよう（マイナーコード）：マイナーコードの曲の伴奏付けを説明する。
1 2 回	移調（調をかえてみよう、移調リレー）：移調の方法を説明する。
1 3 回	いろんな調で弾いてみよう：移調の実践方法を説明する。
1 4 回	これまでの学習を総合し、グループ創作発表会に向けた準備について説明する。
1 5 回	グループ創作発表会を実施する。発表会終了後、発表内容について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	小学校でどのような音楽活動を行ったかを思い出ししておくこと。シラバスに目を通し、学習の流れを把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	第1回の授業内容を復習し、自分の身のまわりの様々な音や音楽について考えたことを記述しておくこと。（標準学習時間80分）
3 回	第2回の授業内容を復習し、リズム打ち課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
4 回	第3回の授業内容を復習し、音高に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
5 回	第4回の授業内容を復習し、音程に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
6 回	第5回の授業内容を復習し、長調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
7 回	第6回の授業内容を復習し、短調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
8 回	第7回の授業内容を復習し、和音に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
9 回	第8回の授業内容を復習し、これまでの学習内容に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 0 回	第9回の授業内容を復習し、コード記号に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 1 回	第10回の授業内容を復習し、メジャーコードに関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 2 回	第11回の授業内容を復習し、マイナーコードに関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 3 回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	第13回までの授業内容を復習し、コードネーム・移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 5 回	これまでの学習を総括し、グループ発表会に向けて準備すること。（標準学習時間180分）
1 6 回	最終評価試験に向けて、これまでの授業内容を復習し、よく理解・整理しておくこと。

講義目的	小学校で音楽指導を行うために必要な音楽の知識および技術を修得するとともに、音楽することの意味や楽しさを深く認識することを目的とする。歌唱・ソプラノリコーダーや打楽器を用いた器楽合奏・身体表現活動などとおして、実践的に学ぶ。期の終わりにはグループでの創作発表会を行い、学習の成果を確認する。（初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する）
------	---

達成目標	基本的な楽譜の読み書きができる。 楽譜に示されたリズムや音程に従って演奏することができる。 音楽を形づくっている要素について説明することができる。 コードネームをもとに簡易伴奏することができる。 移調して演奏することができる。 グループ内で協調して学習を進めることができる。
キーワード	音楽理論、読譜、コードネーム
成績評価（合格基準60）	中間試験（20％）、最終評価試験（40％）、グループ発表の内容（25％）、平素の授業での提出課題（15％）によって総合的に評価する。
関連科目	ピアノ奏法Ⅰ、ピアノ奏法Ⅱ
教科書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』／全国大学音楽教育学会 九州地区学会編著／カワイ出版
参考書	『5訂版 歌はともだち』／教育芸術社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 その他、適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 井本研究室
注意・備考	・この講義では、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。 ・授業中の活動に集中して取り組むこと。復習をしっかりとすること。 ・ソプラノリコーダーを使用するので、持っている人は準備しておくこと。 ・「音楽に自信がない」「楽譜が読めない」人は、この授業で学んで自信をつけてください。
試験実施	実施する

科目名	教材分析・開発演習 A (国語・社会・家庭) (FEP5B210)
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials A (Japanese, Social Studies, Home Economics)
担当教員名	小川孝司(おがわたかし), 紙田路子(かみたみちこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	授業のビデオを視聴し、教材開発や学習指導案作成の重要性について説明する。 (小川 孝司)
2 回	第 1 回講義で視聴した文学的文章について、「学習材」の内容等の分析研究の方法や内容的価値、言葉の力等について説明する。 (小川 孝司)
3 回	前時の分析研究をもとに、「教師」の指導の的方法的研究及び単元の目標や単元の指導計画について説明する。 (小川 孝司)
4 回	実際の説明的文章について、学習材の内容等の分析研究の方法や内容的価値、言葉の力等について説明する。 (小川 孝司)
5 回	前時の分析研究をもとに、「教師」の指導の的方法的研究及び単元の目標や単元の指導計画について説明する。 (小川 孝司)
6 回	代表による文学的文章及び説明的文章の模擬授業を視聴し、授業と教材研究の関係等について説明する。 (小川 孝司)
7 回	社会科において育成すべき資質・能力をもとに教育内容を構成する「単元マネジメント」の意義を理解し、社会科の教材分析について見通しを持つ。 (紙田 路子)
8 回	「単元マネジメント」の観点をもとに、社会科授業の指導案(単元計画)の構成(目標・教材観・指導観・単元計画)について分析し、評価する。 (紙田 路子)
9 回	「単元マネジメント」の観点を生かし、単元「開国が日本にもたらしたもの」及び「日本の水産業」を題材に単元計画を作る。(演習) (紙田 路子)
10 回	グループで社会科授業の指導案(単元計画)を作成し、「単元マネジメント」の観点からチェックする。 (紙田 路子)
11 回	社会科授業の指導案(単元計画)を発表し、「単元マネジメント」の観点から互いに評価し、意見を交換する。 (紙田 路子)
12 回	現場教師が作成した社会科学習指導案を「単元マネジメント」の観点に従って分析・評価する。 (紙田 路子)
13 回	家庭科において育成すべき能力について説明し、魅力ある家庭科授業づくりに向けた指導計画のあり方について検討する。

	(原田 省吾)
1 4 回	家庭科の授業づくりのポイントを踏まえ、グループで家庭科の単元計画・指導案を作成する。
	(原田 省吾)
1 5 回	家庭科の単元計画・学習指導案を発表し、家庭科の授業づくりのポイントに照らして評価し、意見を交換する。
	(原田 省吾)
1 6 回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の講義で配付した文学的文章の文章構造図をまとめ、作品の内容や表現等について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前時の分析的研究をもとに、「単元構成について」「指導について」をまとめ、指導の方法について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	前回の講義で配付した説明的文章の文章構造図をまとめ、作品の内容や表現等について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前時の分析的研究をもとに、「単元構成について」「指導について」をまとめ、指導の方法について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	教材研究した文学的文章及び説明的文章について、第2次授業場面の本時学習指導案を作成しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	中央教育審議会答申の「第4章学習指導要領等の枠組みの改善と『社会に開かれた学習過程』」を読み、単元開発の基本的な方針について理解しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回の講義で配布した「社会科授業指導案」を読み、内容構成、および「知識の構造」について把握し、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の講義で配布した単元開発に関わる資料(教科書教材)を読み、知識の構造図を作成しておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	単元開発に必要な資料を収集しておくこと。(標準学習時間90分)
1 1 回	発表の準備・分担・練習を進めておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	事前に配布した複数の社会科指導案を読み、「単元マネジメント」の観点に従って自分の意見をまとめておく。(標準学習時間120分)
1 3 回	「小学校学習指導要領家庭編」第3章を読み、家庭科の指導に当たって留意すべき点を把握しておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	教科用図書を読んで単元全体のイメージを持つとともに、単元計画や指導案作成のための資料を収集しておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	単元計画・学習指導案を整え、発表の準備・分担・練習を進めておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	各教科における教材観・指導官・単元計画の作成のポイントと方法について復習しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	国語科、社会科、家庭科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、「学習材」の内容等の分析的研究や、「教師」の指導の的方法的研究等に取り組む。また、その研究を学習指導案にまとめるといったグループによる検討や共同作業が中心となる。こうした講義を通して、教材開発及び学習指導案作成の方法を実践的に身に付けることを目的とする。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のA・B・Cに強く関与する)
達成目標	教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析・再構成ができる。(A) 課題設定・情報収集・情報の分析、吟味、再構成という学習過程にそった単元計画を作成することができる。(C) 教材開発、および単元開発を通して単元マネジメントの意義や役割について理解できる。(B)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、開かれた教育課程、主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)
成績評価(合格基準60)	定期試験60%(主に達成目標1・3を評価)、レポート40%(主に達成目標2を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	初等国語科内容論、初等国語科教科法、初等社会科内容論、初等社会科教育法、初等家庭科内容論、初等家庭科指導法
教科書	小学校学習指導要領社会科編/文部科学省/東洋館出版社/平成20年 小学校学習指導要領国語科編/文部科学省/東洋館出版社/平成20年

参考書	
連絡先	A 1 号館 9 F 紙田研究室 A 1 号館 9 F 小川研究室 A 1 号館 9 F 原田研究室
注意・備考	・ 小学校国語科、社会科、家庭科の教科用図書（教科書）に目を通し、教材の概要について把握しておくことが望ましい。 ・ 実際に教育現場において、指導案及び単元計画を作成することを念頭に置き、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・ 指導計画は受講状況により変更することがある。 ・ 試験は最終評価試験中に行う。 ・ 講義中の録音，録画，撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	特別活動の理論と方法（初等）【月2集中】（FEP5B310）
英文科目名	Theory and Approach of Special Activities (Primary)
担当教員名	尾島卓*（おじまたく*）, 松田智子*（まつだともこ*）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (尾島 卓*)
2 回	学校教育課程の構造と特別活動の役割 (尾島 卓*)
3 回	教育実践の歴史性と特別活動の役割 (尾島 卓*)
4 回	特別活動の目標と内容 1 : 学級活動の教育的意義 (尾島 卓*)
5 回	特別活動の目標と内容 2 : 児童会活動の教育的意義 (尾島 卓*)
6 回	特別活動の目標と内容 3 : 学校行事の教育的意義 (尾島 卓*)
7 回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義 1 : 人間関係の現状を中心に (尾島 卓*)
8 回	現代の発達課題と特別活動の今日的意義 2 : 人間関係の現状を中心に (尾島 卓*)
9 回	特別活動の歴史的変遷 1 : 学習指導要領の変遷 (尾島 卓*)
1 0 回	特別活動の歴史的変遷 2 : H29学習指導要領を中心に (尾島 卓*)
1 1 回	学級活動の理論の具体化について (松田 智子*)
1 2 回	児童会活動の理論の具体化について (松田 智子*)
1 3 回	学校行事の理論と具体化について (松田 智子*)
1 4 回	クラブ活動の理論の具体化について (松田 智子*)
1 5 回	特別活動が学校教育での果たす役割を実践面でまとめる (松田 智子*)

回数	準備学習
----	------

1 回	以下の観点から被教育体験を想起しておくこと。 義務教育段階の学校生活のうち最も心に残っている教科学習以外の体験 (標準学習時間60分、以下同じ)
2 回	教科書 5 ～ 1 9 ページを事前に読んでおくこと。
3 回	第 2 回配付資料を事前に読んでおくこと。
4 回	教科書 2 4 ～ 2 8 ページを事前に読んでおくこと。
5 回	教科書 2 9 ～ 3 2 ページを事前に読んでおくこと。
6 回	第 5 回配布資料を事前に読んでおくこと。
7 回	第 6 回配布資料を事前に読んでおくこと。
8 回	第 7 回配布資料を事前に読んでおくこと。
9 回	第 8 回配布資料を事前に読んでおくこと。
1 0 回	インターネットを利用して、次期小学校学習指導要領の特別活動を一読しておくこと
1 1 回	教科書の実践編の学級活動の指導案について 目を通し自分ならどうするかを考えること
1 2 回	教科書の実践編の児童会(生徒会)活動の 指導案に目を通し自分の考えをもっておくこと
1 3 回	教科書の実践編の学校行事の指導案について 目を通し目標と関連付けて考えをもつこと
1 4 回	教科書の実践編のクラブ活動の指導案について目を通し自分の考えをもっておくこと
1 5 回	教科書の理論編を読んでもくる

講義目的	本講では、特別活動についての基礎的知識を習得し、学校教育の中でどのように展開するのか、どのような意義を持ち、どのような課題があるのか、児童にどのような力を備えさせるべきかを学習する。特に、特別活動の内容の中で、その中核的な役割を果たしている「学級活動」を具体的に指導できる学級担任としての実践的力量を習得することに留意する。
達成目標	(1) 特別活動の意義と役割、目標を理解する。 (2) 特別活動の内容と特質を理解する。 (3) 学級担任としての学級づくり(学級経営)の視点から、児童の発達特性や社会文化の変化について理解する。 (4) 特別活動の具体的な活動を理解する
キーワード	
成績評価(合格基準60)	合格基準は60点とする。配点は、講義出席50%、講義中に課す小レポート20%および最終レポート30%の割合で評価する
関連科目	
教科書	文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター(著)『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)』文溪堂、2014年 ERP出版 コードISBN978-4-907104-43-6 2018年2月 800円 特別活動の指導法ー各教科、道徳、総合的な学習の時間の連携を通してー 著者 松田智子、新川靖、林真太郎
参考書	船越勝・宮本誠貴他『共同グループを育てる 今こそ集団づくり』クリエイツかもがわ、2002年(2200円)。 篠崎純子・溝部清彦『子どもとの対話に強くなる がちゃがちゃクラスをガラッと変える』高文研、2006年(1300円) 湯浅恭正『困っている子と集団づくり』クリエイツかもがわ、2008年(1905円)
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	図画工作科内容論（FEP5C210）
英文科目名	Arts and Handicrafts
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	講義の計画とその進め方の説明をする。 検定教科書の変遷について説明する。
2 回	図画工作科教育のあゆみを説明する。
3 回	学習指導要領の変遷を説明する。
4 回	図画工作科の意義と目的を説明する。
5 回	教科目標と内容の構成を説明する。
6 回	表現（１）「造形遊び」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
7 回	表現（２）「絵に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
8 回	表現（２）「立体に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
9 回	表現（２）「工作に表す」の学習指導（目的と内容等）について説明する。
10 回	鑑賞の学習指導（目的と内容等）について説明する。また、ここまでの講義内容（教科の内容）について振り返るとともに、ここまでの講義内容について中間的な評価をするためのテストを実施する。
11 回	学習指導要領と検定教科書の題材配列（発達と学びの連続性）について説明する。
12 回	地域の特性を生かしたカリキュラム（特色ある学校づくり，学級づくり）について説明する。
13 回	指導の実際と評価について説明する。
14 回	図画工作科の基礎知識（用語、備品、用具、デジタル機器の活用例）について解説する。
15 回	振り返りと総括をする。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	次期学習指導要領総則と第 7 節図画工作科（文科省ホームページ参照）を読み、教科目標や領域の内容の大体を把握しておくこと。 （標準学習時間 60 分）
2 回	検定教科書の変遷について復習し、その概要が説明できるようにしておくこと。 自分の小学生時の図画工作の授業を想起し、描いたり、つくったりしたものを用いた材料や道具、実施学年とともにまとめること。 （標準学習時間 60 分）
3 回	図画工作科教育がどのような経緯を経て現在に至っているか復習すること。 現行の学習指導要領総則と次期学習指導要領総則を比較し、相違点をまとめること。（文科省ホームページ参照） （標準学習時間 60 分）
4 回	学習指導要領において図画工作科がどのような経緯を経て現在に至っているか復習すること。 自分の経験をもとに、図画工作科で培われる力を考え、理由をつけて説明できるようまとめること。（標準学習時間 90 分）
5 回	教科の意義と目的について復習する。 次期学習指導要領第 7 節図画工作科を読み、教科目標と各学年の目標をまとめること。 （標準学習時間 90 分）
6 回	教科目標と内容を復習すること。 表現（１）「造形遊び」の学習指導について、教科書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。 （標準学習時間 90 分）
7 回	表現（１）「造形遊び」の学習指導について、復習すること。 表現（２）「絵に表す」の学習指導について、教科書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。 （標準学習時間 90 分）
8 回	表現（２）「絵に表す」の学習指導について、復習すること。 表現（２）「立体に表す」の学習指導について、参考書や配布資料等で、目標や題材についてまとめること。

	めておくこと。 (標準学習時間 90 分)
9 回	表現 (2) 「立体に表す」の学習指導について、復習すること。また、 表現 (2) 「工作に表す」の学習指導について、参考書や配布資料等で、目標や題材についてま とめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
10 回	教科の意義や教科目標、表現 (1) (2) の学習指導について復習すること。(中間テストの内容) 鑑賞の目標について、教科書や配布資料等でまとめておくこと。 (標準学習時間 120 分)
11 回	鑑賞の学習指導について復習すること。 配付資料 (教科書題材配列) を見て、どのような題材があるか領域のいずれかについてまとめてお くこと。(標準学習時間 90 分)
12 回	検定教科書の題材配列と系統性について復習すること。 地域の特性を生かしたカリキュラムにはどのような題材があるか自分の経験や参考書等で説明でき るようにまとめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
13 回	地域の教材について復習すること。 評価の観点や本教科での評価の特徴について教科書等を読み、まとめておくこと。 (標準学習時間 90 分)
14 回	指導の実際と評価について復習すること。 図画工作科の授業で使う道具や用具、デジタル機器を使った題材にはどんなものがあるか教科書等 で調べ、まとめておくこと。 (標準学習時間 60 分)
15 回	1 回から 14 回までの内容をよく理解し、整理すること。 総括としての話し合いで、本教科に対する自分の考えが発言できるようにまとめておくこと。 (標準学習時間 100 分)
16 回	1 回から 15 回までの内容をよく理解し、整理しておくこと。 (標準学習時間 180 分)

講義目的	図画工作科の意義や目的、教科内容を正しく理解し、学校現場での指導において、題材 (単元) の 指導的意義を把握しながら、主体的かつ創造的に年間指導計画を立てたり、児童の実態に応じた指 導の工夫をしたりすることのできる力を養うことを目的とする。その方法として、学習指導要領に 挙げられている教科の内容と検定教科書に提示されている題材と児童の実際の表現活動を照らし合 わせながら講義をする。初等教育学科の学位授与の方針 A1 に関連する科目である。
達成目標	図画工作科についての歴史的変遷について講義し、その理解を深める (A)。 学習指導要領解説図画工作編について講義し、教科の目標、内容、児童の発達と題材につ いて理解を深める (A)。 地域の特性を生かした題材についての講義を行い、校区の自然環境や文化財等の生かし方 について理解を深める (A)。 図画工作科で使用する道具や用具、デジタル機器について講義し、学校備品についての知 識やデジタル機器を使った授業の実際についての理解を深める (A)。
キーワード	教科目標と内容、題材と使用する道具、表現における児童の発達
成績評価 (合格基準 60)	毎時間ごとのワークシートの内容 20 %、中間テスト 30 %、最終評価試験 50 % により成績を評 価し、総計で 60 % 以上を合格とする。ただし、最終評価試験においては、60 点以上を合格とし 、それ未満は不合格とする。
関連科目	図画工作科教育法 教材分析・開発演習 C
教科書	「図画工作科の指導と学び」村田利裕・新関伸也編 ミネルヴァ書房 今春出版予定
参考書	平成 20 年度学習指導要領解説 図画工作編 小学校図画工作科教科書 (日本文教出版・開隆堂)
連絡先	A1 号館 9 階妻藤研究室
注意・備考	・この講義では、内容に応じてグループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または解説によるフィードバック を行う。 ・講義資料を講義開始時、または講義途中に配布する。特別な事情がない限り、後日配布は しない。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談す ること。
試験実施	実施する

科目名	初等音楽科内容論 (FEP5D110)
英文科目名	Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。小学校における音楽の役割を考え、音楽指導を行うためにどのような音楽の知識・技術が必要なのかを説明する。
2 回	音の長さ（音符と休符、リズムにのろう）：音の長さを表す方法を説明する。
3 回	音の高さ（音名あそび、イロハうた、ドレミのうた）：音の高さを表す方法を説明する。
4 回	音程（全音と半音、長短・完全系の音程）：音同士の関係を説明する。
5 回	音階と調（長音階、調あてクイズ）：長音階と長調のしくみを説明する。
6 回	音階と調（短音階、調あてクイズ）：短音階と短調のしくみを説明する。
7 回	和音（長 3 和音と短 3 和音）：和音の構造を説明する。
8 回	これまで学んだ音楽理論を復習する。また、ここまでの講義内容について振り返ると同時に、これまでの講義内容について中間的な評価をするために試験を実施する。試験終了後に、出題内容について解説する。
9 回	コードネームを弾いてみよう（コードの基本）：コード記号を用いて演奏する方法を説明する。
1 0 回	コードネームで伴奏してみよう（メジャーコード）：メジャーコードの曲の伴奏付けを説明する。
1 1 回	コードネームで伴奏してみよう（マイナーコード）：マイナーコードの曲の伴奏付けを説明する。
1 2 回	移調（調をかえてみよう、移調リレー）：移調の方法を説明する。
1 3 回	いろんな調で弾いてみよう：移調の実践方法を説明する。
1 4 回	これまでの学習を総合し、グループ創作発表会に向けた準備について説明する。
1 5 回	グループ創作発表会を実施する。発表会終了後、発表内容について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	小学校でどのような音楽活動を行ったかを思い出しておくこと。シラバスに目を通し、学習の流れを把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	第1回の授業内容を復習し、自分の身のまわりの様々な音や音楽について考えたことを記述しておくこと。（標準学習時間80分）
3 回	第2回の授業内容を復習し、リズム打ち課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
4 回	第3回の授業内容を復習し、音高に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
5 回	第4回の授業内容を復習し、音程に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
6 回	第5回の授業内容を復習し、長調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間80分）
7 回	第6回の授業内容を復習し、短調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
8 回	第7回の授業内容を復習し、和音に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
9 回	第8回の授業内容を復習し、これまでの学習内容に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 0 回	第9回の授業内容を復習し、コード記号に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 1 回	第10回の授業内容を復習し、メジャーコードに関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 2 回	第11回の授業内容を復習し、マイナーコードに関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 3 回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	第13回までの授業内容を復習し、コードネーム・移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間100分）
1 5 回	これまでの学習を総括し、グループ発表会に向けて準備すること。（標準学習時間180分）
1 6 回	最終評価試験に向けて、これまでの授業内容を復習し、よく理解・整理しておくこと。

講義目的	小学校で音楽指導を行うために必要な音楽の知識および技術を修得するとともに、音楽することの意味や楽しさを深く認識することを目的とする。歌唱・ソプラノリコーダーや打楽器を用いた器楽合奏・身体表現活動などとおして、実践的に学ぶ。期の終わりにはグループでの創作発表会を行い、学習の成果を確認する。（初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する）
------	---

達成目標	基本的な楽譜の読み書きができる。 楽譜に示されたリズムや音程に従って演奏することができる。 音楽を形づくっている要素について説明することができる。 コードネームをもとに簡易伴奏することができる。 移調して演奏することができる。 グループ内で協調して学習を進めることができる。
キーワード	音楽理論、読譜、コードネーム
成績評価（合格基準60）	中間試験（20％）、最終評価試験（40％）、グループ発表の内容（25％）、平素の授業での提出課題（15％）によって総合的に評価する。
関連科目	ピアノ奏法Ⅰ、ピアノ奏法Ⅱ
教科書	『保育士・幼稚園教諭・小学校教諭養成のためのピアノテキスト 楽典・身体表現教材付』／全国大学音楽教育学会 九州地区学会編著／カワイ出版
参考書	『5訂版 歌はともだち』／教育芸術社 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 その他、適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 井本研究室
注意・備考	・この講義では、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。 ・授業中の活動に集中して取り組むこと。復習をしっかりとすること。 ・ソプラノリコーダーを使用するので、持っている人は準備しておくこと。 ・「音楽に自信がない」「楽譜が読めない」人は、この授業で学んで自信をつけてください。
試験実施	実施する

科目名	教材分析・開発演習 A (国語・社会・家庭) (FEP5D210)
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials A (Japanese, Social Studies, Home Economics)
担当教員名	小川孝司(おがわたかし), 紙田路子(かみたみちこ), 原田省吾(はらだしょうご)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	授業のビデオを視聴し、教材開発や学習指導案作成の重要性について説明する。 (小川 孝司)
2 回	第 1 回講義で視聴した文学的文章について、「学習材」の内容等の分析研究の方法や内容的価値、言葉の力等について説明する。 (小川 孝司)
3 回	前時の分析研究をもとに、「教師」の指導の的方法的研究及び単元の目標や単元の指導計画について説明する。 (小川 孝司)
4 回	実際の説明的文章について、学習材の内容等の分析研究の方法や内容的価値、言葉の力等について説明する。 (小川 孝司)
5 回	前時の分析研究をもとに、「教師」の指導の的方法的研究及び単元の目標や単元の指導計画について説明する。 (小川 孝司)
6 回	代表による文学的文章及び説明的文章の模擬授業を視聴し、授業と教材研究の関係等について説明する。 (小川 孝司)
7 回	社会科において育成すべき資質・能力をもとに教育内容を構成する「単元マネジメント」の意義を理解し、社会科の教材分析について見通しを持つ。 (紙田 路子)
8 回	「単元マネジメント」の観点をもとに、社会科授業の指導案(単元計画)の構成(目標・教材観・指導観・単元計画)について分析し、評価する。 (紙田 路子)
9 回	「単元マネジメント」の観点を生かし、単元「開国が日本にもたらしたもの」及び「日本の水産業」を題材に単元計画を作る。(演習) (紙田 路子)
10 回	グループで社会科授業の指導案(単元計画)を作成し、「単元マネジメント」の観点からチェックする。 (紙田 路子)
11 回	社会科授業の指導案(単元計画)を発表し、「単元マネジメント」の観点から互いに評価し、意見を交換する。 (紙田 路子)
12 回	現場教師が作成した社会科学習指導案を「単元マネジメント」の観点に従って分析・評価する。 (紙田 路子)
13 回	家庭科において育成すべき能力について説明し、魅力ある家庭科授業づくりに向けた指導計画のあり方について検討する。

	(原田 省吾)
1 4 回	家庭科の授業づくりのポイントを踏まえ、グループで家庭科の単元計画・指導案を作成する。
	(原田 省吾)
1 5 回	家庭科の単元計画・学習指導案を発表し、家庭科の授業づくりのポイントに照らして評価し、意見を交換する。
	(原田 省吾)
1 6 回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	前回の講義で配付した文学的文章の文章構造図をまとめ、作品の内容や表現等について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	前時の分析的研究をもとに、「単元構成について」「指導について」をまとめ、指導の方法について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
4 回	前回の講義で配付した説明的文章の文章構造図をまとめ、作品の内容や表現等について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前時の分析的研究をもとに、「単元構成について」「指導について」をまとめ、指導の方法について自分の考えを整理しておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	教材研究した文学的文章及び説明的文章について、第2次授業場面の本時学習指導案を作成しておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	中央教育審議会答申の「第4章学習指導要領等の枠組みの改善と『社会に開かれた学習過程』」を読み、単元開発の基本的な方針について理解しておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回の講義で配布した「社会科授業指導案」を読み、内容構成、および「知識の構造」について把握し、まとめておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	前回の講義で配布した単元開発に関わる資料(教科書教材)を読み、知識の構造図を作成しておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	単元開発に必要な資料を収集しておくこと。(標準学習時間90分)
1 1 回	発表の準備・分担・練習を進めておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	事前に配布した複数の社会科指導案を読み、「単元マネジメント」の観点に従って自分の意見をまとめておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	「小学校学習指導要領家庭編」第3章を読み、家庭科の指導に当たって留意すべき点を把握しておくこと。(標準学習時間90分)
1 4 回	教科用図書を読んで単元全体のイメージを持つとともに、単元計画や指導案作成のための資料を収集しておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	単元計画・学習指導案を整え、発表の準備・分担・練習を進めておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	各教科における教材観・指導官・単元計画の作成のポイントと方法について復習しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	国語科、社会科、家庭科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、「学習材」の内容等の分析的研究や、「教師」の指導の的方法的研究等に取り組む。また、その研究を学習指導案にまとめるといったグループによる検討や共同作業が中心となる。こうした講義を通して、教材開発及び学習指導案作成の方法を実践的に身に付けることを目的とする。(この講義は初等教育学科の学位授与方針のA・B・Cに強く関与する)
達成目標	教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析・再構成ができる。(A) 課題設定・情報収集・情報の分析、吟味、再構成という学習過程にそった単元計画を作成することができる。(C) 教材開発、および単元開発を通して単元マネジメントの意義や役割について理解できる。(B)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、開かれた教育課程、主体的・対話的な深い学び(アクティブラーニング)
成績評価(合格基準60)	定期試験60%(主に達成目標1・3を評価)、レポート40%(主に達成目標2を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	初等国語科内容論、初等国語科教科法、初等社会科内容論、初等社会科教育法、初等家庭科内容論、初等家庭科指導法
教科書	小学校学習指導要領社会科編/文部科学省/東洋館出版社/平成20年 小学校学習指導要領国語科編/文部科学省/東洋館出版社/平成20年

参考書	
連絡先	A 1 号館 9 F 紙田研究室 A 1 号館 9 F 小川研究室 A 1 号館 9 F 原田研究室
注意・備考	・小学校国語科、社会科、家庭科の教科用図書（教科書）に目を通し、教材の概要について把握しておくことが望ましい。 ・実際に教育現場において、指導案及び単元計画を作成することを念頭に置き、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・指導計画は受講状況により変更することがある。 ・試験は最終評価試験中に行う。 ・講義中の録音，録画，撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	小学校教育実習事前・事後指導【月5集中】(FEP5E310)
英文科目名	Pre and Post Guidance for Elementary School Teaching Practice
担当教員名	小川孝司(おがわたかし), 黒崎東洋郎(くろさきとよお), 松岡律(まつおかただし), 山下浩之(やましたひろゆき), 紙田路子(かみたみちこ), 妻藤純子(さいとうじゅんこ)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習
授業内容	事前指導は3年次春学期に行い、秋学期に行われる「教育実習」を効果的かつ実りあるものにするために行うものである。内容は、小学校教育実習に必要な学習指導案作成や実習日誌の作成要領、各教科等の模擬授業等である。また、人間力を育成するための基礎的・基本的な学級経営の在り方を、遊び、給食指導、係活動や清掃指導、朝の会や帰りの会の事例を通して具体的に指導する。事後指導は、3年次秋学期の「教育実習」の後に行い、「授業について」「学級経営」等についての成果や自己課題を情報交換し、小学校教員になることへの自覚を高める。
準備学習	「実習の手引」を熟読し、教育実習の意義や目的、4週間の実習の概要等について、自分の考えを整理しておくこと。また、今までに学修した各教科等の内容論や教育法の授業内容を振り返るとともに、各指導教員の指示に従い学習指導案を作成したり、その模擬授業の準備を行うこと。
講義目的	教育実習の事前指導と事後指導とからなる授業である。事前指導では、教育実習の意義や教育実習に必要な心構え、実習を通して何を学ぶかについて理解を深めることを目標とする。 事後指導は、教育実習を通して学んだことを振り返り、小学校教員になることの自覚を高めることを目標とする。(本講義は、学位授与方針のA・B・Cに該当する)
達成目標	教育実習の事前・事後指導を通して、各教科等の指導内容を理解するとともに、効果的な指導方法等、基礎的な授業力を身に付けることができる(A)。小学校教育の意義や役割を理解し、教職に関わることへの使命感ややりがい身に付けることができる(B)。ICTを活用した授業に必要な知識・技能の基礎を身に付けることができる(C)。
キーワード	効果的な指導方法 使命感ややりがい ICT活用の知識・技能
成績評価(合格基準60)	各担当者ごとの小レポート点を合計して評価する。総計60%以上を合格とする。
関連科目	各教科の内容論 各教科の教育法 教育実習 教職実践演習
教科書	
参考書	
連絡先	各講義担当者
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	初等家庭科内容論（FEP5F210）
英文科目名	Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	小学校学習指導要領ならびに教科書に示された家庭科の学習内容を領域ごとに分析し、内容編成及びならびに教育内容を確認する。 小学校家庭科における「家庭生活」、「家族」、「食生活」、「衣生活」、「住生活」に関する指導に必要な基礎的事項について概説する。
準備学習	小学校の家庭科で学習した内容を思い出すとともに、シラバスを確認して本授業の全体像を把握しておくこと。 教科書『わたしたちの家庭科 5・6』における記述内容を確認しておくこと。 『小学校学習指導要領解説家庭編』第 2 章における記述内容を確認しておくこと。
講義目的	小学校家庭科における「家庭生活」、「家族」、「食生活」、「衣生活」、「住生活」に関する内容を学習する意義を理解し、その指導に必要な知識を獲得する。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	○ 小学校家庭科における内容編成ならびに教育内容を説明できる（A） ○ 小学校家庭科における指導に必要な基礎的事項や技能を習得し、家庭科の授業を計画・立案することができる（A）
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭生活 家族 被服製作実習 調理実習 関わり 学習指導要領 教科書 内容構成
成績評価（合格基準60	提出課題（40％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等家庭科方法論
教科書	わたしたちの家庭科 5・6 / 文部科学省検定済教科書 / 開隆堂
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 原田研究室 オフィスアワーについてはmylogを参照のこと。
注意・備考	・ 講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。 ・ 提出課題に対するフィードバックは随時講義中に行う。
試験実施	実施する

科目名	教材分析・開発演習C（音楽・図工・体育）（FEP5F310）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials C (Music, Arts and Crafts, Physical Education)
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）、井本美穂（いもとみほ）、笹山健作（ささやまけんさく）
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教材づくりの基本的視点について解説する。 （笹山 健作）
2回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。（1） （笹山 健作）
3回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。（2） （笹山 健作）
4回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。（1） （笹山 健作）
5回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。（2） （笹山 健作）
6回	音楽科において育成すべき資質・能力をふまえた教材分析・開発の方法について説明する。 （井本 美穂）
7回	低学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
8回	中学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
9回	高学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
10回	各自が作成した単元計画を分析し、教材の有効な活用方法について説明する。 （井本 美穂）
11回	低学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 （妻藤 純子）
12回	中学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 （妻藤 純子）
13回	高学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。（90分） （妻藤 純子）
14回	授業の導入と具体的支援を中心として授業づくりについて説明する。 （妻藤 純子）
15回	実際の授業（ビデオ）を視聴し、目標の達成度、指導法についての分析を通して、効果的な授業構成や指導法について説明する。 （妻藤 純子）

回数	準備学習
1 回	『小学校学習指導要領解説 体育編』に示されているゲームとボール運動の部分を読んでおくこと。(60分)
2 回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
3 回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
4 回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
5 回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
6 回	『小学校学習指導要領解説 音楽編』を読み、各学年の目標および内容を把握しておくこと。(60分)
7 回	低学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
8 回	中学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
9 回	高学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
10 回	これまでの教材研究をもとに、各自授業案を作成すること。(120分)
11 回	配布資料(低学年教科書題材について)を読み、低学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
12 回	配布資料(中学年教科書題材について)を読み、中学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
13 回	配布資料(高学年教科書題材について)を読み、高学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
14 回	題材(事前に指示)について、その目標や指導事項をもとに、15分間の導入と必要な掲示物を考えておくこと。(120分)
15 回	配布資料(鑑賞教材について)を読み、授業展開を考え、本時案を作成すること。(120分)

講義目的	音楽科、図画工作科、体育科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、学習材の内容等の分析的研究や教師の指導の的方法的研究等に取り組む。グループによる検討や共同作業が中心となる。本講義を通して、教材開発や単元計画の作成方法等を実践的に身につけることを目的とする。
達成目標	教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析、再構成ができる。(A) 学習過程に沿った単元計画を作成することができる。(C) 教材開発、及び単元開発を通して、カリキュラム・マネジメントの意義や役割について理解することができる。(B)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、アクティブラーニング
成績評価(合格基準60)	提出課題(40%)、教材開発(40%)、授業についての議論(20%)により評価する。
関連科目	音楽科内容論、音楽科教育法、図画工作科内容論、図画工作科教育法、体育科内容論、体育科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説 音楽編/文部科学省/東洋館出版/平成20年 小学校学習指導要領解説 図画工作編/文部科学省/東洋館出版/平成20年 小学校学習指導要領解説 体育編/文部科学省/東洋館出版/平成20年
参考書	随時紹介し、必要に応じて資料を講義中に配布する。
連絡先	A1号館9階妻藤研究室 A1号館10階井本研究室 A1号館10階笹山研究室
注意・備考	・教育現場において必要な実践力を身に付けるため、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または、解説によるフィードバックを行う。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は、事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	教育心理学 (FEP5G110)
英文科目名	Educational Psychology
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育心理学の歴史について説明する。
2 回	教育心理学の理論と研究法について説明する。
3 回	学習理論と教育心理学について説明する。
4 回	発達理論と教育心理学について説明する。
5 回	教育心理学の領域と課題について説明する。
6 回	グローバル社会のなかでの学校教育について説明する。
7 回	知の教育と心の教育の統合について説明する。
8 回	21世紀型学力の育成について説明する。
9 回	自ら学び自ら考える力の育成について説明する。
1 0 回	知識活用力の育成について説明する。
1 1 回	持続可能な学力の育成について説明する。
1 2 回	個人差に応じた学習支援について説明する。
1 3 回	発達段階に応じた学習支援について説明する。
1 4 回	障害のある児童生徒の学習支援について説明する。
1 5 回	教育評価の改善について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	授業の前に、教育心理学の歴史について復習し、教育心理学の理論と研究法について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	授業の前に、教育心理学の理論と研究法について復習し、教科書などにより、学習理論に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	授業の前に、教育心理学の主要な学習理論について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、発達理論に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	授業の前に、教育心理学の発達理論について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、教育心理学の領域と課題に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	授業の前に、教育心理学の領域と課題に関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などによりグローバル社会の学校教育について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	授業の前に、グローバル社会の学校教育について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、知の教育と心の教育の統合に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	授業の前に、知の教育と心の教育の統合について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、2 1 世紀型学力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	授業の前に、2 1 世紀型学力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、自ら学び自ら考える力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	授業の前に、自ら学び自ら考える力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、知識活用力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	授業の前に、知識活用力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、持続可能な学力の育成に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	授業の前に、持続可能な学力の育成について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、個人差に応じた学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	授業の前に、個人差に応じた学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、発達段階に応じた学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	授業の前に、発達段階に応じた学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより障害のある児童生徒の学習支援に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	授業の前に、障害のある児童生徒の学習支援について説明・質疑応答ができるように復習し、教育評価の改善について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	教育心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り
------	--

	組む資質を養うことを目的とする。そのために、教育心理学の最新の知見を学校教育の実践と関係づけて講義する。「学位授与の方針」のB（小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	教育心理学の理論・研究法・領域と課題について理解を深める。21世紀型学力の育成など学校教育の課題について理解を深める。個人差に応じた学習支援など実践的課題について理解を深める。従来の教育評価の問題点および改善方法について理解を深める。「学位授与の方針」のBに関連する科目である。
キーワード	学習支援
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育学演習（教育心理学）
教科書	よくわかる学校教育心理学 / 森 敏昭ほか / ミネルヴァ書房 / ISBN978-4-623-05642-2
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その質問に対する回答のための時間を次の授業の最初に設ける。
試験実施	実施する

科目名	教育社会学 (FEP5G210)
英文科目名	Sociology of Education
担当教員名	松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	社会学という考え方・・・授業の内容・進行に関するイントロダクション
2 回	社会化(1) 家庭と教育・・・社会化エージェントとしての親
3 回	社会化(2)-1 教師と学校・・・公教育制度の社会的役割
4 回	社会化(2)-2 教師と生徒の関係性・・・コミュニケーションの非対称性
5 回	社会化(3) 教育とジェンダー・・・日常に埋め込まれたコードに気付く
6 回	教師という生き方・・・教師集団の特質
7 回	階層社会と学歴社会・・・メリトクラシーに隠された不平等
8 回	大学と大学生・・・全入時代と格差の拡大
9 回	教育とマス・メディア・・・商業主義との葛藤
10 回	教育問題(1) いじめ・・・いじめの原因は何か
11 回	教育問題(2) 不登校・・・責任は誰にあるのか
12 回	教育問題(3) 少年非行・・・行為の瞬間の内面に注目する
13 回	教育と社会(1) ニート・フリーター・・・社会と個人の関係性を問う
14 回	教育と社会(2) 政治と教育・・・教育施策の変遷から見えるもの
15 回	まとめと展望・・・教育をめぐる大人の責任と子どもの成長

回数	準備学習
1 回	社会学に関する概説書を読んでおくこと。(標準学習時間: 90分)
2 回	社会化という概念について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
3 回	学校の社会的役割について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
4 回	ヘゲモニーという言葉の意味を調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
5 回	ジェンダー問題について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
6 回	学閥について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
7 回	メリトクラシーという言葉について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
8 回	大学生の学力低下について調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
9 回	メディア・リテラシーについて調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
10 回	自身といじめの関連について整理しておくこと。(標準学習時間: 90分)
11 回	不登校の原因について考えておくこと。(標準学習時間: 90分)
12 回	非行はなぜ起きるのか、考えをまとめておくこと。(標準学習時間: 90分)
13 回	ニートとフリーターの違いについて調べておくこと。(標準学習時間: 90分)
14 回	政治が教育にどう関わってくるのか、調べて考えておくこと。(標準学習時間: 90分)
15 回	これまでの講義ノートをよく見返しておくこと。(標準学習時間: 90分)

講義目的	教育社会学は社会学の立場から「教育」をながめる学問である。通常、「教育」と聞けば真っ先に「学校」が思い浮かぶが、「教育」という現象は「学校生活」の限られた空間・時間だけでなく、家庭や身近な大人たちとの関わりの中で日常的に発生する、不断の社会的営為である。本講義では、教育にまつわる様々な事象を社会との関係性において捉え、そうした観点から受講生がこれまで過ごして来た学校生活を振り返り、また「教師になるとは何を意味するのか?」という根源的な問いも含めて幅広く理解して行くことを目的とする。 (初等教育学科の学位授与方針Dに最も強く関与する)
達成目標	教育の社会的意義・教職の社会的役割について客観的に深く理解すること。 受講者が自身の職業選択をめぐり、繰り返し問い直すことのできる視点を獲得すること。
キーワード	
成績評価 (合格基準60)	毎回の小レポート(50%)、および最終課題(50%)を総合評価する。
関連科目	
教科書	なし
参考書	・ 荻谷剛彦 他著『教育の社会学 新版- 常識 の問い方、見直し方』有斐閣アルマ、2010年

連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	初等社会科教育法（FEP5G310）
英文科目名	Teaching Social Studies for Primary Education
担当教員名	紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション：社会科における3つの資質・能力「生きて働く知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力、人間性」について説明する。
2 回	小学校社会科の目標・内容・方法の関連についてについて説明する。説明をもとにワークショップ形式で社会科授業指導案分析を行う。
3 回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「問題解決」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
4 回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「理解」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
5 回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「説明」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
6 回	学習指導案、および実践記録の分析を通して「価値判断・意思決定」型社会科の目標・内容・方法を理解する。また議論を通してそのよさや課題について考察する。
7 回	中学年社会科における授業例（3年生の地域学習）の分析を通して地域素材の教材化の視点と方法を理解する。
8 回	中学年社会科における授業例（4年生の地域学習）の分析を通して地域素材の教材化の視点と方法を理解する。
9 回	高学年社会科における授業例（5年生の産業学習）の分析を通して社会システムの教材化の視点と方法を理解する。
10 回	高学年社会科における授業例（6年生の歴史学習及び政治学習）の分析を通して、歴史や政治・法システムの教材化の視点と方法を理解する。
11 回	模擬授業を行う（3人×30分）
12 回	模擬授業を行う（3人×30分）
13 回	模擬授業を行う（3人×30分）
14 回	模擬授業の振り返りを行い、全体での模擬授業の準備をグループごとに行う。社会科授業における評価基準及び支援について理解する。
15 回	模擬授業を行う（30分×2） 授業研究を行い授業の改善案を構築する。
16 回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1 回	初等社会科教育法のシラバスや平成29年度版学習指導要領に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。（1.5時間）
2 回	平成29年度版学習指導要領解説社会科編の「第1章 総説」および「第2章 社会科の目標及び内容」に目を通し、社会科の目標について整理しておくこと。（1.5時間）
3 回	前回の講義で配布した「問題解決」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。（2時間） レポートとして提出すること
4 回	前回の講義で配布した「理解」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。（2時間） レポートとして提出すること。
5 回	前回の講義で配布した「説明」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。（2時間） レポートとして提出すること。
6 回	前回の講義で配布した「価値判断・意思決定」型授業の授業計画書と実践例の資料に目を通し、よさや課題について分析し、まとめておくこと。（2時間） レポートとして提出すること。
7 回	前回の講義で配布した小学校中学年の教材（第3学年単元「お店とわたしたちの生活」「昔のくらしと今のくらし」等）をもとに、授業案を作成すること。（2時間） レポートとして提出すること。
8 回	前回の講義で配布した小学校中学年の教材（第4学年単元「水はどこから」「ごみの旅」等）をもとに、授業案を作成すること。（2時間） レポートとして提出すること。
9 回	前回の講義で配布した小学校高学年の教材（第5学年単元「工業とわたしたちの生活」「日本の農業」等）をもとに授業案を作成すること。（2時間） レポートとして提出すること。

10回	前回の講義で配布した小学校高学年の教材（第6学年単元「3人の武将と天下統一」「わたしたちのくらしと日本国憲法」等）をもとに授業案を作成すること。（2時間） レポートとして提出すること。
11回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、講義内容をもとに修正し、模擬授業の準備をすること。（2時間）
12回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、前回の模擬授業の評価をもとに修正し準備すること。（2時間）
13回	これまで作成した授業案の中から模擬授業を行う授業を選び、前回の模擬授業の評価をもとに修正し準備すること。（2時間）
14回	これまでの模擬授業の評価を基に自己の作成した授業案を修正すること。（1.5時間） レポートとして提出すること。
15回	第14回の講義で修正した自己の授業案の観点別評価表を作成しておくこと。（2時間） レポートとして提出すること。
16回	社会科授業設計のためのキーワードをもとにこれまでの総復習をしておくこと。（4時間）

講義目的	小学校社会科授業における授業実践力を身に着ける。（この講義は初等教育学科の学位授与方針のA・Cに強く関与する）
達成目標	1．学習指導要領に示された初等社会科の目標や内容、指導上の留意点を理解している。（A） 2．学習指導要領に示された資質・能力の3つの柱に基づく初等社会科の評価基準および評価方法について理解している。（A） 3．社会科の目標・内容に応じて教材開発や授業設計ができる。（C） 4．具体的な授業を想定した授業設計を行い、模擬授業の実施とその振り返りを通して、PDCAの方法を身に着けることができる。（C）
キーワード	「生きて働く知識・技能」「思考力・表現力・判断力」「学びに向かう力、人間性」「問題解決」型社会科、「理解」型社会科、「説明」型社会科、「価値判断・意思決定」型社会科 目標、内容、方法の連関、評価基準、観点別評価、模擬授業、PDCA
成績評価（合格基準60）	最終評価試験50%（主に達成目標1・2を評価）、模擬授業30%（主に達成目標3・4を評価）、レポート20%（主に達成目標3を評価）により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	初等社会科内容論を受講しておくことが望ましい。 教材開発・分析演習A（国・社・家）を受講しておくことが望ましい。
教科書	『小学校学習指導要領 解説 社会編』/文部科学省/東洋館出版社 その他、必要な資料等は講義の中で適宜配布する。
参考書	『社会科固有の授業論 30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001年 『新社会科授業づくりハンドブック』/全国社会科教育学会編/明治図書/2015年 『社会科の授業診断 良い授業に潜む危うさ研究』/棚橋健治/明治図書/2007年
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
注意・備考	・実際に授業に立つことを考え、高い目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・社会科は「社会を知る」教科である、という特性を持つ。日ごろから新聞やニュースに目を通し、社会に関心をもつことが望ましい。 ・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・試験は定期試験中に行う。
試験実施	実施する

科目名	初等家庭科内容論（FEP5H210）
英文科目名	Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	小学校学習指導要領ならびに教科書に示された家庭科の学習内容を領域ごとに分析し、内容編成及びならびに教育内容を確認する。 小学校家庭科における「家庭生活」、「家族」、「食生活」、「衣生活」、「住生活」に関する指導に必要な基礎的事項について概説する。
準備学習	小学校の家庭科で学習した内容を思い出すとともに、シラバスを確認して本授業の全体像を把握しておくこと。 教科書『わたしたちの家庭科 5・6』における記述内容を確認しておくこと。 『小学校学習指導要領解説家庭編』第 2 章における記述内容を確認しておくこと。
講義目的	小学校家庭科における「家庭生活」、「家族」、「食生活」、「衣生活」、「住生活」に関する内容を学習する意義を理解し、その指導に必要な知識を獲得する。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	○ 小学校家庭科における内容編成ならびに教育内容を説明できる（A） ○ 小学校家庭科における指導に必要な基礎的事項や技能を習得し、家庭科の授業を計画・立案することができる（A）
キーワード	衣生活 食生活 住生活 家庭生活 家族 被服製作実習 調理実習 関わり 学習指導要領 教科書 内容構成
成績評価（合格基準60	提出課題（40％）、最終評価試験（60％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等家庭科方法論
教科書	わたしたちの家庭科 5・6 / 文部科学省検定済教科書 / 開隆堂
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 原田研究室 オフィスアワーについてはmylogを参照のこと。
注意・備考	・ 講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。 ・ 提出課題に対するフィードバックは随時講義中に行う。
試験実施	実施する

科目名	教材分析・開発演習C（音楽・図工・体育）（FEP5H310）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials C (Music, Arts and Crafts, Physical Education)
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）、井本美穂（いもとみほ）、笹山健作（ささやまけんさく）
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	教材づくりの基本的視点について解説する。 （笹山 健作）
2回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。（1） （笹山 健作）
3回	鬼遊びの教材づくりについて解説する。（2） （笹山 健作）
4回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。（1） （笹山 健作）
5回	ボールゲームの教材づくりについて解説する。（2） （笹山 健作）
6回	音楽科において育成すべき資質・能力をふまえた教材分析・開発の方法について説明する。 （井本 美穂）
7回	低学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
8回	中学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
9回	高学年を対象とした音楽授業についての単元計画および教材分析の方法について説明する。 （井本 美穂）
10回	各自が作成した単元計画を分析し、教材の有効な活用方法について説明する。 （井本 美穂）
11回	低学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 （妻藤 純子）
12回	中学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。 （妻藤 純子）
13回	高学年の教科書題材をもとに、単元計画、児童作品から見える指導の意図と作品の見方（評価）について説明する。（90分） （妻藤 純子）
14回	授業の導入と具体的支援を中心として授業づくりについて説明する。 （妻藤 純子）
15回	実際の授業（ビデオ）を視聴し、目標の達成度、指導法についての分析を通して、効果的な授業構成や指導法について説明する。 （妻藤 純子）

回数	準備学習
1 回	『小学校学習指導要領解説 体育編』に示されているゲームとボール運動の部分を読んでおくこと。(60分)
2 回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
3 回	鬼遊びの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
4 回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
5 回	ボールゲームの教材分析・開発をグループまたは個人で行うこと。(90分)
6 回	『小学校学習指導要領解説 音楽編』を読み、各学年の目標および内容を把握しておくこと。(60分)
7 回	低学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
8 回	中学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
9 回	高学年の音楽教材に関する配付資料を読み、目標に基づく教材活用の方法について考えておくこと。(90分)
10 回	これまでの教材研究をもとに、各自授業案を作成すること。(120分)
11 回	配布資料(低学年教科書題材について)を読み、低学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
12 回	配布資料(中学年教科書題材について)を読み、中学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
13 回	配布資料(高学年教科書題材について)を読み、高学年児童の作品から見える児童の発達段階やそれに応じた必要な指導事項についてまとめておくこと。(90分)
14 回	題材(事前に指示)について、その目標や指導事項をもとに、15分間の導入と必要な掲示物を考えておくこと。(120分)
15 回	配布資料(鑑賞教材について)を読み、授業展開を考え、本時案を作成すること。(120分)

講義目的	音楽科、図画工作科、体育科の教育内容を理解し、実際の学習材に即しながら、学習材の内容等の分析的研究や教師の指導の的方法的研究等に取り組む。グループによる検討や共同作業が中心となる。本講義を通して、教材開発や単元計画の作成方法等を実践的に身につけることを目的とする。
達成目標	教科内容についてよく理解し、目標に応じて教材の分析、再構成ができる。(A) 学習過程に沿った単元計画を作成することができる。(C) 教材開発、及び単元開発を通して、カリキュラム・マネジメントの意義や役割について理解することができる。(B)
キーワード	教材開発、単元計画、カリキュラム・マネジメント、アクティブラーニング
成績評価(合格基準60)	提出課題(40%)、教材開発(40%)、授業についての議論(20%)により評価する。
関連科目	音楽科内容論、音楽科教育法、図画工作科内容論、図画工作科教育法、体育科内容論、体育科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説 音楽編/文部科学省/東洋館出版/平成20年 小学校学習指導要領解説 図画工作編/文部科学省/東洋館出版/平成20年 小学校学習指導要領解説 体育編/文部科学省/東洋館出版/平成20年
参考書	随時紹介し、必要に応じて資料を講義中に配布する。
連絡先	A1号館9階妻藤研究室 A1号館10階井本研究室 A1号館10階笹山研究室
注意・備考	・教育現場において必要な実践力を身に付けるため、目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環として、グループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については、講義中に模範解答を配布するか、または、解説によるフィードバックを行う。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は、事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	ピアノ奏法 (FEP51210)
英文科目名	Piano Lesson III
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2 回	調性と音階の復習、およびピアノ演奏技術 (独奏・連弾) を指導する。 (全教員)
3 回	音程と和音の復習、およびピアノ演奏技術 (独奏・連弾) を指導する。 (全教員)
4 回	コードネームの基本復習、およびピアノ演奏技術 (独奏・連弾) を指導する。 (全教員)
5 回	コードネーム (長調)、およびピアノ演奏技術 (独奏・連弾) を指導する。 (全教員)
6 回	コードネーム (短調)、およびピアノ演奏技術 (独奏・連弾) を指導する。 (全教員)
7 回	連弾発表会を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8 回	伴奏の編曲 (移調の基本)、およびピアノ演奏技術 (独奏・弾き歌い・合奏) を指導する。 (全教員)
9 回	伴奏の編曲 (移調の実践)、およびピアノ演奏技術 (独奏・弾き歌い・合奏) を指導する。 (全教員)
10 回	伴奏の実践 (季節の歌の歌唱)、およびピアノ演奏技術を (独奏・弾き歌い・合奏) 指導する。 (全教員)
11 回	伴奏の実践 (行事の歌の歌唱)、およびピアノ演奏技術を (独奏・弾き歌い・合奏) 指導する。 (全教員)
12 回	伴奏の実践 (共通教材の歌唱)、およびピアノ演奏技術を (独奏・弾き歌い・合奏) 指導する。 (全教員)
13 回	伴奏の実践 (自由なジャンルの歌唱)、およびピアノ演奏技術 (独奏・弾き歌い・合奏) を指導する。 (全教員)
14 回	弾き歌い実技試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術 (独奏・弾き歌い・合奏) を指導する。 (全教員)
15 回	ピアノ・合奏実技試験 (発表会形式) の実施、およびまとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。（標準学習時間100分）
2 回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。連弾発表会に備え、ペアの相手と一緒にしっかり練習すること。（標準学習時間150分）
7 回	連弾発表会の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間100分）
8 回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。（標準学習時間150分）
1 4 回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、ピアノ・合奏実技試験に備えて練習すること。（標準学習時間150分）
1 5 回	ピアノ・合奏実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。（標準学習時間90分）

講義目的	小学校教育において必要とされる、うたとピアノ演奏および合奏の技術をさらに高めることを目的とする。うたについては、幅広いジャンルの楽曲を用いて、様々な歌唱技術を学ぶ。ピアノ演奏については、個人指導を受け、弾き歌いを中心とした鍵盤楽器奏法を学習する。また、コード伴奏および伴奏の編曲方法を習得する。個人の演奏能力に応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、より実践的な演奏技術の獲得を目指す。さらに連弾や器楽合奏をととして、テンポ感や音量のバランス、息の合わせ方といった、合奏の方法を学ぶ。連弾発表会およびピアノ・合奏発表会を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。（初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する）
達成目標	曲に合う速さやニュアンスを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 発声・発音・息づき・リズム・音程に気をつけて、表情豊かにうたうことができる。 自分でコード伴奏をつけて演奏することができる。 連弾や合奏で、人と息を合わせて一緒に演奏することができる。
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏、合奏
成績評価（合格基準60	連弾実技試験(20%)、弾き歌い実技試験(20%)、ピアノ・合奏実技試験(40%)、毎回の授業で出された課題の到達度（20%）によって総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	ピアノ奏法Ⅰ、Ⅱ
教科書	・小学校歌唱共通教材 ・その他、各自の進度に応じた教材を用いる。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 井本研究室
注意・備考	・この授業は、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。 ・課外学習（個人練習）に励むこと。
試験実施	実施しない

科目名	教育史 (FEP5J210)
英文科目名	History of Education
担当教員名	山中芳和 (やまなかよしかず)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 講義の目的・概要・授業計画を説明する。
2 回	近世日本の社会と文化の特質を説明する。
3 回	江戸幕藩体制の特質と教育について説明する。
4 回	近世における教育論の多様な展開について説明する。
5 回	近世社会における武士と教育について説明する。
6 回	近世社会における民衆と教育について説明する。
7 回	幕末における教育近代化への胎動と西欧教育の受容について説明する。
8 回	近代教育の模索と学制の成立について説明する。
9 回	西洋における教育思想の特質と日本への影響について説明する。
10 回	教職の誕生と教員養成の開始について説明する。
11 回	教育理念の模索と臣民像について説明する。
12 回	世界の教育改革と大正新教育運動の展開について説明する。
13 回	第二次世界大戦後の教育改革と教育基本法の成立について説明する。
14 回	教育内容の改革と学習指導要領について説明する。
15 回	現代社会の動向と教育の課題について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	すでに履修した教育学原論や教職論の講義内容を振り返り、特にその中で歴史的視点から教育を考察した部分を復習しておくこと。 シラバスを見て授業の内容を確認しておくこと。 (標準学習時間 60 分)
2 回	日本の歴史の中で近世という時代がどのような時代であるのかについて関心をもっておくこと。 近世と近代の基本的な違いについて調べておくこと。 (標準学習時間 80 分)
3 回	近世日本の社会と文化の特質を整理しておくこと。 江戸幕藩体制がどのような仕組みで成り立っていたか、またそこでの教育がどのような特質があるのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
4 回	江戸幕藩体制の特質と教育について内容を確認しておくこと。 近世にはどのような教育についての考え方があったのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
5 回	近世に展開した教育論について、その特色をまとめておくこと。 近世社会の支配層であった武士の特徴とその教育について関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
6 回	近世社会における武士と教育についてその関係をまとめておくこと。 近世社会の民衆にとって教育はどのような実態であったのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
7 回	近世社会の民衆と教育について復習しておくこと。 幕末という時代の特徴と、近代への胎動という転換期の中での教育について関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
8 回	幕末の特徴と近代への転換期の中での教育について整理しておくこと。 近代教育はどのように制度化されることになるのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
9 回	近代において制度化された教育の特質を確認しておくこと。日本の教育の歴史的展開を確認するとともに西欧の教育思想がどのように日本の教育に影響を及ぼすのかについての関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)
10 回	西洋における教育思想の特質と日本への影響についてまとめておくとともに、教職という仕事があるように職業として成立するのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 100 分)

1 1 回	教職の誕生と教員養成の開始についてまとめておくこと。 教育の在り方について、歴史の中でどのような議論がなされてきたのか、また日本の特質について臣民像という視点への関心を持っておくこと。 (標準学習時間 1 0 0 分)
1 2 回	教育理念の模索と臣民像について自分の考えを整理しておくこと。 世界ではどのような教育改革が展開し、それが日本に与えた影響はどのようなものであったのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 1 0 0 分)
1 3 回	世界の教育改革と大正新教育運動の展開について整理しておくこと。 第二次大戦後においてどのような教育改革が展開したのかについて関心をもっておくこと。 (標準学習時間 1 0 0 分)
1 4 回	第二次大戦後の教育改革の特質について整理しておくこと。 戦後の日本の教育内容がどのような経緯の中で改革されていくのかについて関心を持っておくこと。 (標準学習時間 1 0 0 分)
1 5 回	教育内容の改革と学習指導要領についてまとめておくこと。 現代の社会の特徴と教育の課題について関心を持っておくこと。 (標準学習時間 1 0 0 分)

講義目的	人間の世界は、年かさの世代が若い世代を育て教育することで存続し、発展する。教育の営みは人類の歴史とともにあり、人間はその長い過程の中で教育の在り方を考え、教育の方法を模索し、子どもたちの未来を育む教育を求めてきた。 この授業では、日本の教育の歴史を中心に、教育の思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を、諸外国の教育の歴史との比較などの視点から考察することで、これからの教育の在り方を考えることが出来るようになることを目的としている。学位授与の方針 B に関連するかもくである。
達成目標	1 教育による人間形成の歴史的展開をたどり、その特質を理解することが出来る (B)。 2 教育の思想の歴史的展開をたどり、それによって今日の教育の課題の史的背景を考える (B)。 3 教職に必要な教育観の基礎を培う (B)。
キーワード	・教育の歴史 ・人間形成の歩み ・教育の思想 ・これからの教育の課題
成績評価 (合格基準 60)	最終評価試験による評価 (8 0 点) と毎回の授業後の小レポートによる評価 (2 0 点) 合計 1 0 0 点。 総計で 6 0 点以上を合格とする。
関連科目	・教職論 ・教育学原論
教科書	特になし。
参考書	山田恵吾『日本の教育文化史を学ぶ』(ミネルヴァ書房、2 0 1 4 年) 適宜、参考資料をプリントとして配布する。
連絡先	A 1 号館、山中研究室
注意・備考	この科目は、教免取得のための選択科目である。
試験実施	実施する

科目名	生活科教育法 (FEP5J310)
英文科目名	Teaching Living Environment Studies
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	生活科という教科の誕生や、教科の成り立ち、他教科との関連などについて考える。
2回	現代社会におけるこどもの生活課題と生活科の役割について考える。
3回	単元と年間指導計画、年間指導計画と単元指導計画の関係について理解し、指導計画を立てるための手がかりについて考える。
4回	こどもの実態に応じた、生活科の目標の設定について考える。
5回	身近な素材を生かした生活科の授業づくりについて考える。
6回	学校探検、まち探検を題材に、生活科の授業を構成を考える。
7回	昔遊びを題材に、生活科の授業の構成を考える。
8回	学ぶことの喜びや自分の成長を感じられるような、生活科の授業を考える。
9回	生活科の評価について考える。
10回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
11回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
12回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
13回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
14回	学習指導案を作成し、模擬授業を行い、相互に評価する。
15回	生活科という教科について振り返る。

回数	準備学習
1回	生活科の歴史について簡単に調べておく (30分)
2回	現代社会のこどもの抱える問題について、自分なりにまとめておく (60分)
3回	学習指導要領を読み直しておく (90分)。
4回	どのようなタイプの学校があるのか、網羅的でなくてよいので調べておく (60分)。
5回	身近にある様々な素材を元に、どんな教材になるかを10～20個程度考えておく (60分)。
6回	探検の活動の持つ可能性について、探検の活動がどのような学習に発展するかを、考えておく (60分)。
7回	昔遊びをやってみる (60分)。
8回	自分が、どんな時に成長の喜びを感じることができたかを、思いだしておく (60分)。
9回	他教科の評価に関する内容につて、復習しておく (60分)。
10回	指導案を作成する (90分)
11回	指導案を作成する (90分)
12回	指導案を作成する (90分)
13回	指導案を作成する (90分)
14回	指導案を作成する (90分)
15回	14回の授業を振り返る (90分)

講義目的	生活科の誕生の背景と意義について知り、生活科の役割について検討する。 具体的な授業の構成ができるようになるために、年間指導計画や単元指導計画などを考えながら、単元の構成を創り上げる力を養う。 他教科との合科や、2年間を見通しての指導計画、幼稚園保育園こども園との連携、他学年との連携、地域や家庭との連携、総合学習との接続などを理解し、実践する力を養う。学位授与の方針Aに関わる科目である。
達成目標	(1) 教科の位置付けを理解できる (A) (2) 生活科の特性がわかり他教科との相違を説明できる (A) (3) 学習指導要領に明記されている生活科の目標及び内容について理解できる (A) (4) 生活科の授業 (活動) について、具体的な展開方法を検討できる (A)
キーワード	生活、社会、理科、環境、遊び、コミュニケーション
成績評価 (合格基準60)	レポート (50%)、授業で行う演習 (30%)、授業中の活動 (20%) を総合して評価する。
関連科目	生活科内容論 教材分析・開発演習B(算数、理科、生活)
教科書	小学校学習指導要領解説生活編 / 文部科学省 / 日本文教出版

参考書	適宜指定する
連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
注意・備考	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。
試験実施	実施しない

科目名	ピアノ奏法 (FEP5K110)
英文科目名	Piano Lesson I
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	小学校における音楽活動の内容を説明する。演奏に必要な知識と技術に関する各自の習得状況を確認する。 (全教員)
2回	「うみ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「春がきた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「こいのぼり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「日のまる」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「ひらいたひらいた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「茶つみ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「かたつむり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「かくれんぼ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「うさぎ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「虫のこえ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	「タやけこやけ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	歌唱実技期末試験を実施する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	ピアノ実技試験(発表会形式)の実施及び、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノ学習経験や、興味をもっている音楽について考えておくこと。(標準学習時間6

	0分)
2 回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7 回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
14 回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
15 回	ピアノ実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間60分)

講義目的	小学校教員に求められる、歌唱とピアノ演奏の基礎技術および表現方法を修得することを目的とする。歌唱については、小学校の歌唱共通教材を用いて、楽曲の理解の仕方と歌唱方法を学習する。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、基本的な鍵盤楽器奏法を修得する。各自の経験やスキルに応じたピアノ曲を学び、演奏技術の向上を図る。期の終わりにはピアノ実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。(初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
達成目標	楽譜に示されている情報を読み取り、ピアノ演奏で表現することができる。 小学校で扱われる歌唱教材について、歌詞の内容を把握し、歌で表現することができる。 演奏発表に向けて、計画的に準備することができる。
キーワード	歌唱、ピアノ演奏
成績評価(合格基準60)	歌唱実技中間試験(20%)、歌唱実技期末試験(20%)、ピアノ実技試験(40%)、毎回の授業で出された課題の達成度(20%)によって総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	ピアノ奏法
教科書	個人のレベルに合わせた教材を使用する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室
注意・備考	・この授業は、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。 ・課外学習(個人練習)に励むこと。
試験実施	実施しない

科目名	学習心理学 (FEP5K210)
英文科目名	Psychology of Learning
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学習心理学の目的・方法・領域について説明する。
2 回	学習心理学の理論について説明する。
3 回	古典的条件づけの原理について説明する。
4 回	オペラント条件づけの原理について説明する。
5 回	学習と記憶のメカニズムについて説明する。
6 回	知識獲得と学習の原理について説明する。
7 回	技能の学習の原理について説明する。
8 回	問題解決と学習の原理について説明する。
9 回	社会的学習の原理について説明する。
1 0 回	学習と認知発達の原理について説明する。
1 1 回	学習の転移について説明する。
1 2 回	学習と動機づけの原理について説明する。
1 3 回	学習理論の教育場面への応用について説明する。
1 4 回	学習理論の臨床場面への応用について説明する。
1 5 回	学習心理学と21世紀型学びについて説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	授業の前に、学習心理学の目的・方法・領域について復習し、教科書などにより、学習心理学の理論について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	授業の前に、学習心理学の理論について復習し、教科書などにより、古典的条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	授業の前に、古典的条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、オペラント条件づけに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	授業の前に、オペラント条件づけについて説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と記憶のメカニズムに関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	授業の前に、学習と記憶のメカニズムに関し説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより知識獲得と学習の原理について予習しておくこと。(標準学習時間120分)
7 回	授業の前に、知識獲得と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、技能の学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	授業の前に、技能の学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、問題解決と学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	授業の前に、問題解決と学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、社会的学習の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 0 回	授業の前に、社会的学習の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と認知発達の原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 1 回	授業の前に、学習と認知発達の原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習の転移に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 2 回	授業の前に、学習の転移について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習と動機づけの原理に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 3 回	授業の前に、学習と動機づけの原理について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の教育場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 4 回	授業の前に、学習理論の教育場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習理論の臨床場面への応用に関し予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 5 回	授業の前に、学習理論の臨床場面への応用について説明・質疑応答ができるように復習し、教科書などにより、学習心理学と21世紀型学びについて予習しておくこと。(標準学習時間120分)
1 6 回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	学習心理学の理論と方法を正しく深く理解し、学校教育の現代的課題に対し主体的・創造的に取り
------	--

	組む資質を養うことを目的とする。そのために、学習心理学の最新の知見を学校での学習指導の実践と関係づけて講義する。初等教育学科の「学位授与の方針」B（小学校教育の意義と役割を理解し、教職へ関わることへの強い使命感を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	学習心理学の古典的理論から最新の理論について理解を深める。「学習の基礎過程」「知識獲得と学習」「問題解決と学習」「技能の学習」「社会的学習」「発達理論と学習」「学習の転移」「学習の動機づけ」「学習理論の応用」など学習心理学の主要な研究領域について理解を深める。初等教育学科の学位授与の方針Bに関連する科目である。
キーワード	学習理論と学習指導
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育心理学
教科書	使用しない。
参考書	
連絡先	A 1号館 9 F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その回答のための時間を次の授業の最初に設ける。
試験実施	実施する

科目名	ピアノ奏法 (FEP5L110)
英文科目名	Piano Lesson I
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ), 津上崇* (つがみたかし*), 早川純平* (はやかわじゅんぺい*), 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	小学校における音楽活動の内容を説明する。演奏に必要な知識と技術に関する各自の習得状況を確認する。 (全教員)
2回	「うみ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「春がきた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「こいのぼり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「日のまる」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「ひらいたひらいた」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「茶つみ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
9回	「かたつむり」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
10回	「かくれんぼ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「うさぎ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「虫のこえ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	「タやけこやけ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	歌唱実技期末試験を実施する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	ピアノ実技試験(発表会形式)の実施及び、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノ学習経験や、興味をもっている音楽について考えておくこと。(標準学習時間6

	0分)
2 回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7 回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
14 回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、ピアノ実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間180分)
15 回	ピアノ実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間60分)

講義目的	小学校教員に求められる、歌唱とピアノ演奏の基礎技術および表現方法を修得することを目的とする。歌唱については、小学校の歌唱共通教材を用いて、楽曲の理解の仕方と歌唱方法を学習する。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、基本的な鍵盤楽器奏法を修得する。各自の経験やスキルに応じたピアノ曲を学び、演奏技術の向上を図る。期の終わりにはピアノ実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。(初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
達成目標	楽譜に示されている情報を読み取り、ピアノ演奏で表現することができる。 小学校で扱われる歌唱教材について、歌詞の内容を把握し、歌で表現することができる。 演奏発表に向けて、計画的に準備することができる。
キーワード	歌唱、ピアノ演奏
成績評価(合格基準60)	歌唱実技中間試験(20%)、歌唱実技期末試験(20%)、ピアノ実技試験(40%)、毎回の授業で出された課題の達成度(20%)によって総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	ピアノ奏法
教科書	個人のレベルに合わせた教材を使用する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室
注意・備考	・この授業は、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。 ・課外学習(個人練習)に励むこと。
試験実施	実施しない

科目名	現代教育課題論（FEP5L210）
英文科目名	Educational Issues in Modern Society
担当教員名	松岡律（まつおかただし）、奥西有理（おくにしゆり）、森敏昭（もりとしあき）、小川孝司（おがわたかし）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	現代社会における学習の意義について説明する (森 敏昭)
2 回	21世紀型学力の育成について説明する (森 敏昭)
3 回	学習指導と評価のあり方について説明する (森 敏昭)
4 回	教師の成長課題を解説する (黒崎 東洋郎)
5 回	国際標準の学力の課題を解説する (黒崎 東洋郎)
6 回	小学校教科の統合・分化と小中一貫教育の課題を解説する (黒崎 東洋郎)
7 回	読むことの授業の実際を視聴し、確かな学力の定着に必要な、「主体的な学び」「対話的な学び」の方法及び重要性などについて説明する (小川 孝司)
8 回	今日的いじめの特徴やいじめ発生の要因、学級のタイプといじめの関係などをもとに、いじめ問題との向き合い方について説明する (小川 孝司)
9 回	読むことの授業の実際を再度視聴し、授業を通して子ども達が自信をもち仲間と共に成長する学級・学校づくりについて説明する (小川 孝司)
1 0 回	非行の発生原因について理論的に解説する 1 (松岡 律)
1 1 回	非行の発生原因について理論的に解説する 2 (松岡 律)
1 2 回	非行防止のために有効な方策について解説する (松岡 律)
1 3 回	学校における外国人児童・生徒について、経済のグローバル化等の観点からその背景を解説する (奥西 有理)
1 4 回	外国人児童・生徒が抱える課題について、日本語教育および母語教育の観点から解説する。 (奥西 有理)
1 5 回	外国人児童・生徒の文化的背景について、異文化感受性の観点から説明し、多様性を活かせる教師力について解説する。 (奥西 有理)

回数	準備学習
1 回	参考書等により、現代社会における学習の意義について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	参考書等により、21世紀型学力の育成について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	参考書等により、学習指導と評価のあり方について予習し、自分自身の考えを発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	何故、教師は学び続ける必要があるのか。成長する教師は、どのような専門性(教職力)を自己成長させることが大切かを3つ考えてくる(標準学習時間60分)
5 回	小学校教育ではぐくむべき資質・能力とは何か、各種アセスメントによる日本の子どもたちの学力の現状を調べてくる(標準学習時間60分)
6 回	生活科、総合的学習、小学校英語科の産まれた背景、及び、小中一貫教育の視点に立つ教科指導がなぜ重要視されるのか、背景を調べてくる。(標準学習時間60分)
7 回	視聴する文学的文章の学習材を通読するとともに、別途配付の資料をもとに、今日求められている授業の姿について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	別途配付の資料をもとに、文部科学省によるいじめの定義の変遷や学校の取り組みなどについて、基本的な考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	第4回講義で配付した学習記録をもとに、子ども一人一人の居場所が確保され、人間的な成長を育む学級集団、授業のあり方について自分の考えをまとめておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	現代における児童・生徒の非行の実態について調べてくる。(標準学習時間60分)
11 回	非行・犯罪に走る人とそうでない人との違いは何か、考えて来る。(標準学習時間60分)
12 回	非行傾向のある児童・生徒とどう接すればいいのか、考えて来る。(標準学習時間60分)
13 回	日本の各自治体における外国人の人口構成と国籍割合について、公的な統計資料を基に調べ、発表できるように準備しておくこと。(標準学習時間60分)
14 回	日本で学ぶ外国人児童・生徒にとって、日本語教育と母語教育がどのような意味を持つかについて、与えられた具体的ケースについて考えてくること。(標準学習時間60分)
15 回	配布された異文化感受性発達モデルに基づき、与えられた具体的ケースについて記述的説明を考えてくること。(標準学習時間90分)。

講義目的	現代の教育をめぐる様々な課題について、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育の立場から複数のトピックスを取り上げ、各課題の背景・現状・展望について学び、これからの教育の在り方について考えることを目標とする。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題の検討を通じて、「現実」に対する多面的なアプローチの可能性を理解し、複眼的思考を持てるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60)	各担当者ごとの小レポート点(20点×5)を合計して評価する。 総計60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	図画工作科教育法（FEP5L310）
英文科目名	Teaching Arts and Handicrafts for Primary Education
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション（講義の計画とその進め方についての説明）をする。 図画工作科における子どもの表現の今を説明し、現状から課題やその改善点についての話し合いをする。
2 回	A表現（１）材料をもとに造形遊びをする」（１）の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。
3 回	A表現（１）材料をもとに造形遊びをする」（２）の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：造形遊び（水彩絵の具使用）
4 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）の題材について説明し、指導法や準備、危機管理について説明し、その後、題材に応じた場の設定等について話し合い、より理解を深めるようにする。 実技：立体に表す＝粘土
5 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）「絵に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：絵に表す＝見て描く
6 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）「版に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：版に表す＝木版画
7 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）紙を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：紙を使った工作
8 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）木を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：電動糸のこを使った木工工作
9 回	B鑑賞の指導の実際を説明し、その後、実技として目標に応じた鑑賞教材を選択・分析し、話し合いをする。 実技：美術鑑賞作品分析
10 回	デジタル機器を使った表現の指導とその実際について説明し、その後、第4回講義で制作した粘土作品を用いて実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：デジタルカメラを用いたアニメーション制作
11 回	学習指導案作成におけるポイントや注意事項等について説明し、グループごとに学習指導案作成に向け、題材や授業展開についての話し合いをする。
12 回	学習指導案作成に向け、個々に考えた授業展開について発表し、グループで話し合いをする。
13 回	授業評価について説明する。 模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。
14 回	模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。
15 回	模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。 児童の作品評価について説明し、講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	学校教育において図画工作科の現状や課題について予想し、説明できるようにまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	図画工作科における課題と改善点について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と次期学習指導要領第7節図画工作（文科省ホームページ参照）を読み、A表現「造形遊び」について示されている低学年の（１）アと（２）アについてまとめておくこと。（標準学習時間 30 分）

3 回	低学年の造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、準備、配慮事項について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と次期学習指導要領第 7 節図画工作（文科省ホームページ参照）を読み、A 表現「造形遊び」について示されている中・高学年の（1）アと（2）アについてまとめること。（標準学習時間 60 分）
4 回	中・高学年の造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、準備、配慮事項について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「立体に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
5 回	「立体に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「絵に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
6 回	「絵に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「版に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
7 回	「版に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、紙を使った工作題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
8 回	紙を使った工作題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、木を使った工作題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
9 回	木を使った工作題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、鑑賞題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
10 回	鑑賞題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、デジタル機器を用いた題材や漫画、アニメーションに関わる題材についてその特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
11 回	デジタル機器を用いた題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 表現（全領域）と鑑賞それぞれの具体的指導法（場の設定、安全管理等含む）についてまとめること。（標準学習時間 60 分）
12 回	グループで決定した題材について実施学年に照らし合わせながら、まとめること。（標準学習時間 20 分） 自分の考えが提案できるように、授業展開（本時案）を作成すること。（標準学習時間 120 分）
13 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 実践に必要な掲示物等を作成すること。（標準学習時間 90 分）
14 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 実践に必要な掲示物等を作成すること。（標準学習時間 90 分）
15 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 教科書と配布物を読み、作品評価についてまとめること。（標準学習時間 40 分）

講義目的	教科書に挙げられている題材に基づき、実際に作品を制作することで、小学校学習指導要領図画工作編で述べられている目標や指導事項についての理解を深めるとともに、題材や効果的な指導法を分析する。そして、分析したことをもとに、学習指導案作成や模擬授業に取り組む。本講義を通して、図画工作科における指導内容の深い理解と効果的な指導法を身につけることを目的とする。（A）
達成目標	・小学校学習指導要領図画工作に述べられていることに照らしながら、実技（作品制作）を通して、児童の発達段階やそれに応じた指導法を具体的かつ実践的に理解することができる。（A） ・道具の正しい使い方と、多様な表現技法を身に付けることができる。（A） ・実技を通して理解した指導内容や指導法をもとに、学習指導案を作成したり、模擬授業を行ったりすることができる。（A）
キーワード	実技（作品制作）、具体的指導法、教材研究、模擬授業
成績評価（合格基準 60 点以上）	講義後のミニレポート 10 % と作品 10 %（作品制作を実施しないときは、講義後のミニレポートで 20 %） 既習事項を生かした模擬授業 30 %

	課題レポート50%
関連科目	図画工作科内容論 教材分析・開発演習C
教科書	「図画工作科の指導と学び」村田利裕・新関伸也編 ミネルヴァ書房 今春出版予定
参考書	平成20年 学習指導要領解説 図画工作編 小学校図画工作教科書（日本文教出版・開隆堂）
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
注意・備考	・実技を行うので、実技に必要な道具等は、各自準備し、必ず持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。 ・講義内容に応じてアクティブラーニングとして、グループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については講義中に模範解答を配布するか、解説によるフィードバックを行う。 ・講義資料を講義開始時、または講義中に配布する。特別な理由がない限り、後日配布はしない。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は認めない。特別な事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	初等社会科内容論（FEP5N110）
英文科目名	Social Studies for Primary Education
担当教員名	紙田路子（かみたみちこ）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、社会科の目標である市民的資質の概念について説明する。
2 回	市民的資質を構成する知識・技能・態度について、中央教育審議会答申、および新学習指導要領をもとに説明する。
3 回	学習指導要領解説社会科編の分析を通して、小学校社会科の内容編成原理について説明する。
4 回	中学年社会科授業における社会認識の方法（フィールドワーク）と内容（地誌学的視点）について説明する。
5 回	中学年社会科授業における社会認識（地域のへの貢献・参画の視点）について説明する。
6 回	中学年社会科授業における社会認識（公共施設の役割）について説明する。
7 回	中学年社会科授業における社会認識（地域の歴史・文化）について説明する。
8 回	高学年社会科授業における社会認識（日本農業とフードシステム）について説明する。
9 回	高学年社会科授業における社会認識（日本の工業と経済システム）について説明する。
10 回	高学年社会科授業における社会認識（解釈としての歴史学習）について説明する。
11 回	高学年社会科授業における社会認識（政治と法）について説明する。
12 回	価値判断能力を育成する社会科授業の目的・内容・方法について説明する。
13 回	小学校高学年社会科における世界地理（領土と国際交流）について説明する。
14 回	小学校社会科学習の特質と課題について説明する。
15 回	これまでの講義内容をもとに、小学校社会科授業の教材を開発する。
16 回	最終評価試験を実施する。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1 回	初等社会科教育のシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。（1時間）
2 回	前回の講義で配布した中央教育審議会答申、および新学習指導要領を読み、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」について整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。（2時間）
3 回	学習指導要領解説社会科編を読み、各学年の学習内容における「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」についてまとめておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。（2時間）（1.5時間）
4 回	前回の講義で配布した小学校第3学年単元「私たちの町を調べよう」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
5 回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「ごみの処理と私たちの生活」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
6 回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「水はどこから」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
7 回	前回の講義で配布した小学校第4学年単元「地域のために尽くした人々」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
8 回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「日本農業とフードシステム」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
9 回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「日本の工業と自動車産業」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと（2時間）。
10 回	前回の講義で配布した小学校第5学年単元「明治時代—産業化する社会」の授業計画書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。（2時間）
11 回	前回の講義で配布した小学校第6学年単元「協働化する社会」「アメリカの人権問題」の授業計画

	書と実践記録について目を通し、「生きて働く知識・技能」「思考力・判断力・表現力」について整理しておくこと。(2時間)
1 2 回	新小学校学習指導要領解説社会科編を読み、主体的な判断力形成についてのどのように記述されているか整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い、評価する。(1.5時間)
1 3 回	前回の講義で配布した資料を読み、小学校社会科では領土問題と国際交流の視点から世界地理がどのように扱われているか整理しておくこと。(2時間)
1 4 回	これまでの講義内容から小学校社会科の特徴について整理したうえで、考えられる問題点について整理しておくこと。なおこの課題をもとにグループディスカッションを行い評価する。(2時間)
1 5 回	小学校社会科の教材開発のための資料を準備しておくこと。(2時間)
1 6 回	小学校社会科学習の内容について、市民的資質育成の面から説明できるようにしておくこと。(3時間)

講義目的	社会科授業設計を行うために必要な社会認識を身に着けるとともに教材開発力を養う。(この講義は教育学部の学位授与方針のA・Cに強く関与する)
達成目標	1. 小学校社会科における教科内容を地理的、歴史的、公民的分野から科学的に分析・吟味することができる。(A) 2. 小学校児童が現代社会の課題や将来の展望を思考・判断するのに有益な主題について認識し、教材開発に生かすことができる。(A・C) 3. 目的に応じて複数の資料を収集し、教材開発を行うことができる。(C)
キーワード	社会認識、科学的知識、社会構成主義、価値観形成、主体的な判断力の育成、フードシステム、経済システム、法・政治システム、地誌的視点、フィールドワーク、地域への貢献・参画、歴史的な解釈、社会的な見方・考え方
成績評価(合格基準60)	最終評価試験60%(主に達成目標1・2を評価)、レポート20%(主に達成目標2・3を評価)、グループ発表20%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	探究活動 を受講していることが望ましい。
教科書	『小学校学習指導要領 解説 社会編』/文部科学省/東洋館出版社 その他、必要な資料等は講義の中で適宜配布する。
参考書	『社会科授業構成の理論と方法』/森分孝治/明治図書/1978年 『社会科固有の授業論 30の提言』/岩田一彦/明治図書/2001年
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
注意・備考	・実際に授業に立つことを考え、高い目的意識をもって講義に臨むことが望ましい。・社会科は「社会を知る」教科である、という特性を持つ。日ごろから新聞やニュースに目を通し、社会に関心をもつことが望ましい。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。 ・試験は定期試験中に行う。
試験実施	実施する

科目名	図画工作科教育法（FEP5N310）
英文科目名	Teaching Arts and Handicrafts for Primary Education
担当教員名	妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション（講義の計画とその進め方についての説明）をする。 図画工作科における子どもの表現の今を説明し、現状から課題やその改善点についての話し合いをする。
2 回	A表現（１）材料をもとに造形遊びをする」（１）の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。
3 回	A表現（１）材料をもとに造形遊びをする」（２）の学習指導法について説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：造形遊び（水彩絵の具使用）
4 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）の題材について説明し、指導法や準備、危機管理について説明し、その後、題材に応じた場の設定等について話し合い、より理解を深めるようにする。 実技：立体に表す＝粘土
5 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）「絵に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：絵に表す＝見て描く
6 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）「版に表す」の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：版に表す＝木版画
7 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）紙を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：紙を使った工作
8 回	A表現（２）「絵や立体、工作に表す」（２）木を使った表現の指導の実際を説明し、その後、実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：電動糸のこを使った木工工作
9 回	B鑑賞の指導の実際を説明し、その後、実技として目標に応じた鑑賞教材を選択・分析し、話し合いをする。 実技：美術鑑賞作品分析
10 回	デジタル機器を使った表現の指導とその実際について説明し、その後、第4回講義で制作した粘土作品を用いて実技を実施し、より理解を深めるようにする。 実技：デジタルカメラを用いたアニメーション制作
11 回	学習指導案作成におけるポイントや注意事項等について説明し、グループごとに学習指導案作成に向け、題材や授業展開についての話し合いをする。
12 回	学習指導案作成に向け、個々に考えた授業展開について発表し、グループで話し合いをする。
13 回	授業評価について説明する。 模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。
14 回	模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。
15 回	模擬授業 を実施し、改善点等についての話し合いをする。 児童の作品評価について説明し、講義の総括をする。

回数	準備学習
1 回	学校教育において図画工作科の現状や課題について予想し、説明できるようにまとめておくこと。（標準学習時間 60 分）
2 回	図画工作科における課題と改善点について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と次期学習指導要領第7節図画工作（文科省ホームページ参照）を読み、A表現「造形遊び」について示されている低学年の（１）アと（２）アについてまとめておくこと。（標準学習時間 30 分）

3 回	低学年の造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、準備、配慮事項について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と次期学習指導要領第 7 節図画工作（文科省ホームページ参照）を読み、A 表現「造形遊び」について示されている中・高学年の（１）アと（２）アについてまとめること。（標準学習時間 60 分）
4 回	中・高学年の造形遊びについて、目標と実技を照らし合わせながら、準備、配慮事項について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「立体に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
5 回	「立体に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「絵に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
6 回	「絵に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、「版に表す」について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
7 回	「版に表す」の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、紙を使った工作題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
8 回	紙をつかった工作題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、木を使った工作題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
9 回	木を使った工作題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、鑑賞題材について 6 年間の系統と各学年の特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
10 回	鑑賞題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 教科書と配付資料を読み、デジタル機器を用いた題材や漫画、アニメーションに関わる題材についてその特徴をまとめること。（標準学習時間 40 分）
11 回	デジタル機器を用いた題材の具体的指導法について復習すること。（標準学習時間 30 分） 表現（全領域）と鑑賞それぞれの具体的指導法（場の設定、安全管理等含む）についてまとめること。（標準学習時間 60 分）
12 回	グループで決定した題材について実施学年に照らし合わせながら、まとめること。（標準学習時間 20 分） 自分の考えが提案できるように、授業展開（本時案）を作成すること。（標準学習時間 120 分）
13 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 実践に必要な掲示物等を作成すること。（標準学習時間 90 分）
14 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 実践に必要な掲示物等を作成すること。（標準学習時間 90 分）
15 回	グループで話し合った授業展開の見直しをすること。（標準学習時間 20 分） 教科書と配布物を読み、作品評価についてまとめること。（標準学習時間 40 分）

講義目的	教科書に挙げられている題材に基づき、実際に作品を制作することで、小学校学習指導要領図画工作編で述べられている目標や指導事項についての理解を深めるとともに、題材や効果的な指導法を分析する。そして、分析したことをもとに、学習指導案作成や模擬授業に取り組む。本講義を通して、図画工作科における指導内容の深い理解と効果的な指導法を身につけることを目的とする。（A）
達成目標	・小学校学習指導要領図画工作に述べられていることに照らしながら、実技（作品制作）を通して、児童の発達段階やそれに応じた指導法を具体的かつ実践的に理解することができる。（A） ・道具の正しい使い方と、多様な表現技法を身に付けることができる。（A） ・実技を通して理解した指導内容や指導法をもとに、学習指導案を作成したり、模擬授業を行ったりすることができる。（A）
キーワード	実技（作品制作）、具体的指導法、教材研究、模擬授業
成績評価（合格基準 60 %）	講義後のミニレポート 10 % と作品 10 %（作品制作を実施しないときは、講義後のミニレポートで 20 %） 既習事項を生かした模擬授業 30 %

	課題レポート50%
関連科目	図画工作科内容論 教材分析・開発演習C
教科書	「図画工作科の指導と学び」村田利裕・新関伸也編 ミネルヴァ書房 今春出版予定
参考書	平成20年 学習指導要領解説 図画工作編 小学校図画工作教科書（日本文教出版・開隆堂）
連絡先	A1号館9階妻藤研究室
注意・備考	・実技を行うので、実技に必要な道具等は、各自準備し、必ず持参すること。友達との貸し借りはしないこと。また、大学からの貸し出しもしない。 ・講義内容に応じてアクティブラーニングとして、グループワークやグループディスカッションを行う。 ・提出課題については講義中に模範解答を配布するか、解説によるフィードバックを行う。 ・講義資料を講義開始時、または講義中に配布する。特別な理由がない限り、後日配布はしない。 ・講義中の録音/録画/板書等の撮影は認めない。特別な事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	教職論（FEP50110）
英文科目名	Introduction to the Teaching Profession
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画、履修に向けての心構えを説明する。
2 回	公教育制度と法体系について説明する。
3 回	教育の歴史と学校教育制度の成立について説明する。
4 回	学校教育の内容及学習指導要領について説明する。
5 回	学級経営と学習指導の原理と方法について説明する。
6 回	生徒指導と進路指導の原理と実際について説明する。
7 回	教科外の教育―特別活動と道徳の時間の指導について説明する。
8 回	学校と地域の連携における教師の役割について説明する。
9 回	全体の奉仕者・教育公務員としての教員について説明する。
1 0 回	学校組織の一員としての教員と校務分掌について説明する。
1 1 回	教員の身分と服務及び職務について説明する。
1 2 回	生涯学習の観点からみたキャリアとしての教職について説明する。
1 3 回	専門職としての教員について説明する。
1 4 回	教育改革の動向と学校教育の課題について説明する。
1 5 回	教職に向けての省察について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（標準学習時間80分）
2 回	公教育という言葉についてテキストなどで調べておくこと。（標準学習時間100分）
3 回	公教育制度に関わる法体系について復習しておくこと。 学校教育の制度や歴史に関心を持っておくこと。（標準学習時間100分）
4 回	教育の歴史と学校教育制度の成立について復習しておくこと。 学校教育の内容及学習指導要領について復習しておくこと。（標準学習時間100分）
5 回	学級経営や学習指導方法などについて関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
6 回	学級経営の基本的な考え方や効果的な学習指導の方法について復習しておくこと。 生徒指導や進路指導について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
7 回	生徒指導や進路指導の原理について復習しておくこと。 特別活動と道徳の時間の指導など、教科外の教育について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
8 回	教科外の教育について復習しておくこと。 教師の役割について、学校と地域の連携の観点から関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
9 回	学校と地域の連携における教師の役割について復習しておくこと。 全体の奉仕者であり、また教育公務員でもある教員の仕事について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 0 回	教育公務員としての教師のあり方や役割について復習しておくこと。 学校組織の一員としての教員と校務分掌について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 1 回	学校という組織の中での教員の仕事について復習しておくこと。 教員の身分と服務及び職務について関心を持ち、テキストの関係箇所の予習をしておくこと。（標準学習時間100分）
1 2 回	教員の身分及び服務・職務などについて復習しておくこと。 生涯学習の観点から、キャリアとしての教職について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
1 3 回	キャリアとしての教職について生涯学習の観点から復習しておくこと。 教員を専門職として考えることについて関心をもっておくことと、テキストの関係箇所の予習をしておくこと。（標準学習時間90分）
1 4 回	専門職としての教員のあり方について復習しておくこと。 これからの教育改革の動向と、今後の学校教育の課題について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 5 回	これからの教育の課題について復習しておくこと。 自らの目指す教師像について考えておくことと、最終評価試験に向けてこれまでの授業の内容を復習すること。（標準学習時間120分）

講義目的	本講義の目的は教師の職務内容を理解し、教職の意義と教員の役割を明確にすることにある。この講義では、教師という存在と教職の本質を中心に、公教育における教職の意義や教員の役割、学校
------	--

	現場での教師の仕事等について、歴史的、制度的、実践的な側面から理解することを通じて、専門職としての教員に求められる資質、能力の基礎を培い、自らの教師像を明確にすることを目指す。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	1. 学校教育における教師の役割と職務内容についての理解を深める（B）。 2. 学校教育における教育活動の内容と課題を理解する（B）。 3. 教師としての自らの在り方を探究し、教師像を明確にする（B）。
キーワード	教職、学校、教師像
成績評価（合格基準60	最終評価試験による評価（80点）とレポートによる評価（20点）計100点
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
教科書	『よくわかる教育学原論』/安彦忠彦他編/ミネルヴァ書房（教育学原論（必修科目・秋学期）と共通のテキスト）
参考書	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
連絡先	A1号館 9F 山中研究室
注意・備考	この科目は教員免許状取得のための必修科目です。
試験実施	実施する

科目名	算数科内容論 (FEP5P110)
英文科目名	Arithmetic
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	算数科においては、標準指導時数の中で、算数科の指導内容は「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データ活用」で4つの領域で構成されていることを解説する。
2 回	算数科の目指す資質能力について解説する。「数学的な見方考え方」「数学的活動」「数学的に考える」の3者の関係を解説する。
3 回	「数と計算」の領域の整数に関する指導内容を体系的に解説する。
4 回	「数と計算」において、第3学年以降で取り扱う「小数」の指導内容について解説する。
5 回	「数と計算」において、第2学年以降で取り扱う「分数」の指導内容について解説する。
6 回	低学年の加法、減法について2つの計算の意味があること、及び、計算の意味に基づく計算原理を解説する。
7 回	基本的なかけ算の意味と九九の構成の仕方及びわり算の意味について解説する。
8 回	コンピューター活用時代の四則計算の筆算の価値及びその計算の仕方を解説する。加法、乗法、除法の筆算を重点的に解説する。
9 回	小数・分数のかけ算の意味を解説する。
10 回	小数・分数のかけ算・わり算の仕方を解説する。分数のかけ算・わり算の仕方を重点的に解説する。
11 回	「図形」の領域における基本的図形(平面図形、立体図形)の意味や性質を解説する。
12 回	長方形の面積、三角形、四角形の面積、円の面積など、図形の面積の体系的な指導内容について解説する。
13 回	「変化と関係」の領域における比例の表、式、グラフの指導内容、比例の活用について解説する。
14 回	「データ活用」の領域において、データの分類整理と表・グラフの特徴を解説する。
15 回	散らばりのあるデータの整理の仕方、不確定事象の起こりうる場合の考察の仕方など、統計的探究のプロセスを解説する。
16 回	定期試験を行う。試験後、解答例を口頭で解説する。

回数	準備学習
1 回	小学校の算数科の標準時数、算数科の指導内容としてどのような領域で、どのような指導内容が取り扱われるのかを概観すること。2時間。
2 回	「数学的な見方考え方」「数学的活動」「数学的に考える」について、事前に調べてくること。2時間。
3 回	第1学年、第2学年、第3学年と学年が上がるに従って取り扱われる整数についての指導内容を系統的に事前に調べる。2時間。
4 回	第3学年以降で取り扱う「小数」の指導内容について系統的に調べてくること。2時間。
5 回	第2学年以降で取り扱う「分数」の指導内容について系統的に調べてくること。2時間。
6 回	第1学年で取り扱う加法、減法の計算の意味と計算の仕方を調べてくること。2時間。
7 回	第2学年のかけ算の意味と九九の構成の仕方、第3学年のわり算の意味について調べてくること。2時間。
8 回	筆算とは暗算の違い。加法、乗法、除法の基本的な筆算の原理を事前に調べてくること。2時間。
9 回	整数の場合のかけ算の意味と小数・分数のかけ算の意味の違いを調べて来る。2時間。
10 回	小数・分数のかけ算・わり算の原理を調べてくること。2時間。
11 回	図形指導の系統性や三角形、四角形、円(対象概念)の意味について事前に調べてくること。2時間。
12 回	円周、円の面積における指導内容について事前に調べてくること。2時間。
13 回	4, 5, 6年の「変化と関係」に関する学習指導案を、表、式、グラフ指導の得意分野で1事例を構成し、持ち寄る。2時間。
14 回	データを整理するポイントと2次元表や棒グラフ、割合のグラフの特徴を調べてくること。2時間。
15 回	統計的な見方・考えを伸ばす探究プロセス、度数分布表の区間の決め方によってデータがどのように変わるか調べてくること。2時間。

講義目的	「数学的な見方考え方を道具として働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える」資質能力むた
------	--

	めの算数科の4領域の指導内容について理解させる（初等教育学課学位授与方針Aに関する修得）
達成目標	算数科を担当する上で最小限必要な「数学的な見方考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える」という資質・能力を育むための4領域の指導内容を確実に理解する（A）。
キーワード	数と計算の意味、計算の原理、図形の意味と性質、測定の原理、比例関係、統計的探究プロセス、代表値、統計の表とグラフ
成績評価（合格基準60	学習指導内容に関するレポート（A）20％、小テスト（A）20％、定期試験（A）60％
関連科目	算数科教材研究・教材開発、算数科教育法、理数教育の実践方法
教科書	学習指導要領解説算数科編、検定教科書『わくわく算数』啓林館（5，6年）
参考書	・志水、黒崎他、「小学校算数科の指導」、kenpakusya社、2010．片桐重雄『算数教育学概論』、東洋館出版社、2014、『数学教育学研究ハンドブック』、東洋館出版社、2010．
連絡先	教育学部初等教育学科 A1号館906室
注意・備考	講義内容を録音、録画したり、板書、パワーポイントの画像を撮影することは禁止する。
試験実施	実施しない

科目名	教育の方法と技術（初等）（FEP5P210）
英文科目名	Educational Approach and Techniques (Primary)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	学校教育の目標と教育方法について説明する。
2 回	学習理論と教育方法について説明する。
3 回	知識習得を支援する教育方法について説明する。
4 回	思考力を育成する教育方法について説明する。
5 回	表現力を育成する教育方法について説明する。
6 回	学習意欲を高める教育方法について説明する。
7 回	自己形成を支援する教育方法について説明する。
8 回	発達段階に応じた教育方法について説明する。
9 回	学習理論と教育方法の類型について説明する。
1 0 回	総合学習の教育方法について説明する。
1 1 回	協同的な学びの教育方法について説明する。
1 2 回	アクティブ・ラーニングの教育方法について説明する。
1 3 回	教育評価の方法と技術について説明する。
1 4 回	情報教育とICTの活用について説明する。
1 5 回	21世紀型学力と教育方法について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	授業の前に、学校教育の目標と教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書等により、学習理論と教育方法について予習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	授業の前に、学習理論と教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、知識習得を支援する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	授業の前に、知識習得を支援する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、思考力を育成する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	授業の前に、思考力を育成する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、表現力を育成する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	授業の前に、表現力を育成する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、学習意欲を高める教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	授業の前に、学習意欲を高める教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、自己形成を支援する教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	授業の前に、自己形成を支援する教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、発達段階に応じた教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	授業の前に、発達段階に応じた教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、学習理論と教育方法の類型に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	授業の前に、学習理論と教育方法の類型について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、総合学習の教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	授業の前に、総合学習の教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、協同的な学びの教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	授業の前に、協同的な学びの教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、アクティブ・ラーニングの教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	授業の前に、アクティブ・ラーニングの教育方法について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、教育評価の方法と技術に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	授業の前に、教育評価の方法と技術について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、情報教育とICTの活用に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	授業の前に、情報教育とICTの活用について説明・質疑応答ができるように復習し、参考書などにより、21世紀型学力と教育方法に関し予習しておくこと。（標準学習時間120分）
1 6 回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	学力を育成するための教育方法を正しく深く理解し、学校教育での学習指導に主体的・創造的に取り組む資質を養うことを目的とする。そのために、教育心理学の最新の知見を学校での教科学習の教育方法と関係づけて講義する。「学位授与の方針」のA（各教科の内容を理解し、効果的な指導法を身につけている）およびC（現代の教育実践に必要な知識・技術を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	小学校教育において豊かな学力を育成するための教育方法について理解を深める。各教科の学習指導に共通する「知識・理解力」「思考・判断力」「技能・表現力」「関心・意欲・態度」を育成するための効果的な教育方法について理解を深める。学位授与方針のA（上記）およびC（上記）に関連する科目である。
キーワード	学習指導
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育心理学
教科書	
参考書	よくわかる学校教育心理学 / 森 敏昭ほか / ミネルヴァ書房 / ISBN978-4-623-05642-2
連絡先	A 1号館 9 F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。深い学びを促すために、各回の授業の終わりに学習内容についての質問を用紙に書いて提出させ、その質問に対する回答のための時間を次の授業の最初に設ける。
試験実施	実施する

科目名	初等理科教育法（FEP5Q210）
英文科目名	Teaching Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のオリエンテーションを行うとともに、小学校での理科指導についての学習指導要領での目標・学習過程等を解説する．
2 回	学習器具の取り扱い方，および安全面への配慮，試薬の調整について解説する．
3 回	科学のそれぞれの事象や現象に対する児童の素朴な考え方と研究者の考え方との違いを議論し，科学的な見方・考え方の本質を捉えるようにする．
4 回	事象・現象の理解を促進するためのイメージ図の書き方，アナロジー，メタファーについて事例を挙げながら解説する．
5 回	理科学習における評価について解説する．評価の方法，評価基準，評価規準，および形成的評価について解説する．
6 回	小学校学習指導案の作成，授業計画の立案方法，予備実験の方法，安全面の確保について解説する．
7 回	小学校理科学習における教材開発について，その必要性和各領域の特性を交えながら解説する．
8 回	個別実験とグループ実験の違いを議論するとともに，それぞれのメリット・デメリットを，実例をあげながら解説する．
9 回	小学校理科学習指導案の作成を行い，各グループで議論を重ね，検討する．
1 0 回	第1回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 1 回	第2回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 2 回	第3回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 3 回	第4回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 4 回	第5回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 5 回	これまでの模擬授業の成果と問題点を総括し，改善案の検討を行う．
1 6 回	試験を行う．

回数	準備学習
1 回	小学校学習指導要領理科編を各学年ごとにまとめ，目標と内容を十分に理解しておくこと．（60分）
2 回	安全は最も指導者が配慮すべき問題である．火気の取り扱い方法やアルコールの特性および保管法など十分に予習しておくこと．（60分）
3 回	科学的な見方・考え方とはどのようなことを意味しているのかを自分なりにまとめ，議論に備えておくこと．（60分）
4 回	科学でモデルは重要な位置を占めるが，モデルとは何かを議論を通して考え，児童の素朴な概念から科学に近づく過程を自分なりに考えておくこと．（60分）
5 回	理科学習での評価にはどのような評価があり，どのような観点から評価を行うのか，1つの単元を例にとって自分なりに考えておくこと．（60分）
6 回	実際に授業を立案する際に，どのような手順が必要になってくるか，一つ一つの手順の意味づけを自分なりに考えておくこと．（60分）
7 回	各領域の教材開発にはどのような意味があり，目標とどのような関わりを持っているのかを，例を挙げて考えておくこと．（60分）
8 回	実験を行う際の，グルーピングの手法について自分なりの考えをつくっておくこと．（60分）
9 回	実際の小学校での理科学習指導案を作成しておくこと．（60分）
1 0 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 1 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 2 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 3 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 4 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）

1 5 回	模擬授業を総括し、様々な事例と比較しながら、まとめておくこと。(60分)
1 6 回	最終評価試験に備えて、1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の目標や学習内容をどのような指導法でアプローチするかを検討し、さらに学習者の評価の方法も学ぶ。後半は模擬授業での相互評価を行いながら授業実践の力量を身につける。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	児童が学習内容を十分に理解するためには、実際の授業でどのような目標設定を行い、どのような教材を設定し、どのような授業構成にし、どのような評価を行うか等、様々な点から検討された学習が提供される必要がある。様々な指導法をグループで検討した上で実際の授業を行い、改善を繰り返しながら「授業の作り方」を自分なりに行えるようにする。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	指導法の理解、指導の実践、模擬授業、相互評価
成績評価（合格基準60	実験レポート40%、試験60%の点数を合計し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	初等理科内容論
教科書	小学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書
参考書	講義の中で適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 山下研究室
注意・備考	・本講義はアクティブラーニングをもとに目標達成を目指す講義である。・実験時には白衣等の着用、安全ゴーグル着用のこと・指導計画は受講状況により変更することがある。・講義中の録音・録画・撮影は原則として認めないが、事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	教育学演習（教育史）（FEP5Q310）
英文科目名	Pedagogical Seminar (History of Education)
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	教育学における教育史研究の意義と方法について説明する。
2 回	教育史研究の領域と基礎文献について説明する。
3 回	教育史の諸問題について概説する。
4 回	個別テーマの検討（1）儒学の教育思想と日本における展開について分析する。
5 回	個別テーマの検討（2）貝原益軒の和俗童子訓の内容を検討する。
6 回	個別テーマの検討（3）貝原益軒の教育論の近世的意義について考察する。
7 回	個別テーマの検討（4）国学の教育思想と近世的展開について説明し、討議する。
8 回	個別テーマの検討（5）近世日本の子ども像について説明し、討議する。
9 回	個別テーマの検討（6）幕末における教育近代化への胎動について説明し、討議する。
10 回	個別テーマの検討（7）欧米教育の受容と近代学校の成立について説明し、討議する。
11 回	個別テーマの検討（7）欧米の新教育運動と大正期の教育改革について説明し、討議する。
12 回	個別テーマの検討（9）教育実践記録を歴史的観点から分析考察する。
13 回	個別テーマの検討（10）戦後民主教育の思想について説明するとともに、討議する。
14 回	個別テーマの検討（11）戦後民主主義教育における教育内容の改革と学習指導要領の歴史的変遷について説明するとともに、その特質について討議する。
15 回	日本の教育の歴史的特質について、これまでの内容を踏まえて討議する。
16 回	定期試験を行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（準備学習時間30分）
2 回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習しておくこと。（準備学習時間30分）
3 回	すでに履修した教育学原論の講義の中で取り上げた教育の歴史的内容を復習するとともに、その際使用したテキストの関連部分を復習しておくこと。（準備学習時間45分）
4 回	日本の近世という時代の特徴について考えておくこと。（準備学習時間30分）
5 回	江戸時代の代表的な儒学者についてその概要を調べておくこと。（準備学習時間45分）
6 回	江戸時代の代表的な儒学者の中で、貝原益軒の特徴を考えておくこと。（準備学習時間45分）
7 回	国学という学問の特質と、儒学との違いについて考えておくこと。（準備学習時間45分）
8 回	子どもという存在の特質について考えておくこと。（準備学習時間30分）
9 回	幕末という時代の特徴について考えておくこと。（準備学習時間30分）
10 回	明治初期の教育近代化へ向けての動きに関心を持っておくこと。（準備学習時間30分）
11 回	明治の末から大正にかけての教育の歴史に関心を持っておくこと。（準備学習時間30分）
12 回	教育実践を記録することに意義について考えておくとともに、その分析への関心を持っておくこと。（準備学習時間45分）
13 回	戦後の教育の特質を戦前との比較の視点から考える事への関心を持っておくこと。（準備学習時間45分）
14 回	学習指導要領の基本的な特徴について復習しておくこと。（準備学習時間45分）
15 回	これまでの授業内容を復習し、日本の教育の歴史的特質についてあらかじめ考えておくこと。（準備学習時間45分）
16 回	これまでの授業の各回の内容をまとめておくこと。（60分）

講義目的	（1）教育による人間形成の様相を歴史的に考察し、その特質を理解する。 （2）教育の歴史的研究に必要な史料の分析方法を修得する。 （3）教育の歴史に関する問題意識を深め、これからの教育のあり方を考える姿勢を培う。
達成目標	人類の歴史とともにある教育の営みは、時代や地域の違いに応じて多様に展開する。その過程において、教育のあり方に関してどのような考え方が表明され、いかなる教育実践が展開し、子どもたちはどのように時代を担う大人へと成長していったのか。この授業では教育に関する思想や制度、実践の歴史的展開とそれに伴う諸問題を中心に、

	諸外国の教育との比較的な視点から、文献の読解と分析的考察を進めることでこれからの教育のあり方を考えることが出来ることを目的とするとともに、教育に関わることへの確かな使命感を持ち行動ができるようになる素地を養う。
キーワード	教育学 教育史 史料の読解と分析 教職への使命感
成績評価（合格基準60	定期試験による評価 50点と、随時提出のレポートによる評価 50点の計 100点満点。
関連科目	教職論、教育学原論 教育史
教科書	適宜、参考資料を配布する。
参考書	『こどもの教育の歴史』（名古屋大学出版会）
連絡先	A1号館901研究室
注意・備考	この授業は演習科目であるので、15回の講義の中では随時アクティブラーニングの方法を取り入れ、個々の調査研究に基づく共同討議や意見交換を行う。 またこの授業は演習科目であり、受講生の教育史に関する問題意識や関心の内容に即して授業内容を構成する必要があるので、実際の授業内容は上記を基本として随時関連する内容を取り入れていくことになる。
試験実施	実施する

科目名	教育学演習（教育心理学）（FEP5Q320）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Educational Psychology)
担当教員名	森敏昭（もりとしあき）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	教育心理学の論説論文および研究論文を読む際の留意点について説明する。
2 回	論説論文講読演習（1）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
3 回	論説論文講読演習（2）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
4 回	論説論文講読演習（3）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
5 回	論説論文講読演習（4）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
6 回	論説論文講読演習（5）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
7 回	論説論文講読演習（6）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
8 回	論説論文講読演習（7）：教育心理学に関する論説論文を読んで発表・議論する。
9 回	研究論文講読演習（1）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
10 回	研究論文講読演習（2）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
11 回	研究論文講読演習（3）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
12 回	研究論文講読演習（4）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
13 回	研究論文講読演習（5）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
14 回	研究論文講読演習（6）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
15 回	研究論文講読演習（7）：教育心理学に関する研究論文を読んで発表・議論する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、授業計画の概要を把握しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
3 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
4 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
6 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
7 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
8 回	『認知心理学者新しい学びを語る』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理・復習しておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
11 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
12 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	授業の前に、『教育心理学研究』から興味ある論文を選び、その概要をわかりやすく説明できるように予習し、授業での議論の論点を整理し復習しておくこと。（標準学習時間120分）
16 回	1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	教育心理学に関係する論説論文および研究論文の内容を正しく理解し、発表・議論を通して卒業論
------	--

	文の作成に不可欠な批判的思考力・創造的思考力を育成する。「学位授与の方針」のB（小学校教育の意義と役割を理解し、教職に関わることへの強い使命感を身につけている）に関連する科目である。
達成目標	教育心理学に関する論説論文を正しく読解する。教育心理学に関する論説論文の概要の発表・議論を通して批判的思考力および創造的思考力を身に付ける。教育心理学に関する研究論文を正しく読解する。教育心理学に関する研究論文の概要の発表・議論を通して批判的思考力および創造的思考力を身に付ける。学位授与の方針Bに関連する科目である。
キーワード	
成績評価（合格基準60	提出課題30%、最終評価試験70%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において基準点を設け、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	教育心理学
教科書	使用しない。
参考書	日本教育心理学会の機関誌である『教育心理学研究』
連絡先	A 1 号館 9 F 森研究室
注意・備考	試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記による。
試験実施	実施する

科目名	教育学演習（教育社会学）（FEP5Q330）
英文科目名	Pedagogical Seminar (Sociology of Education)
担当教員名	松岡律（まつおかただし）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	イントロダクション：人間の行為と意味について理解する。
2 回	正常と異常・社会的禁忌について理解する。
3 回	社会的ラベリングと予言の自己成就について理解する。
4 回	様々な社会的規範について理解する。
5 回	社会的正義と権力について理解する。
6 回	共同体と国家について理解する。
7 回	国民国家とグローバル化・移民について理解する。
8 回	社会と教育の関係について理解する。
9 回	グループ学習1：テーマに応じた文献を渉猟・講読する。
10 回	グループ学習2：講読ならびにグループワークを通じて理解を深化する。
11 回	グループ学習3：理解・解釈・成果を発表・共有する。
12 回	教育社会学の研究スタイルおよび動向を理解する。
13 回	個人研究(1) 各自の研究関心を明確化する。
14 回	個人研究(2) 進捗状況と課題をまとめる。
15 回	個人研究(3) 各自の成果を発表・共有する。

回数	準備学習
1 回	教科書第1～2章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
2 回	教科書第3～4章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
3 回	教科書第5章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
4 回	教科書第7～8章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
5 回	教科書第10～11章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
6 回	教科書第12～13章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
7 回	教科書第14～15章を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
8 回	指定文献を熟読すること。（標準学習時間 60 分）
9 回	何をテーマにするか熟慮しておくこと。（標準学習時間 60 分）
10 回	文献の解釈を明確にし、書き起こしておくこと。（標準学習時間 60 分）
11 回	プレゼンテーションの準備をしておくこと。（標準学習時間 60 分）
12 回	指定された文献を熟読しておくこと。（標準学習時間 60 分）
13 回	指定以外の文献も読んでおくこと。（標準学習時間 60 分）
14 回	複数の文献を組み合わせて論を構成すること。（標準学習時間 60 分）
15 回	何が明らかになったか、2000字以上でまとめておくこと。（標準学習時間 180 分）

講義目的	本演習の目的は、教育およびそれを取り巻く現代社会の様々な状況について、社会学的視点から分析的に理解・判断できるようになる力を身につけることにある。 この力は今後の学修のみならず、日常生活や実社会を生き抜く力の基礎となるものである。 （初等教育学科の学位授与方針 B・C に最も強く関与する）
達成目標	・ 専門的文献を読解する力の基礎を身につけること。 ・ 自己を相対化する視点を身につけること。 ・ データの読み方の基礎を身につけること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	中間レポート30%、最終レポート70%により評価し、計60%以上を合格とする。
関連科目	教育社会学
教科書	『社会学のエッセンス -- 世の中のしくみを見ぬく 新版』 / 有斐閣アルマ / 友枝 敏雄 ほか / ISBN 978-4-641-12338-0
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館904研究室
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	情報リテラシー（FEP5R110）
英文科目名	Information Literacy
担当教員名	松岡律（まつおかただし）、大熊一正（おおくまかずまさ）
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション 岡山理科大学におけるICT機器の使い方および授業の進め方を説明する。 （全教員）
2 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(1) Microsoft Wordを利用した自己紹介新聞の作り方の概要を説明する。 （全教員）
3 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(2) Microsoft Wordにおいて書式と罫線の使い方を説明する。 （全教員）
4 回	Microsoft Wordの操作（自己紹介新聞）(3) Microsoft Wordにおいてオブジェクトを利用する操作について説明する。 （課題提出1） （全教員）
5 回	Microsoft Excelの操作（1） 表計算の基本的な操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出2） （全教員）
6 回	Microsoft Excelの操作（2） グラフ・オブジェクトの操作方法を説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出3） （全教員）
7 回	WordとExcelの連携 データ・オブジェクトの共有方法について説明し、その発展利用としての課題作成について説明する。 （課題提出4） （全教員）
8 回	インターネットの基礎(1) インターネットの歴史とメールの仕組みについて説明する。 （全教員）
9 回	インターネットの基礎(2) Web情報検索の基礎的な知識について説明する。 （全教員）
10 回	情報モラル ネット社会のルールとメディア・リテラシーについて説明する。 （全教員）
11 回	最終課題課題作成（1） 最終課題として、学修教材を作ることの意義とその方法について説明する。 （全教員）
12 回	最終課題作成（2） 教材の視覚的レイアウトについて説明する。

	(全教員)
1 3 回	最終課題作成 (3) 教材作成におけるキャプション利用と画像の加工方法について説明する。
	(全教員)
1 4 回	最終課題作成 (4) 作成した教材をメディア・リテラシー的観点から再考する。
	(全教員)
1 5 回	最終課題作成 (5) 作成した教材のプレゼンテーション方法とその評価方法を説明する。
	(全教員)

回数	準備学習
1 回	キーボードやマウスの使い方など、Windowsの基本的操作を理解しておくこと。 U S B メモリー等、必要なものを準備しておくこと。 (標準学習時間30分)
2 回	Microsoft Wordの基本的操作を確認しておくこと。 自己紹介の内容を考えておくこと。 (標準学習時間30分)
3 回	書式設定と罫線の利用方法を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
4 回	文字列とオブジェクトの位置関係および調整方法について理解しておくこと。 (標準学習時間30分)
5 回	Microsoft Excelの基本操作を確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
6 回	グラフの作成法およびアレンジ方法について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
7 回	アプリ間でのデータのやり取りについて、確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
8 回	インターネットの歴史について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
9 回	効率的なweb検索について確認しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 0 回	著作権について調べておくこと。 (標準学習時間30分)
1 1 回	小中学校の授業で配る想定教材プリントについて構想を練っておくこと。 (標準学習時間30分)
1 2 回	見やすいプリントに必要な条件について考えておくこと。 (標準学習時間30分)
1 3 回	画像処理ソフトを使った画像の加工に挑戦しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 4 回	教材プリントに投影されている作者の意図、特徴について考察しておくこと。 (標準学習時間30分)
1 5 回	教材のポイントをまとめておくこと。 (標準学習時間30分)

講義目的	コンピューター操作に習熟するために、ワード、エクセル等のアプリケーションを駆使して様々な課題作成を行い、グラフィカルな教材を効果的に作成する基本的技法を身につけると同時に、インターネットの歴史、電子メールやweb情報検索の基礎、および情報モラル、メディア・リテラシー等に関する知識の習得を通じ、情報のトータルな理解を目指す。 (初等教育学科学位授与の方針にもっとも強く関与)
達成目標	(1) コンピューターやOSの基本的仕組みを説明できる。 (2) ワープロ、表計算ソフトの基本的な操作ができる。 (3) ネットワークの基本的知識や情報モラルを身につける。 (4) 1～3 の知識・技能を用いて効果的な教材等を作成できる。
キーワード	情報モラル, Microsoft Office
成績評価 (合格基準60)	課題提出1～4 : 計50% (達成目標(1)～(3)の達成度を評価)、 最終課題 (50%) (達成目標(1)～(4)の達成度を評価)、

	により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	ICT活用教育
教科書	なし
参考書	できるWord 2016 Windows 10/8.1/7対応/田中 亘/インプレス/9784844339205 できるExcel 2016 Windows 10/8.1/7対応/小舘 由典/インプレス/9784844339199
連絡先	松岡研究室(A1号館9階) 大熊研究室(C 9 号館4階)
注意・備考	配布資料は、適宜授業中に配布する。また、必要に応じて課題に対するフィードバックを行う。
試験実施	実施しない

科目名	初等理科教育法（FEP5R210）
英文科目名	Teaching Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	本講義のオリエンテーションを行うとともに、小学校での理科指導についての学習指導要領での目標・学習過程等を解説する．
2 回	学習器具の取り扱い方，および安全面への配慮，試薬の調整について解説する．
3 回	科学のそれぞれの事象や現象に対する児童の素朴な考え方と研究者の考え方との違いを議論し，科学的な見方・考え方の本質を捉えるようにする．
4 回	事象・現象の理解を促進するためのイメージ図の書き方，アナロジー，メタファーについて事例を挙げながら解説する．
5 回	理科学習における評価について解説する．評価の方法，評価基準，評価規準，および形成的評価について解説する．
6 回	小学校学習指導案の作成，授業計画の立案方法，予備実験の方法，安全面の確保について解説する．
7 回	小学校理科学習における教材開発について，その必要性と各領域の特性を交えながら解説する．
8 回	個別実験とグループ実験の違いを議論するとともに，それぞれのメリット・デメリットを，実例をあげながら解説する．
9 回	小学校理科学習指導案の作成を行い，各グループで議論を重ね，検討する．
1 0 回	第1回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 1 回	第2回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 2 回	第3回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 3 回	第4回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 4 回	第5回目の模擬授業を行う．模擬授業の中の指導に関する問題点を指摘し，改善点を議論する．
1 5 回	これまでの模擬授業の成果と問題点を総括し，改善案の検討を行う．
1 6 回	試験を行う．

回数	準備学習
1 回	小学校学習指導要領理科編を各学年ごとにまとめ，目標と内容を十分に理解しておくこと．（60分）
2 回	安全は最も指導者が配慮すべき問題である．火気の取り扱い方法やアルコールの特性および保管法など十分に予習しておくこと．（60分）
3 回	科学的な見方・考え方とはどのようなことを意味しているのかを自分なりにまとめ，議論に備えておくこと．（60分）
4 回	科学でモデルは重要な位置を占めるが，モデルとは何かを議論を通して考え，児童の素朴な概念から科学に近づく過程を自分なりに考えておくこと．（60分）
5 回	理科学習での評価にはどのような評価があり，どのような観点から評価を行うのか，1つの単元を例にとって自分なりに考えておくこと．（60分）
6 回	実際に授業を立案する際に，どのような手順が必要になってくるか，一つ一つの手順の意味づけを自分なりに考えておくこと．（60分）
7 回	各領域の教材開発にはどのような意味があり，目標とどのような関わりを持っているのかを，例を挙げて考えておくこと．（60分）
8 回	実験を行う際の，グルーピングの手法について自分なりの考えをつくっておくこと．（60分）
9 回	実際の小学校での理科学習指導案を作成しておくこと．（60分）
1 0 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 1 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 2 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 3 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）
1 4 回	模擬授業の準備を行うこと．安全面・評価法・教材の選定など必ず意味を持たせること．他のグループに対しては必ず改善案を提案すること．（60分）

1 5 回	模擬授業を総括し、様々な事例と比較しながら、まとめておくこと。(60分)
1 6 回	最終評価試験に備えて、1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の目標や学習内容をどのような指導法でアプローチするかを検討し、さらに学習者の評価の方法も学ぶ。後半は模擬授業での相互評価を行いながら授業実践の力量を身につける。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	児童が学習内容を十分に理解するためには、実際の授業でどのような目標設定を行い、どのような教材を設定し、どのような授業構成にし、どのような評価を行うか等、様々な点から検討された学習が提供される必要がある。様々な指導法をグループで検討した上で実際の授業を行い、改善を繰り返しながら「授業の作り方」を自分なりに行えるようにする。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	指導法の理解、指導の実践、模擬授業、相互評価
成績評価（合格基準60	実験レポート40%、試験60%の点数を合計し、総計で60%以上を合格とする。ただし、最終評価試験において得点が100点満点中、60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	初等理科内容論
教科書	小学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書
参考書	講義の中で適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 山下研究室
注意・備考	・本講義はアクティブラーニングをもとに目標達成を目指す講義である。・実験時には白衣等の着用、安全ゴーグル着用のこと・指導計画は受講状況により変更することがある。・講義中の録音・録画・撮影は原則として認めないが、事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	算数科教育法 (FEP5R310)
英文科目名	Teaching Arithmetic
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	算数科教育法の授業の進め方 (算数教育の目標、模擬授業、省察、授業改善) の解説する。
2 回	算数教育の目標、主体的で、対話的な深い学びを創発する「問題解決型の授業モデル」に基づく授業構成と授業デザイン (学習指導案) の構成の仕方を解説する。
3 回	低学年・中学年の「数と計算」における「数」の意味、加減計算の意味と計算の原理に関する授業構成の仕方を解説する。
4 回	低学年・中学年の「数と計算」における「数の意味指導」「加減計算の意味指導」「計算の仕方」の模擬授業 (コアに当たる部分指導) の実践とその省察会を行う。
5 回	低学年・中学年の「数と計算」における乗除計算の意味と計算の原理に関する授業構成の仕方を解説する。
6 回	低学年・中学年の「数と計算」における乗除計算の意味と計算の原理の模擬授業の実践とその省察会を行う。
7 回	高学年の「数と計算」における小数・分数の乗法の意味と計算原理に関する授業構成の仕方を解説する。
8 回	高学年の「数と計算」における小数・分数の乗法の意味と計算原理に関する模擬授業と構成を行う。
9 回	「図形」の領域における構成主義に基づく図形指導の原理を解説する。
10 回	「測定」「図形」の領域における基本的図形の計量に関する指導の原理を解説する。
11 回	「図形」の領域における基本的図形の意味や性質、図形の面積の求め方の模擬授業の省察とその省察会を行う。
12 回	「変化と関係」の領域における、関数的見方・考え方を育成指導の原理を解説する。
13 回	「変化と関係」の領域の、表、式、グラフに関する模擬授業の実践とその省察を行う。
14 回	「データ活用」の領域の「目的を持つ」「目的に応じた資料収集」「目的に応じた選択」「目的に応じた活用」の指導の原理を、具体的教材を通して解説する。
15 回	「データ活用」の領域における表、グラフ指導に関する模擬授業の実践とその省察を行う。
16 回	定期試験を行う。試験後、解答例を口頭で解説する。

回数	準備学習
1 回	シラバスの読んで、授業の概要を理解すること。2時間。
2 回	学習指導要領を事前に読み、算数科の実践的な学習指導の方向性を把握する。2 時間。
3 回	数の指導の系統、整数の加減の指導の系統性を事前に調べてくる。2 時間。
4 回	模擬授業をするため、問題解決型の学習指導案を作成して、持ち寄る。得意分野で1 事例の学習指導案を作成する。2 時間。
5 回	乗除計算の意味と計算の原理について、事前に教科書分析をして持ち寄る。2 時間。
6 回	模擬授業をするため、問題解決型の学習指導案を作成して、持ち寄る。得意分野で1 事例の学習指導案を作成する。2 時間。
7 回	小数・分数の乗法の意味と計算の原理について、事前に教科書分析をして持ち寄る。2 時間。
8 回	模擬授業をするため、問題解決型の学習指導案を作成する。得意分野で1 事例の学習指導案を作成し、持ち寄る。2 時間。
9 回	基本的な図形の系統的な指導の在り方を事前に調べて持ち寄る。1 . 5 時間。
10 回	「測定」「図形の面積」指導の在り方を教科書で調べて、教材分析して、持ち寄る。2 時間。
11 回	図形の意味・性質、図形の面積の求め方に関する学習指導案を得意分野で1 事例の学習指導案を構成し、持ち寄る。2 時間。
12 回	関数の指導の系統を教科書で調べて教材分析し、持ち寄る。2 時間。
13 回	4 , 5 , 6 年の「変化と関係」に関する学習指導案を、表、式、グラフ指導の得意分野で1 事例を構成し、持ち寄る。2 時間。
14 回	「データ活用」に関する教材を教科書で調べて教材分析し、持ち寄る。2 時間。
15 回	「データ活用」に関する学習指導案を、表、グラフ指導の得意分野で1 事例構成し、持ち寄る。2 時間。

講義目的	数学的な見方考え方を道具として働かせて、外的及び内的な数学的活動を通して、数量や図形に関
------	--

	する知識・技能を習得させ、数学的に考えさせる資質能力を育み、新しい算数の学習に能動的に取り組む態度を育成するなど、算数科の実践的な指導法や指導力の基礎を身に付けさせる（初等教育学課学位授与方針A・Cに関する修得）
達成目標	「数学的な見方考え方を働かせて、数学的活動を通して、数学的に考える（A）」という資質・能力を育むため、算数科を担当する上で最小限必要な実践的な指導法や指導力の基礎を身に付けさせる（C）。
キーワード	算数の主体的学び、算数的活動、数学的な見方・考え方を働かせる、数学的に考える、統合的・発展的思考、振り返り（省察）、数学的コミュニケーションによる深い学び
成績評価（合格基準60	学習指導案（A・C）20％、模擬授業の実践的指導力（C）30％、教材分析・省察活動（A・C）への取り組み30％、定期試験（A・C）20％
関連科目	算数科内容論、算数科教材研究・教材開発、理数教育の実践方法
教科書	学習指導要領解説算数科編、検定教科書「わくわく算数」啓林館
参考書	金本、赤井、池野、黒崎著、「算数科、「深い学びを実現させる理論と実践」、東洋館、2017 志水、黒崎他、「小学校算数科の指導」、kenpakusya、2010。
連絡先	教育学部初等教育学学科 A1号館 906 室
注意・備考	模擬授業についてのみ録画する。授業の省察をするための基礎資料とであり、教室外へのデータ持ち出しは禁止とする。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP5S210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介を受ける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以上実践する(現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する)ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実
------	--

	施できるようなること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。 3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。 イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。 評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況（報告書に基づく） 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動（教員の評価ならびに受講生相互の評価） 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施する

科目名	教育行政学 (FEP5V210)
英文科目名	Education Administration
担当教員名	高瀬淳* (たかせあつし*)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	【学校を取り巻く内外環境の変化(導入)】今日の学校を取り巻く内外環境が、どのように変化しているかを明らかにし、そこでの教育活動に従事する教員に求められる専門職性について発問する。
2回	【教育制度の基本構造 - 法制化と慣習化】日本における教育行政について、日本国憲法の精神と教育を受ける権利を踏まえて実施されることの意味について検討する。
3回	【個と公共の精神の尊重】教育基本法に前文に記された「個人の尊重」と「公共の精神」の関係性を理解し、日本における教育行政の基本方針について検討する。
4回	【公教育の原則】日本における学校体系を確認するとともに、日本並びに諸外国における義務教育・無償制の意義やあり方について検討する。
5回	【公教育の原則】日本における教育の政治的・宗教的中立の意義や内容について検討する。
6回	【学校教育法制】学校教育法第1条に定められた学校の意味や教育行政の関わりについて、教育の系統性と総合性の保持といった観点から検討する。
7回	【学校教育法制】学校教育法第1条以外に定められた学校の意味や教育行政の関わりについて、教育に関する自由権と社会権といった観点から検討する。
8回	【国レベルの教育行政】国レベルの教育行政について、内閣、文部科学大臣及び文部科学省の関係性を中心に検討する。
9回	【国レベルの教育行政】国レベルの教育行政について、中央教育審議会やその他の審議機関の位置づけやその意味について検討する。
10回	【地方レベルの教育行政】都道府県・市町村レベルの教育行政について、首長、地方議会及び教育委員会の関係性を中心に検討する。
11回	【地方レベルの教育行政】都道府県・市町村レベルの教育行政について、教育委員会制度の基本構造やその意味について検討する。
12回	【教育課程行政】教育課程の国レベルの基準である学習指導要領の変遷について概観し、それをめぐる問題点について検討する。
13回	【教育課程行政】次期学習指導要領のねらいや特色について、育みたい生徒の資質能力(学力)を踏まえながら検討する。
14回	【教育行政と学校の危機管理】学校の危機管理について、学校の一体的なマネジメントの観点から検討する。
15回	【教職員の管理】教職員に対する懲戒と分限について、国民全体の奉仕者としてのあり方から検討する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	【予習】現代社会の特色や課題について、自分なりの見解を形づくっておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
2回	【予習】第1回の授業内容を確認するとともに、日本国憲法第13/14/25/26条の条文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
3回	【予習】第2回の授業内容を確認するとともに、教育基本法前文を読んでおくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
4回	【予習】第3回の授業内容を確認するとともに、日本における学校体系を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
5回	【予習】第4回の授業内容を確認するとともに、日本における政治教育の問題点を調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。
6回	【予習】中学校又は高校の目標について調べておくこと(標準学習時間120分)。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと(標準学習時間60分)。

7 回	【予習】日本における教員養成の原則（開放制度と大学における養成）について確認し、その意味を自分なりに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
8 回	【予習】文部科学省の所管や組織について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
9 回	【予習】第8回の授業内容を確認するとともに、中央教育審議会について確認し、その意味を自分なりに検討しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
10 回	【予習】第8・9回の授業内容を確認するとともに、教育委員会の所管や組織について確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
11 回	【予習】第10回の授業内容を確認するとともに、自分が出身の都道府県又は市町村教育委員会のホームページを閲覧しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
12 回	【予習】教育課程の定義並びに学習指導要領の成り立ちについて調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
13 回	【予習】第12回の授業内容を確認するとともに、「社会に開かれた教育課程」の意味について調べておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
14 回	【予習】学校が直面しうる危機について、新聞記事等をもとに自分なりに考えをまとめておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
15 回	【予習】教職員の不祥事について、過去に新聞に取り上げられたものを確認しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】本時の学習内容を整理し理解しておくこと（標準学習時間60分）。
16 回	【予習】第1～15回の内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	日本の学校制度を、教育基本法ならびに学校教育法の基本的な考え方から紹介し、教育制度の具体的な運用のあり方を、教育現場の様々な場面から検討する。さらに教員として基本的に身につけておくべき教育行政上の知見、教員としての行動の制度的意味について考察する。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	個人の生涯発達と社会の維持・発展の両面から学校教育を中心とした教育行政・制度を理解し、そこに認められる意味や問題点についてリーガルマインドをもって考察することができる（B）。
キーワード	教育行政、教育法制、教育を受ける権利
成績評価（合格基準60）	最終評価試験（70%）と授業中に課す小レポート（30%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教職に関する科目
教科書	使用しない。
参考書	授業中に適宜、提示する。
連絡先	takase@okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	初等国語科教育法（FEP5X210）
英文科目名	Teaching Japanese for Primary Education
担当教員名	小川孝司（おがわたかし）
対象学年	2 年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について説明する。
2 回	生きる力や思考力・判断力・表現力等の育成を踏まえ、国語科改訂の趣旨及び国語科の目標及び内容の構成等について説明する。
3 回	実際の学習指導案に照らしながら、学習指導案作成の意義及び作成上の留意点等について説明する。
4 回	実際の授業に照らしながら、本時学習指導案に記述される「学習過程」「学習活動」「指導上の留意点」などについて説明する。
5 回	実際の授業に照らしながら、「主体的な学び」「対話的な学び」を中心に、求める学習者の姿や教師のかかわりについて説明する。
6 回	実際の学習材（「話すこと・聞くこと」）の内容分析や指導法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
7 回	実際の学習材（「書くこと」）の内容分析や指導法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
8 回	実際の学習材（「読むこと・文学的文章」）の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。中間試験を実施する。試験終了後、出題内容について解説を行う。
9 回	実際の学習材（「読むこと・説明的文章」）の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
10 回	実際の学習材（「伝統的な言語文化」）の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
11 回	実際の学習材（「言葉の特徴やきまり」）の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
12 回	実際の学習材（「毛筆書写」）の内容分析や指導方法の開発といった教材研究の方法、それをもとに作成する学習指導案について説明する。
13 回	実際の授業に照らしながら、本時学習指導案に記述される「評価」について、その意義や記述するにあたっての留意点を説明する。
14 回	実際の学習材（「読書教材」）の内容分析や指導方法といった教材研究の方法、読書指導の実際について説明する。
15 回	第1学年教科書の始めに掲載されている学習材について、読み聞かせや挿絵をもとに話す指導、ひらがなを初めて書く指導等の方法を説明する。
16 回	最終評価試験

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。（標準学習時間30分）
2 回	テキスト中の「国語科改訂の要点」「教科の目標」に目を通しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	テキスト中の「第4指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」に目を通しておくこと。（標準学習時間45分）
4 回	前回の講義で配付した本時学習指導案に目を通し、「本時における学習の流れ」を概観しておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	前回の講義で配付した学習実践記録を「主体的な学び」「対話的な学び」の視点から目を通しておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	前回の講義で配付した「話すこと・聞くこと」の学習材を読み、単元の学習の流れを構想しておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	前回の講義で配付した「書くこと」の学習材を読み、単元で育む価値目標や能力目標、単元の学習の流れを構想しておくこと。（標準学習時間60分）
9 回	前回の講義で配付した「読むこと(説明的文章)」の学習材を読み、単元で育む価値目標や能力目標、単元の学習の流れを構想しておくこと。（標準学習時間90分）
10 回	前回の講義で配付した「伝統的な言語文化」の学習材を読み、単元で育む能力目標や単元の学習の流れを構想しておくこと。（標準学習時間60分）

1 1 回	前回の講義で配付した「言葉の特徴やきまり」の学習材を読み、単元で育む言葉の働きや使い方等に関する単元目標、単元の学習の流れを構想しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 2 回	前回の講義で配付した「毛筆書写」の学習材を検討し、単元で育む書写力や単元の学習の流れを構想しておくこと。(標準学習時間 4 5 分)
1 3 回	前回の講義で配付した資料に目を通し、「評価」することの意義や様々な方法について概観しておくこと。(標準学習時間 4 5 分)
1 4 回	前回の講義で配付した「読書教材」に目を通し、単元で育む読書力や単元の学習の流れを構想しておくこと。(標準学習時間 6 0 分)
1 5 回	前回の講義で配付した第 1 学年入門期の学習材に目を通しておくこと。(標準学習時間 3 0 分)
1 6 回	第 8 回～第 1 5 回までの講義内容を整理し復習しておくこと。(標準学習時間 9 0 分)

講義目的	小学校学習指導要領国語編に述べられている目標や指導事項について理解を深めるとともに、実際の学習材について、その内容等の分析的研究や方法的研究に取り組む。また、その研究を学習指導案にまとめたり、必要に応じて模擬授業に取り組んだりする。こうした学習を通して、国語科における指導内容を深く理解し、効果的な指導方法を身に付けることを目的とする。(A)
達成目標	○小学校学習指導要領国語編に照らしながら、各学習材について、分析的研究・方法的研究等の教材研究に取り組み、教材研究の意義を理解するとともに指導方法を身に付けることができる。(A) ○教材研究を通して理解した指導内容や指導方法を学習指導案に表現したり、模擬授業を行ったりすることができる。(A)
キーワード	小学校「国語」の全体目標、小学校「国語」の学年別目標及び内容(指導事項) 教材研究 学習指導案 模擬授業
成績評価(合格基準60)	中間試験、最終評価試験などによって総合的に評価し、総計で 6 0 % 以上を合格とする。レポート(2 0 %)、中間試験(3 0 %)、最終評価試験(5 0 %)
関連科目	初等国語科内容論、教材分析・開発演習 A (国・社・家)
教科書	小学校学習指導要領解説国語編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 9 7 8 4 4 9 1 0 2 3 7 1 7、 検 定図書国語五銀河 / 光村図書 / 9 7 8 4 8 9 5 2 8 6 9 8 5
参考書	小学校新学習指導要領ポイントと授業づくり国語 / 東洋館出版 / 9 7 8 4 4 9 1 0 2 4 0 2 8
連絡先	A1号館 9 F 小川研究室
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	I C T活用教育（FEP5X310）
英文科目名	Education Utilizing ICT
担当教員名	高原周一（たかはらしゅういち）、坂本南美（さかもとなみ）、大橋和正*（おおはしかずまさ*）、榊原道夫（さかきはらみちお）
対象学年	3年
開講学期	春学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ICTとは何かについて利用面と技術面を重点に学修する。また、教育への応用の有用性と問題点について講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
2回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどインターネットについて全般的、基本的な事項を重点に講義する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
3回	インターネット上のコンテンツ利用における注意点特に著作権について講義する。また教育に利用できる教材の紹介する。課題を与え講義終了前20分程度で調べた内容と講義の内容より解答を作成し提出させる。 （榊原 道夫）
4回	著作権について引き続き講義を行う。講義中30分程度で1回目から4回目目の内容について小テストを行い解説する。 （榊原 道夫）
5回	小学校図工、中学校総合学習・学活における紙工作実践でのICT活用事例 ・教科書内容、学習指導要領について解説する。 （パワーポイント、デジタル教材、書画カメラの活用） ・ワードによる図形描画を行う。 （大橋 和正*）
6回	課題（演習） ・立体の一例を書画カメラでみせ展開図を描いてみる（ワード）。プリントして提出する。 ・指導案の書き方（ワード）の説明と演習を行う。 ・プリントして提出する。 （大橋 和正*）
7回	指導案の作成 ・図工、総合学習、学活のいずれかを対象に立体模型の展開図をつくる指導案を作成する（ワード演習）。 ・指導案作成演習。プリントして提出する。 （大橋 和正*）
8回	指導案の評価・講評 ・作成した指導案の講評（プリントを書画カメラで写す） ・点数評価とパフォーマンス評価 （大橋 和正*）
9回	教師に必要とされるICT活用指導力 ・教育の情報化について解説し、教育現場で必要とされているICT活用について解説する。 ・自治体間の格差について。 ・授業終了時にレポートを提出する。 （坂本 南美）
10回	次期学習指導要領でのプログラミング教育の位置づけについて説明する。プログラミング的思考とは何かを概説する。小・中学校で導入されているプログラミング教育の現状を紹介する。スクラッ

	子等のプログラミングツールの使用方法を説明し、実際に簡単なプログラムを作ってみる。 (高原 周一)
1 1 回	前回に引き続き、スクラッチ等のプログラミングツールを用いて簡単なプログラムを作ってみる。グループで作品を見せ合い、さらにはグループ内で評価の高い作品を全体で共有する。 (高原 周一)
1 2 回	授業でのICT活用事例について紹介する。 ・動画およびプレゼンテーションソフトのアニメーション機能の活用 ・リアルタイムの映像のスクリーンへの投影 ・クリッカーの活用 ・インターネットを活用した事前・事後学習 (高原 周一)
1 3 回	タブレットを用いた授業、児童・生徒がタブレットを用いて自律的に学習ができる援助、およびデジタル教科書について解説する。 (坂本 南美)
1 4 回	プレゼンテーションソフトを用いた授業について紹介し、実践的に授業で扱える教材を作成する。 (坂本 南美)
1 5 回	学生がプレゼンテーションソフトを用いた活動を発表し合い、リフレクションをもとにディスカッションを行う。 (坂本 南美)

回数	準備学習
1 回	ICT、ICT利用、ICT利用と教育などのキーワードよりインターネット上の記述内容について調べておくこと。また、図書館等で関連する図書を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
2 回	HTML、JavaScript、IPアドレス、Webブラウザ、パッドとPCのOSなどを調べておくこと。 (標準学習時間60分)
3 回	著作権について全般的に調べておくこと。特にGNUライセンスを詳しく調べておくこと。 (標準学習時間60分)
4 回	1回から3回目までの講義内容について復習しておくこと。 (標準学習時間60分)
5 回	実践活動でのICT活用事例を調べておくこと。 (標準学習時間60分)
6 回	ワードを用いて展開図を画面上に描いてみること。 (標準学習時間60分)
7 回	ワードを使って指導案を書いてみる(練習)。 (標準学習時間60分)
8 回	製作品の評価法を考えておくこと。 (標準学習時間60分)
9 回	「教育の情報化に関する手引き」(H22年10月)(http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm)の第1章、第3章、第7章を読んでおくこと。 (標準学習時間120分)
1 0 回	小・中学校で導入されているプログラミング教育の実例について調べておくこと。 (標準学習時間60分)
1 1 回	プログラミングツールのより高度な使い方を調べ、自分の作ったプログラムを改良しておくこと。 (標準学習時間120分)
1 2 回	パワーポイントの使用方法について復習しておく。 (標準学習時間60分)
1 3 回	ICTを活用した授業について説明できるように復習すること。 第14回授業までに、タブレットを用いた授業の具体的な例について考え、その内容をまとめること (標準学習時間120分)
1 4 回	タブレットを用いた授業について具体的な活動を復習すること。 第15回授業までに、プレゼンテーションソフトを用いた実践的教材を用意しておくこと。 (標準学習時間120分)

15回	プレゼンテーションソフトを用いた授業教材を発表できるように準備をしておくこと。 (標準学習時間120分)
講義目的	本授業では、ICT技術の急速な進展と社会への波及効果を見据えながら、教育現場で教員がICTを活用する能力及び児童、生徒がICTを様々な学習の場面で活用できるように指導できる能力を養う。 (この講義は初等教育学科、中等教育学科国語コース、中等教育学科英語コースの学位授与の方針Cに強く関与する)
達成目標	・ICT活用教育の意義、学習指導要領における扱い、教育現場での普及状況について説明できる。 ・ICT活用教育を進める上で必要となるセキュリティ管理、情報モラル教育の進め方について知っている。 ・教育評価にICTを活用するスキルを持っている。 ・ICT活用教育で使われる代表的なデジタル教材および機器を知っており、活用することができる。 ・プログラミング的思考について理解し、初歩的なプログラミングを行うことができる。 ・児童・生徒のICT活用学習を指導できる。
キーワード	ICT活用教育、セキュリティ管理、情報モラル教育、デジタル教材・機器、プログラミング教育、ICT活用事例
成績評価（合格基準60）	個人に提出させるレポート（50%）、小テスト（10%）、教材等の成果物（40%）により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	情報リテラシー
教科書	なし
参考書	
連絡先	高原周一 A1号館3階319 E-Mail: takahara@ped.ous.ac.jp 坂本南美 A1号館10階1008 E-Mail: sakamoto@ped.ous.ac.jp
注意・備考	・教材等の成果物に対しては優秀な作品を全体に紹介したり、よくある間違いを指摘するという形でフィードバックを行う。 ・講義資料は教室で紙媒体で配布するが、必要に応じてMOMOCAMPUS上にもアップロードする。 ・グループ内で作品を見せ合って批評し合うという形のアクティブラーニングを実施する。 ・講義中の録音／録画／撮影は原則認めない。特別の理由がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施しない

科目名	科学・工作ボランティア入門 (FEP5Z110)
英文科目名	Introduction to Volunteer Activities for Science and Technology
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 山口一裕 (やまぐちかずひろ)
対象学年	1 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	ガイダンス (講義内容と進め方の説明) 科学ボランティア活動の意義と現状、本学の科学ボランティアリーダー養成事業について概説する。本講義の進め方について説明する。有用なウェブサイトを紹介する。 (高原 周一)
2 回	講義担当教員および補助学生が自己紹介するとともに、簡単な実験を披露する。本学の科学ボランティアリーダー資格認定制度と学外で活動するための手続き・注意点を説明する。 (全教員)
3 回	発表会準備 (1) 発表会の進行について説明する。 班分けを行い、班内で自己紹介を行う。発表内容について検討する。 (全教員)
4 回	発表会準備 (2) 科学イベントで実施できる教材を紹介するとともに、科学イベントの効果的な進め方について説明する。 発表会の内容を決定する。 (全教員)
5 回	発表会準備 (3) 科学イベントにおける安全対策について講習する。 必要な器具をそろえて実験・工作を試行してみる。 (全教員)
6 回	発表会準備 (4) 発表会企画書および配布資料の書き方について説明する。 実験・工作の改良・追加を試みる。 (全教員)
7 回	発表会準備 (5) 発表会の詳細について説明する。実験の原理を班で共有する。発表会での進行、プレゼンテーションについて検討する。準備の進行状況を教員に報告し、指導を受ける。(全教員) (全教員)
8 回	発表会準備 (6) 発表会での進行、プレゼンテーションについて確定する。プレゼンテーションに必要なフリップ等を作成する。 (全教員)
9 回	発表会準備 (7) 各班が教員の前で発表内容をひと通り説明し、指導を受ける (予行演習)。それをもとに発表内容を再検討する。 (全教員)
10 回	発表会準備 (8) 予行演習の続きを行う。発表会の準備を行う。企画書・発表会配布資料について教員がコメントするので、それを参考に修正を検討する。 (全教員)
11 回	発表会準備 (9) 発表会の準備を完了させる。 (全教員)
12 回	発表会 (1) 発表会で発表する。 12回目～14回目は土曜日に連続して行う。 (全教員)
13 回	発表会 (2) 他班の発表を聞いて相互評価を行う。

	(全教員)
14回	発表会(3) 各班の教員評価および学生の相互評価結果を発表する。発表会の片づけを行う。
	(全教員)
15回	この授業での活動について振り返りを行う。この授業に対する改善意見を出し合う。今後予定されている科学ボランティア活動について紹介し、参加を促す。
	(全教員)

回数	準備学習
1回	シラバスを読んでおくこと。キャンパスライフの「科学ボランティア活動」のページを読んでおくこと。本学の科学ボランティアセンターのホームページを閲覧しておくこと。(標準学習時間60分)
2回	紹介したウェブサイトを読み、閲覧しておくこと。科学ボランティア活動に関係するサイトを検索し、閲覧しておくこと。科学ボランティアセンターおよび本学図書館等で科学ボランティア活動に役立つような本を探すこと。(標準学習時間120分)
3回	本やインターネットで発表会に使えるような実験内容を調べる。科学ボランティアセンターのホームページでボランティア情報を閲覧し、参加したい企画があれば申し込むこと。(標準学習時間120分)
4回	発表会の内容についての各人の提案をレポートにまとめること。(標準学習時間120分)
5回	実験に必要な器具を調達すること。類似の実験について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
6回	実験の改良・追加について考えておくこと。そのために必要な器具を調達すること。実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べること。(標準学習時間120分)
7回	引き続き、実験内容に関連する情報・原理について本やインターネットで調べる。実験内容と小中高の理科のカリキュラムとの関係について調べること。(標準学習時間120分)
8回	各人が分担した作業(物品の確保、シナリオ・フリップの作成など)を行うこと。(標準学習時間60分)
9回	予行演習の準備を行うこと。(標準学習時間60分)
10回	企画書・発表会配布資料を作成すること。各人が分担した作業を行うこと。(標準学習時間60分)
11回	企画書・発表会配布資料の改訂版を作成すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。(標準学習時間60分)
12回	発表会に向けて各自が担当内容を再確認すること。必要な班は時間外に集まって準備を行うこと。発表会当日の会場設営・準備に参加すること。(12回目～14回目の合計の標準学習時間180分)
13回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
14回	12回目の準備学習欄にまとめて記載
15回	この授業での活動について、自分なりに総括しておくこと。発表会で配られた解説書を読んでおくこと。この授業に対する改善意見を考えること。(標準学習時間60分)

講義目的	近年、市民と青少年の科学・技術への関心・理解を深めるために、全国各地で科学イベントが開催されるようになった。本講義は、このような活動を推進する人材である「科学ボランティアリーダー」の養成を目指し、地域で活躍するために必要な資質・能力の基礎を培うことを目的とする。 まず、教員による講習を行った後、グループごとに自分たちで選んだ楽しい実験・工作を準備し、学内公開の発表会で発表する。これらを通じて、受講生自身が科学・技術をおおいに楽しみながら、科学・技術に対する関心を深め、科学ボランティア活動を行うための基礎的な力を身につける。同時に、社会人として必要となるコミュニケーション力等の汎用的な能力の向上も目指す。グループ内での討論、教員への報告、発表会でのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。(初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与)
達成目標	1. 科学ボランティア活動の意義と楽しさを理解し、これに積極的に参加する意欲をもつ。 2. 科学ボランティア活動を行う上で最低限必要となる知識・能力を身につける。 3. 科学・技術全般に関心をもつ。 4. 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につける。
キーワード	楽しい実験・工作、科学・工作教室、科学ボランティア活動
成績評価(合格基準60)	レポートの内容(70%)、発表会の内容(30%)によって評価する。発表会の評価には、受講生相互の評価も加味する。
関連科目	科学ボランティア実践指導、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。

参考書	「ものづくりハンドブック 1~7」たのしい授業編集委員会/編・仮説社 他 授業中に紹介する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・本クラスは基本的に土曜日に行う。 ・具体的な日程は教務の掲示板に張り出す。 ・受講希望者が60名を超える場合はガイダンス（初回の講義）の参加者から受講生を選抜することがあるので、ガイダンスには必ず出席すること。 ・発表会の材料費は受講生の自己負担とする。 ・本講義は科学ボランティアリーダー資格認定の必修の講義である。科学ボランティアリーダー資格認定制度については、科学ボランティアセンターのホームページ（http://ridai-svc.org/）に説明がある。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア実践指導」→「科学ボランティア活動」 ・グループワークによりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会での相互評価結果はMomo-campus上でフィードバックされる。発表会での教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP5Z210)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介を受ける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以上実践する(現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する)ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実
------	--

	施できるようなること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。 3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。 イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。 評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況（報告書に基づく） 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動（教員の評価ならびに受講生相互の評価） 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板に張り出す。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。日程はチームごとに担当教員と相談して決定する。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているので、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施する

科目名	教育ボランティア（FEP5Z220）
英文科目名	Educational Volunteer I
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）、森敏昭（もりとしあき）、小川孝司（おがわたかし）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、松岡律（まつおかただし）、山下浩之（やましたひろゆき）、紙田路子（かみたみちこ）、井本美穂（いもとみほ）、笹山健作（ささやまけんさく）、妻藤純子（さいとうじゅんこ）、原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	事前指導を行う (全教員)
2回	実習(1) (全教員)
3回	実習(2) (全教員)
4回	実習(3) (全教員)
5回	実習(4) (全教員)
6回	実習(5) (全教員)
7回	実習(6) (全教員)
8回	実習(7) (全教員)
9回	実習(8) (全教員)
10回	実習(9) (全教員)
11回	実習(10) (全教員)
12回	実習(11) (全教員)
13回	実習(12) (全教員)
14回	グループ・リフレクションを行う (全教員)
15回	成果発表を行う (全教員)

回数	準備学習
----	------

1 回	学校でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
2 回	事前指導を踏まえ、学校でのあいさつをはじめとするコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間 60 分)
4 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
9 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間 60 分)
15 回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間 60 分)

講義目的	1 年次の「教育現場観察実習」を踏まえ、2 年次のこの授業では大学の授業外の時間を使って、学校や児童館、社会教育施設などの教育関連施設の現場において、ボランティアとして教育の補助及び子どもの遊びや学習などの支援活動を行い、教職能力を培うために必要な学びの内容と方法の経験的な把握を目指す。まず、グループ事前調査により、教育現場を観察する視点・目的・方法を明確化する。そして現場を訪問し、児童・生徒の学習や生活の実態を観察し、参与実習をする。最後に実習で得た知見や問題点を報告・討議し、全体で成果を共有し、ボランティア活動のレポートをまとめる。(初等教育学科の学位授与方針 B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語 E、英語 B に最も強く関与する)
達成目標	小・中学校と日常的・継続的な関わりを持ち、学校空間に参加していく中で、教職に対する自己の意識を明確に持つこと。教員に必要な知識・スキルを自分の課題として明確に意識し、それに対する取り組みを始められるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準 60%)	ボランティア受け入れ校からの評価および、事後指導におけるレポートを総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	フィールド観察実習 (FEP5Z320)
英文科目名	Field Observation Training
担当教員名	山下浩之 (やましたひろゆき)
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科 (～18)
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	本講義全体のオリエンテーションを行う。主に講義の目的と概略，アプローチの方法などを解説する。
2 回	地形図をもとにキャンパス周辺を歩き，地形の大まかな様子を把握できるとともに，その周辺の生物的な環境と地学的な環境を確認する。生物的な環境として，草本植物および木本植物の大まかな分類方法や種名の検索を行う。特に初等理科で扱う植物を中心とする。
3 回	小学校では学習遠足等で動物園や植物園を利用するケースが多いだけでなく，ニワトリやウサギなどの小動物の飼育活動も行われている。この時間では実際に動物園を訪れ，動物の抱き方・餌の与え方・飼育環境の整備等について理解する。
4 回	種々の動物の形態はどのような環境で進化してきたのかを，餌と頭骨および歯・消化管・糞との関係や前肢や後肢の指の数と速度との関係等を考察する。
5 回	生物的な視点および地学的な視点から，どのような野外学習が考えられるか，教育的な視点からプレゼンテーションを行う。
6 回	標高差の異なる場所に視点を移し，大学キャンパス周辺とどのような違いがあるかを，年平均気温や気圧をもとに考察する。
7 回	河川に入り，河川の様子を幾つかのポイントで比較する。堆積物の違いと流速との関連を五感を使って身につける。
8 回	河川での様子の違いを議論し，その場所で何がわかるようになったかを明確に説明できるようにする。
9 回	地層を観察する際，河川での観察と関連づけて，その見方を身につける。記録の仕方を身につけ，その記録から何が言えるかを考察する。
10 回	地学的な視点から，どのような野外学習が考えられるか，教育的な視点からプレゼンテーションを行う。
11 回	天体観測を行い，初等理科で扱う星座や高度の測り方などを解説するとともに，星座早見盤をもとに天の川や星の動き方を教育的観点から考察する。
12 回	周辺の山に登り，植生の違いや形態の変化を解説する。
13 回	草本植物やシダ植物，コケ植物に視点を当て，その特徴や環境との関わりなどに言及し，解説する。
14 回	木本植物や昆虫との関係に視点を当て，その特徴や環境との関わりなどに言及し，解説する。
15 回	周りの環境と生物との関係や，環境の違いによる適応の違いを教育的な視点からプレゼンテーションを行う。

回数	準備学習
1 回	講義概略を理解しておくこと。全講義に必要な準備物をそろえておくこと。(60分)
2 回	地図の見方，コンパス・ルーペ・クリノメーター・野外用双眼実体顕微鏡などの使用法を予習しておくこと。採集標本をもとにスケッチ等を行いながら，特徴を捉え，大まかな分類ができるようにしておくこと。(60分)
3 回	動物園に児童生徒を引率していく際に，どのような視点が必要かを整理しておくこと。特に配慮しておかなければならないことをまとめておくこと。
4 回	頭骨標本や歯の標本等を事前に調べ，分類上同じグループの共通点や差異点を明らかにしておくこと。
5 回	自分でテーマを決め，フィールドの中のどの部分を切り取るか，何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(60分)
6 回	観察地点の状況を前もって調べておく。標高や，地形的な特徴，周囲の様子などを地図等で予想できるようにしておく。(60分)
7 回	流速計と浮子の使用法を調べ，それぞれのメリットデメリットを確認しておくこと。(60分)
8 回	地点ごとに記録したことを正確に記し，小レポートにまとめること。(90分)
9 回	地層で観察したことを正確に記し，小レポートにまとめること。(60分)
10 回	自分でテーマを決め，フィールドの中のどの部分を切り取るか，何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(60分)
11 回	双眼鏡や望遠鏡の使用法を前もって確認しておくこと。事前に星座早見盤で見える星座を予測して

	おくこと(60分)。
1 2 回	大学キャンパス周辺との違いを，植生という観点から，観察の視点を決めておくこと(60分)。
1 3 回	大まかに被子植物，シダ植物，コケ植物の分類や生態の違いを調べておくこと(60分)。
1 4 回	昆虫がもつ擬態や被子植物との共進化について調べておくこと(60分)。
1 5 回	自分でテーマを決め，フィールドの中のどの部分を切り取るか，何を学習者に理解して欲しいかなどのアウトラインを描いておくこと。(60分)

講義目的	本講義は，初等理科で野外学習の基本を身につけるための講義である．初等理科で扱う野外学習は生物領域や地学領域（天体を含む）など幅広い範囲に及ぶ．近年，安全対策等の心配から野外学習が避けられる傾向にあるが，野外は教材の宝庫であり，学習としてもその効果は大きい．この講義では実際にフィールドを歩き，入り込み，ミクロやマクロの視点から五感を通して生物や地学の世界を覗きこむことにしている．その不思議さと奥深さに感動し，その感動を学校や社会で還元していくことを目指す．これは学位授与方針Eに関連している．
達成目標	フィールド学習を行う際の安全面の確保についての基本を身につけることができる．フィールド学習の目的を理解した上で，基本的な技能を身につけることができる．植物や動物との関係や地形や地質との関係など幾つかの要素を関連づけて思考することができる．測定等の方法を身につけることができる．自らのテーマに沿ってプレゼンテーションを行い，議論を深めることができる．（いずれもE）
キーワード	野外学習，安全対策，哺乳動物，草本植物・木本植物，コケ植物，シダ植物，水の流速測定，地質（地質図）と地形（地形図），礫・砂・泥など粒径の違い，浸食・運搬・堆積，地層の観察，天体の観察，星座 等
成績評価（合格基準60	レポート60%，プレゼンテーション40%で評価し，総計で全体の60%以上の成績を合格とする．特にプレゼンテーションでは内容の的確性，論理性，表現力，対話力を4つの主な観点として評価する．
関連科目	探究活動，探究活動 A，初等理科内容論，初等理科教育法
教科書	指定しない．
参考書	山溪ハンディ図鑑「野に咲く花」（林 弥栄 他）「山に咲く花」（永田芳男 他）「樹に咲く花」（茂木透他）（いずれも山と溪谷社）
連絡先	A1号館 10F 山下研究室
注意・備考	本講義はフィールドでの活動を主とした，アクティブラーニングによる目標達成を目指している．指導計画は天候その他の状況により変更することがある．講義中の録音・録画・撮影は，指導者の許可のもとで可とする．集中講義で行うため，春期の土日を3日間程度使って行う．場所は大学キャンパス周辺，動物園および蒜山宿舍等を使用し，後者では1泊する．入園料，食費および宿泊費4000円程度は実費負担とする．なお，安全面の確保を優先するため，受講者数を10名程度に制限している．抽選状況は教育学部9F10F掲示板等で行うが，発表後5日目以降のキャンセルは認められないので注意すること．第1日目からフィールドを歩くので靴・帽子・虫除け・（昼食）等野外に適した準備を心がけること．
試験実施	実施しない

科目名	道徳教育の理論と方法（初等）（FEP5Z330）
英文科目名	Theory and Approach of Moral Education (Primary)
担当教員名	渡邊満＊（わたなべみちる＊）
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科（～18）
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	学習指導要領について正しい知識と理解を獲得し、今日の社会や子どもたちの諸課題に対応することのできる教育及び道徳教育と授業づくりを学ぶ。
準備学習	これまで児童として学んだ道徳授業を振り返りながら、テキストを読み、さらにこれまで学習した教職に関する諸科目を思い起こしながら、それらで学んだ知識を基に道徳、道徳教育、授業づくりなどについて考えることが必要である。
講義目的	学習指導要領について正しい知識と理解を獲得し、今日の社会や子どもたちの諸課題に対応することのできる教育及び道徳教育を理論的に考えると共に、それらを具体化する「特別の教科 道徳」（道徳科）の授業づくりについて、授業の実施に必要な基礎的な指導力を身につけることができるよう教材研究や指導案作成等に取り組み、模擬授業やワークショップなど活動的な学習を行う。
達成目標	現代社会における教育と道徳教育の本質と諸課題を明らかにし、学習指導要領を踏まえながら道徳の本質、道徳性の発達等道徳教育の基礎的な事項を理解することができ、道徳の授業づくりに取り組み、実際に学習指導案を作成し、授業を行うことができる。
キーワード	価値観の相対化、多面的・多角的な思考、問題解決的な学習、考え議論する道徳、内容の重点化、生き方
成績評価（合格基準60	発表・課題提出等（40％）及び試験（60％）
関連科目	教育原理、特別活動の指導法等
教科書	渡邊満ほか編/『「特別の教科 道徳」が担うグローバル化時代の道徳教育』/北大路書房、ISBN:978-4-7628-2922-2
参考書	渡邊満ほか編/『「新教科「道徳」の理論と実践』/玉川大学出版部 文部科学省/『小学校学習指導要領解説 「特別の教科 道徳」編』
連絡先	
注意・備考	試験は集中講義最終日に行う。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア活動 (FEP5Z350)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	高原周一 (たかはらしゅういち), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 滝澤昇 (たきざわのぼる), 山口一裕 (やまぐちかずひろ)
対象学年	3 年
開講学期	春学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。 科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
15 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに科学ボランティアセンターまで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
10 回	
11 回	
12 回	
13 回	
14 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
15 回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加することで地域の科学教育振興に貢献するとともに、科学ボランティア活動に必要な能力および社会人として必要な汎用的能力の向上を図る。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行う。なお、この成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学教育振興に貢献する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学イベントを自ら企画・運営することができる。 3) 科学実験教室や科学イベントで使える教材を5つ以上知っている。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などをもっている。
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
成績評価（合格基準60	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数（20%）、活動報告書（20%）、振り返りレポート（10%）、成果発表会の企画書（10%）、発表内容（40%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・この科目は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・科学ボランティア活動、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会における教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	初等国語科内容論 (FEP6A110)
英文科目名	Japanese Language for Primary Education
担当教員名	小川孝司 (おがわたかし)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。本科目を学ぶ意義と目的について説明する。
2 回	国語教育と国語科教育の違いや、人格形成に深く関係する言葉のはたらき等について説明する。
3 回	現行小学校学習指導要領(国語科)の改善の基本方針及び内容の改善について説明する。
4 回	現行小学校学習指導要領(国語科)における、小学校「国語」の全体目標、小学校「国語」の学年別「目標」及び系統性について説明する。
5 回	国語科の授業を構成する「教師の役割」、「学習者把握」及び「教材開発」の意味について説明する。
6 回	言葉の力の定着に向け、単元指導計画及び学習指導案作成の意義、学習指導の評価について説明する。
7 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 1)。「話すこと・聞くこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。
8 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 2)。「書くこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。中間試験を実施する。試験終了後、出題内容について解説を行う。
9 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 3)。「読むこと」の指導目標と内容の系統性について説明する。
10 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 4)。「伝統的な言語文化に関する事項」新設の意味と、指導の目標及び内容について説明する。
11 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 5)。「国語の特質に関する事項」新設の意味と、指導内容等について説明する。
12 回	現行の小学校学習指導要領(国語科 6)。「読書活動の充実」の意味、読書指導の目標及び内容について説明する。
13 回	国語科教育と関連の深いメディア・リテラシーの指導内容及び指導の実際について説明する。
14 回	小学校学習指導要領(国語科)を中心に、国語科教育の理論及び実践の変遷について説明する。
15 回	今日の国語科教育の課題を整理し、日常生活に必要な言葉の力を育むための国語科教育のあり方について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスを読み、本授業の概要を確認しておくこと。(標準学習時間 30 分)
2 回	国語教育と国語科教育の違いや言葉のはたらき等について、テキストなどで調べておくこと。(標準学習時間 60 分)
3 回	テキスト中の「国語科の改善の基本方針」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
4 回	小学校学習指導要領(国語科)の国語科全体目標及び学年別目標に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
5 回	テキスト中の「学習者の実態とその把握」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
6 回	テキスト中の「年間指導計画・単元計画・学習指導案」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
7 回	テキスト中の「『話すこと・聞くこと』の指導の目標と内容」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
8 回	テキスト中の「『書くこと』の指導の目標と内容」に目を通しておくこと。(標準学習時間 90 分)
9 回	テキスト中の「文学的文章及び説明的文章の目標と内容」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
10 回	テキスト中の「伝統的な言語文化の授業」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
11 回	テキスト中の「言語の機能・言語感覚」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
12 回	テキスト中の「読書指導の目標と内容」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
13 回	テキスト中の「国語科教育とメディア・リテラシー」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
14 回	テキスト中の「初等国語科教育の歴史」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)
15 回	テキスト中の「国語科教育の現状」に目を通しておくこと。(標準学習時間 60 分)

16回	小学校国語の「内容」について復習しておくこと。(標準学習時間90分)
講義目的	言語そのものの特質や現行小学校学習指導要領(国語科)に基づく小学校「国語」の教育内容について、教科書に掲載されている学習材も活用しながら、講義及びグループ協議を通して理解することを目的とする。(A)
達成目標	現行の小学校学習指導要領(国語科)に述べられている、国語科改訂の要点及び小学校国語科教育の全体目標、小学校「国語」の内容を構成する3領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の指導目標及び内容、「言語活動の充実」や「読書活動の充実」等の意義や指導方法の工夫についてを理解し、説明することができる。(A)
キーワード	国語科改訂の要点、小学校「国語」の全体目標、小学校「国語」の学年別目標、言語活動・読書活動の充実
成績評価(合格基準60%)	中間試験、最終評価試験などによって総合的に評価し、総計で60%以上を合格とする。レポート(20%) 中間試験(30%) 及び最終評価試験(50%)
関連科目	初等国語科教育法、教材分析・開発演習A(国・社・家)
教科書	小学校国語科授業研究第四版/田近洵一・大熊徹・塚田泰彦編/教育出版/9784316802374
参考書	小学校学習指導要領解説国語編/文部科学省/東洋館出版社/9784491023717
連絡先	A1号館 9F 小川研究室
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	初等家庭科教育法（FEP6A210）
英文科目名	Teaching Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について探求する。
準備学習	シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 教科書・資料を確認しておくこと。
講義目的	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について理解する。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	○ 我が国の家庭科授業構成原理と、その原理が子どもにどのような帰結をもたらすかを説明できる（ A ） ○ 家庭科の本質と独自性を説明できる（ A ） ○ 家庭科の本質を達成できる家庭科授業構成原理について説明できる（ A ）
キーワード	授業構成 家政生活認識育成 家庭科の本質 探求としての家庭科
成績評価（合格基準60）	提出課題（50％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等家庭科内容論
教科書	『家庭科授業構成研究』／佐藤園／家政教育社：『わたしたちの家庭科 5・6』／文部科学省検定済教科書／開隆堂
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 原田研究室 オフィスアワーについてはmylogを参照のこと。
注意・備考	・ この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク（学習指導案の共同立案）、グループディスカッション（模擬授業後の研究協議）を行う。 ・ 講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時まで申し出ること。それ以降の配付はしない。 ・ 提出課題に対するフィードバックは随時講義中に行う。
試験実施	実施する

科目名	初等体育科内容論 (FEP6C110)
英文科目名	Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作 (ささやまけんさく)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。
2 回	走・跳の運動、陸上運動の短距離走、リレーについて説明し、実践を指導する。
3 回	走・跳の運動、陸上運動のハードル走について説明し、実践を指導する。
4 回	走・跳の運動、陸上運動の走り幅跳び、走り高跳びについて説明し、実践を指導する。
5 回	器械運動のマット運動について説明し、実践を指導する。
6 回	器械運動の鉄棒運動について説明し、実践を指導する。
7 回	器械運動の跳び箱運動について説明し、実践を指導する。
8 回	ゲーム、ボール運動のゴール型 (サッカー) について説明し、実践を指導する。
9 回	ゲーム、ボール運動のネット型 (バレーボール) について説明し、実践を指導する。
10 回	ゲーム、ボール運動のベースボール型 (ソフトボール) について説明し、実践を指導する。
11 回	表現運動の表現について説明し、実践を指導する。
12 回	表現運動のフォークダンスについて説明し、実践を指導する。
13 回	体づくり運動の体ほぐしの運動について説明し、実践を指導する。
14 回	体づくり運動の体力を高める運動について説明し、実践を指導する。
15 回	授業全体の振り返りとまとめを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。短距離走、リレーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。ハードル走のルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。走り幅跳び、走り高跳びのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。マット運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。鉄棒運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。跳び箱運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。サッカーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。バレーボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。ソフトボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体ほぐしの運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体力を高める運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の指導計画の作成と内容の取扱いについて確認しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領および同解説体育編に示される小学校体育科の各運動領域について実践を通して理解することを目的とする。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	小学校体育科の各運動領域についての基本的・基礎的知識ならびに技能を習得すること。(A・B)

	)
キーワード	小学校、体育、学習指導要領
成績評価（合格基準60	学習指導要領と実技に関する知識についての小テスト（20％）、実技試験（20％）、レポート（60％）によって総合的に評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等体育科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491031613
参考書	体づくり運動 授業の考え方と進め方(改訂版) (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029283 表現運動系及びダンス指導の手引 学校体育実技指導資料 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029771 ゲーム及びボール運動 (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491026114
連絡先	A 1 号館 1 0 F 笹山研究室
注意・備考	・土曜日（10月20日予定）に笹ヶ瀬体育館で授業を実施します。 ・VODを用いた学習も行います。 ・提出課題のフィードバックについては授業中にコメントします。 ・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク，グループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	初等家庭科教育法（FEP6C210）
英文科目名	Teaching Home Economics for Primary Education
担当教員名	原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について探求する。
準備学習	シラバスを確認し、本授業の全体像を把握しておくこと。 教科書・資料を確認しておくこと。
講義目的	小学校学習指導要領に示された家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づいた授業構成の検討を通して、子どもにとってより意義があり、客観的に根拠づけられた家庭科授業構成について理解する。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	○ 我が国の家庭科授業構成原理と、その原理が子どもにどのような帰結をもたらすかを説明できる（ A ） ○ 家庭科の本質と独自性を説明できる（ A ） ○ 家庭科の本質を達成できる家庭科授業構成原理について説明できる（ A ）
キーワード	授業構成 家政生活認識育成 家庭科の本質 探求としての家庭科
成績評価（合格基準60）	提出課題（50％）、最終評価試験（50％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等家庭科内容論
教科書	『家庭科授業構成研究』／佐藤園／家政教育社：『わたしたちの家庭科 5・6』／文部科学省検定済教科書／開隆堂
参考書	必要に応じて適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 F 原田研究室 オフィスアワーについてはmylogを参照のこと。
注意・備考	・ この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク（学習指導案の共同立案）、グループディスカッション（模擬授業後の研究協議）を行う。 ・ 講義資料は講義開始時に配付する。再配付を希望する場合は次回の講義終了時までに申し出ること。それ以降の配付はしない。 ・ 提出課題に対するフィードバックは随時講義中に行う。
試験実施	実施する

科目名	初等体育科内容論 (FEP6D110)
英文科目名	Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作 (ささやまけんさく)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。
2 回	走・跳の運動、陸上運動の短距離走、リレーについて説明し、実践を指導する。
3 回	走・跳の運動、陸上運動のハードル走について説明し、実践を指導する。
4 回	走・跳の運動、陸上運動の走り幅跳び、走り高跳びについて説明し、実践を指導する。
5 回	器械運動のマット運動について説明し、実践を指導する。
6 回	器械運動の鉄棒運動について説明し、実践を指導する。
7 回	器械運動の跳び箱運動について説明し、実践を指導する。
8 回	ゲーム、ボール運動のゴール型 (サッカー) について説明し、実践を指導する。
9 回	ゲーム、ボール運動のネット型 (バレーボール) について説明し、実践を指導する。
10 回	ゲーム、ボール運動のベースボール型 (ソフトボール) について説明し、実践を指導する。
11 回	表現運動の表現について説明し、実践を指導する。
12 回	表現運動のフォークダンスについて説明し、実践を指導する。
13 回	体づくり運動の体ほぐしの運動について説明し、実践を指導する。
14 回	体づくり運動の体力を高める運動について説明し、実践を指導する。
15 回	授業全体の振り返りとまとめを行う。

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認しておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。短距離走、リレーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
3 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。ハードル走のルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
4 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の走・跳の運動、陸上運動に関する部分を確認しておくこと。走り幅跳び、走り高跳びのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
5 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。マット運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
6 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。鉄棒運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
7 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の器械・器具を使つての運動遊びと器械運動に関する部分を確認しておくこと。跳び箱運動の技について予習を行うこと。(標準学習時間120分)
8 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。サッカーのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
9 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。バレーボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
10 回	『小学校学習指導要領解説体育編』のゲーム、ボール運動に関する部分を確認しておくこと。ソフトボールのルールについて予習を行うこと。(標準学習時間120分)
11 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の表現リズム遊び、表現運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体ほぐしの運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
14 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の体力を高める運動に関する部分を確認しておくこと。(標準学習時間120分)
15 回	『小学校学習指導要領解説体育編』の指導計画の作成と内容の取扱いについて確認しておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	小学校学習指導要領および同解説体育編に示される小学校体育科の各運動領域について実践を通して理解することを目的とする。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	小学校体育科の各運動領域についての基本的・基礎的知識ならびに技能を習得すること。(A・B)

	)
キーワード	小学校、体育、学習指導要領
成績評価（合格基準60	学習指導要領と実技に関する知識についての小テスト（20％）、実技試験（20％）、レポート（60％）によって総合的に評価し、総計で60％以上を合格とする。
関連科目	初等体育科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491031613
参考書	体づくり運動 授業の考え方と進め方(改訂版) (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029283 表現運動系及びダンス指導の手引 学校体育実技指導資料 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491029771 ゲーム及びボール運動 (学校体育実技指導資料) / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491026114
連絡先	A 1 号館 1 0 F 笹山研究室
注意・備考	・土曜日（10月20日予定）に笹ヶ瀬体育館で授業を実施します。 ・VODを用いた学習も行います。 ・提出課題のフィードバックについては授業中にコメントします。 ・講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 ・この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク，グループディスカッションを行う。
試験実施	実施しない

科目名	教材分析・開発演習B（理科・算数・生活）（FEP6D210）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials B (Science, Maths, Living Environment Studies)
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、筒井愛知*（つついよしとも*）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	算数科で育成すべき「数学的に考える」資質・能力について、教材分析・教材開発する際には、「数学的な見方・考え方を働かせる」「数学的活動」の観点から具体的に分析することを、低学年の「数」の領域を事例に解説する。 （黒崎 東洋郎）
2回	AIの進展に対応する資質・能力を育成するため、加法、乗法、除法について「知識・技能」「数学的な思考力・判断力・表現力」「学びに向かい態度」の観点から、事例を挙げてマトリックス法による教材分析の方法を解説する。 （黒崎 東洋郎）
3回	点、線、面の図形の構成要素に基づく基本的図形及び三角形、四角形、円などの基本的な図形の面積に関する教材分析・教材開発を事例を挙げて解説する。 （黒崎 東洋郎）
4回	「変化と関係」教材の意義、伴って変わる2つの数量に着目し、その関係を探る関数教材の分析法や関数を活用する教材開発の視点を解説する。 （黒崎 東洋郎）
5回	データの分類整理、データ活用の教材を、統計的な見方・考え方の育成の視点から系統的・体系的視点に立って解説する。 （黒崎 東洋郎）
6回	学習指導要領の理科の目標を分析し、理科における教材分析・教材開発の意義を解説する。また、理科におけるアクティブラーニングについて議論を行う。 （山下 浩之）
7回	生物・地学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
8回	物理・化学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
9回	生物・地学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議する。 （山下 浩之）
10回	物理・化学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議する。 （山下 浩之）
11回	生活科の目的や内容について学習指導要領に基づいて解説するとともに、身の周りの人や社会や自然に対する視点について議論する。 （筒井 愛知*）
12回	身近な人や社会との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。

	(筒井 愛知*)
1 3 回	身近な自然との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。
	(筒井 愛知*)
1 4 回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)
1 5 回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)

回数	準備学習
1 回	算数科で目指す「資質・能力」とは何かを調べ、算数科の目標や知識・理解だけでなく、数学的な見方・考え方を育成する観点から教材分析・開発する意義を事前に調べてくること。(2時間)
2 回	「せめて計算力だけは」と言われる。AIの発達で、単に計算できれば幼児大ではない、算数科で本当に育成すべき計算力とは何かを考えてくること。(2時間)
3 回	三角形、四角形、円を指導する意義や意味指導、及び、これらの基本的な図形の面積の求積指導の概要を事前に調べてくること。2時間。
4 回	算数科で比例関係を取り上げる意義や「関数の見方・考え方」をはぐくむために系統的に取り上げられている教材を事前に調べてくること。(2時間)
5 回	算数科で統計的な見方・考え方を育成する意義、データの分類整理がどのような教材で指導されているかを事前に調べてくること。2時間。
6 回	理科の目標および各学年の目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
7 回	生物・地学領域での目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
8 回	物理・化学領域での目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
9 回	予備学習として各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えること。(60分)
1 0 回	予備学習として各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えること。(60分)
1 1 回	自分が小学生の時の生活科について、内容や印象に残っていること等を振り返りまとめておくこと。(60分)
1 2 回	自分自身のこれまでの人や社会との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(60分)
1 3 回	自分自身のこれまでの自然との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(60分)
1 4 回	各自学習指導案を作成すること。(60分)
1 5 回	各自学習指導案を作成すること。(60分)

講義目的	・算数科固有のはぐくむべき資質能力と教材分析。教材開発の意義目的を理解している。(A) ・理科における各領域の特性と教材開発の意義について理解している。(A)
達成目標	・生活科の目標及び内容について理解している。(A) ・数学的リテラシーをはぐくむ教材分析、教材開発ができる。(A) ・科学の原理を理解し、目標と内容に適した教材開発および模擬授業ができる。(A) ・生活科の目標にあった教材開発ができる。(A)
キーワード	数学的リテラシー、多角的分析、目標分析「」、評価規準(クラリテリヤ) 自然事象の原理、教材開発、授業評価 社会、自然、遊びと学び
成績評価(合格基準60%)	オリジナルな算数の教材分析、教材開発が提案できたかどうかを、量と質の2面から評価する。目標や内容の理解および教材開発、授業評価の3点から評価する。(提出課題40%、教材開発40%、模擬授業20%(達成目標)を評価し、総計で60%以上を合格とする。)
関連科目	初等算数内容論、初等算数科教育法 初等理科 内容論 初等理科教育法 初等生活科内容論、初等生活科教育法
教科書	算数教科書(啓林館)、小学校学習指導要領解説 算数編(文科省) 小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書 小学校学習指導要領解説生活編/文部科学省/日本文教出版

参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 0 6 室(黒崎)研究室。 A1号館 1012(山下)研究室 ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
注意・備考	学生諸君の意欲的な取り組みを希望する．指導計画は受講状況で変更することがある．講義中の録音・録画，撮影は原則認めない．当別の理由がある場合は事前に相談すること．
試験実施	実施しない

科目名	教材分析・開発演習B（理科・算数・生活）（FEP6E210）
英文科目名	Analysis and Development of Teaching Materials B (Science, Maths, Living Environment Studies)
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、筒井愛知*（つついよしとも*）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	月曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	算数科で育成すべき「数学的に考える」資質・能力について、教材分析・教材開発する際には、「数学的な見方・考え方を働かせる」「数学的活動」の観点から具体的に分析することを、低学年の「数」の領域を事例に解説する。 （黒崎 東洋郎）
2回	AIの進展に対応する資質・能力を育成するため、加法、乗法、除法について「知識・技能」「数学的な思考力・判断力・表現力」「学びに向かい態度」の観点から、事例を挙げてマトリックス法による教材分析の方法を解説する。 （黒崎 東洋郎）
3回	点、線、面の図形の構成要素に基づく基本的図形及び三角形、四角形、円などの基本的な図形の面積に関する教材分析・教材開発を事例を挙げて解説する。 （黒崎 東洋郎）
4回	「変化と関係」教材の意義、伴って変わる2つの数量に着目し、その関係を探る関数教材の分析法や関数を活用する教材開発の視点を解説する。 （黒崎 東洋郎）
5回	データの分類整理、データ活用の教材を、統計的な見方・考え方の育成の視点から系統的・体系的視点に立って解説する。 （黒崎 東洋郎）
6回	学習指導要領の理科の目標を分析し、理科における教材分析・教材開発の意義を解説する。また、理科におけるアクティブラーニングについて議論を行う。 （山下 浩之）
7回	生物・地学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
8回	物理・化学領域の指導を対象として目標分析を行うとともに、教材の準備に関する手法および授業の各段階での評価の方法について解説する。 （山下 浩之）
9回	生物・地学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議する。 （山下 浩之）
10回	物理・化学領域での学習指導案作成と模擬授業を行う。授業後、各段階での評価を検討し、改善点等を討議する。 （山下 浩之）
11回	生活科の目的や内容について学習指導要領に基づいて解説するとともに、身の周りの人や社会や自然に対する視点について議論する。 （筒井 愛知*）
12回	身近な人や社会との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。

	(筒井 愛知*)
1 3 回	身近な自然との関わりについて、学生自身の体験を踏まえながら、教材を開発するための手法について解説する。
	(筒井 愛知*)
1 4 回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)
1 5 回	学習指導案の作成と模擬授業を行い、その後改善点などを討議する。
	(筒井 愛知*)

回数	準備学習
1 回	算数科で目指す「資質・能力」とは何かを調べ、算数科の目標や知識・理解だけでなく、数学的な見方・考え方を育成する観点から教材分析・開発する意義を事前に調べてくること。(2時間)
2 回	「せめて計算力だけは」と言われる。AIの発達で、単に計算できれば幼児大ではない、算数科で本当に育成すべき計算力とは何かを考えてくること。(2時間)
3 回	三角形、四角形、円を指導する意義や意味指導、及び、これらの基本的な図形の面積の求積指導の概要を事前に調べてくること。2時間。
4 回	算数科で比例関係を取り上げる意義や「関数の見方・考え方」をはぐくむために系統的に取り上げられている教材を事前に調べてくること。(2時間)
5 回	算数科で統計的な見方・考え方を育成する意義、データの分類整理がどのような教材で指導されているかを事前に調べてくること。2時間。
6 回	理科の目標および各学年の目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
7 回	生物・地学領域での目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
8 回	物理・化学領域での目標分析を行った上で、教材開発の意義を考えること。(60分)
9 回	予備学習として各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えること。(60分)
1 0 回	予備学習として各自学習指導案を作成し、目標および各段階での評価を考えること。(60分)
1 1 回	自分が小学生の時の生活科について、内容や印象に残っていること等を振り返りまとめておくこと。(60分)
1 2 回	自分自身のこれまでの人や社会との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(60分)
1 3 回	自分自身のこれまでの自然との関わりの歴史について振り返ってまとめておくこと。(60分)
1 4 回	各自学習指導案を作成すること。(60分)
1 5 回	各自学習指導案を作成すること。(60分)

講義目的	・算数科固有のはぐくむべき資質能力と教材分析。教材開発の意義目的を理解している。(A) ・理科における各領域の特性と教材開発の意義について理解している。(A)
達成目標	・生活科の目標及び内容について理解している。(A) ・数学的リテラシーをはぐくむ教材分析、教材開発ができる。(A) ・科学の原理を理解し、目標と内容に適した教材開発および模擬授業ができる。(A) ・生活科の目標にあった教材開発ができる。(A)
キーワード	数学的リテラシー、多角的分析、目標分析「」、評価規準(クラリテリヤ) 自然事象の原理、教材開発、授業評価 社会、自然、遊びと学び
成績評価(合格基準60%)	オリジナルな算数の教材分析、教材開発が提案できたかどうかを、量と質の2面から評価する。目標や内容の理解および教材開発、授業評価の3点から評価する。(提出課題40%、教材開発40%、模擬授業20%(達成目標)を評価し、総計で60%以上を合格とする。)
関連科目	初等算数内容論、初等算数科教育法 初等理科 内容論 初等理科教育法 初等生活科内容論、初等生活科教育法
教科書	算数教科書(啓林館)、小学校学習指導要領解説 算数編(文科省) 小学校学習指導要領解説理科編/文部科学省/大日本図書 小学校学習指導要領解説生活編/文部科学省/日本文教出版

参考書	適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 9 0 6 室(黒崎)研究室。 A1号館 1012(山下)研究室 ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
注意・備考	学生諸君の意欲的な取り組みを希望する．指導計画は受講状況で変更することがある．講義中の録音・録画，撮影は原則認めない．当別の理由がある場合は事前に相談すること．
試験実施	実施しない

科目名	初等音楽科教育法（FEP6F210）
英文科目名	Teaching Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂（いもとみほ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。小学校学習指導要領の変遷と現行の小学校学習指導要領（音楽）の解釈について説明する。
2 回	年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方を説明する。
3 回	歌唱指導法と歌唱教材研究について説明する。
4 回	歌唱の学習指導案作成について説明する。
5 回	低学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
6 回	中学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
7 回	高学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
8 回	鑑賞指導法と鑑賞教材研究について説明する。
9 回	鑑賞の学習指導案作成について説明する。
1 0 回	器楽指導法と器楽教材研究について説明する。
1 1 回	器楽の学習指導案作成について説明する。
1 2 回	器楽指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
1 3 回	創作指導法と創作教材研究について説明する。
1 4 回	創作の学習指導案作成について説明する。
1 5 回	創作指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
1 6 回	自己課題レポート提出

回数	準備学習
1 回	事前に小学校学習指導要領解説（音楽編）の内容を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
2 回	小学校学習指導要領（音楽）における音楽科の領域ごとの目標を復習しておくこと。学習指導要領解説（音楽編）の「指導計画の作成と内容の取扱い」の部分を読んでおくこと。（標準学習時間80分）
3 回	歌唱の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間100分）
4 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	低学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
6 回	中学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
7 回	高学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
8 回	鑑賞の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	器楽の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	器楽指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
1 3 回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	創作の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	創作指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を総括し、課題をみつけてレポートを作成すること（標準学習時間180分）

講義目的	小学校学習指導要領の学習および模擬授業を行うことによって、小学校音楽科授業に必要な知識と実践力を習得する。まず小学校学習指導要領の変遷を追い、新小学校学習指導要領（音楽）の位置づけを行う。次に新小学校学習指導要領（音楽）の目標、各領域（A表現、B鑑賞）の指導内容等を学ぶ。また、小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と方法、学習指導案作成の仕方を理解する。以上をふまえて、領域別の指導法を学び、領域別に小学校音楽科学習指導案を作成する。作成した学習指導案にそって、その一部分について模擬授業を行い、それをもとに討議することによって課題を明らかにし、授業計画の見直しと指導法の改善を検討する。（初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する）
------	---

達成目標	小学校学習指導要領の変遷を理解し、新小学校学習指導要領（音楽）を位置づけることができる。 新小学校学習指導要領（音楽）の改訂のポイントを押さえ、内容を十分に理解できる。 小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方がわかる。 領域別指導法等に関する知識を獲得し、音楽科学習指導案を作成できる。 作成した学習指導案に基づき、模擬授業ができる。
キーワード	音楽科指導法、授業実践力、実技応用力
成績評価（合格基準60	実践的指導力および歌唱・楽器演奏等の表現能力について、授業中の模擬授業の発表と討議等をもとに総合的に評価する（60％）。レポートにより、授業の理解度および自己分析力を評価する（40％）。60％以上を合格とする。
関連科目	初等音楽科内容論、ピアノ奏法Ⅰ、ピアノ奏法Ⅱ
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 吉富功修編著『小学校音楽科教育法—学力の構築をめざして』ふくろう出版
参考書	授業内容に添って随時紹介する。授業で補助的に使用する教材は随時配付する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 井本研究室
注意・備考	・この講義では、アクティブラーニングの一環としてグループワークおよびディスカッションを実施する。 ・提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。 ・授業案作成や模擬授業実施など、この授業では発表が中心となる。授業の復習とともに、次回の事前準備をしっかりとって授業に臨むこと。
試験実施	実施しない

科目名	探究活動 B (FEP6G110)
英文科目名	Investigation Activities IIB
担当教員名	紙田路子 (かみたみちこ)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして講義の目的と概略を説明するとともに、学校教育現場で必要とされる課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力の構成要素について理解する。
2 回	科学的・客観的態度に基づく情報分析の手法（「問題をどうたてるか—原因を考え問題を整理する」「理論と経験とをつなぐ—具体的証拠を集める」）について理解する。
3 回	博物館、フィールドワーク、社会的調査、文献検索等、課題解決のための情報コンテンツの特質と情報収集の方法について理解する。
4 回	情報の構成の仕方（プレゼンテーション・新聞等）について理解する。（ワークショップ形式）
5 回	瀬戸内の博物館や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性の概要の理解をもとに、グループで探求する課題の設定と課題追求のための計画の立案を指導する。
6 回	第1回 調査活動を行う。（岡山シティミュージアム・岡山県立博物館等）
7 回	第1回 調査活動のまとめを行う。（情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など）
8 回	第2回 調査活動を行う。（造山古墳、吉備津神社、岡山城、吉備国分寺等）
9 回	第2回 調査活動のまとめをする。（情報の整理、分析、再構成、さらに調べるべき課題の設定など）
10 回	これまでの調査活動を振り返り、テーマにそった新聞の構成（レイアウト、見出し、リード文、記事）方法についての説明を受け、グループごとに新聞作成を行う。
11 回	グループごとに発表を行い、情報の構成、内容、レイアウト等の観点をもとに意見交換を行う。（ワークショップ形式）
12 回	社会調査についての計画を立てる。
13 回	アンケートを作成し、実施するための準備をする。
14 回	アンケート結果を分析し、調査結果をプレゼンテーションで発表するための準備・練習を行う。
15 回	社会調査の結果についてプレゼンテーションを行う。
16 回	最終評価試験を行う。試験後模範解答の提示と内容についての解説を行う。

回数	準備学習
1 回	探究活動 B のシラバスや教科書に目を通し、学習の過程を把握しておくこと。（1時間）
2 回	高根正昭著「方法の創造学」に目を通し、問題解決の方法論について整理しておくこと。（2時間）
3 回	課題解決のコンテンツとしての岡山市周辺の博物館や資料館等の情報を集めておくこと。（1時間）
4 回	身近な新聞記事やドキュメンタリー映像に目を通し、効果的な情報の伝え方について考えておくこと。（1時間）
5 回	岡山市の歴史・自然・文化について課題設定を行い、探求活動のテーマを設定しておくこと。（2時間）
6 回	設定したテーマに基づき、管内の展示物、資料等についての情報を収集しておくこと。（1.5時間）
7 回	調査活動で取得した情報（資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど）を追究するテーマごとに整理すること。（1.5時間）
8 回	調査活動を行う博物館、資料館についての詳細な情報を収集しておくこと。（歴史、特徴など）（1.5時間）
9 回	調査活動で取得した情報（資料やインタビューの内容、写真、スケッチなど）を追究するテーマごとに整理すること。（1.5時間）
10 回	第2回講義の情報分析の手法に基づき、これまでに収集した情報を整理しておくこと。作業の内容・分担をグループで相談して決めておくこと（2時間）
11 回	グループで発表の準備練習を進めておくこと。（2時間）
12 回	岡山理科大学の学生について調べてみたいテーマについて設定しておくこと。（1時間）
13 回	岡山理科大学の学生を対象にアンケートを実施し、観点にそって整理しておく。（2時間）
14 回	アンケート結果から明らかになったことを考察しておくこと。（2時間）

1 5 回	プレゼンテーションの準備・練習をしておくこと。(2時間)
1 6 回	新聞作成の方法(情報収集・記事の書き方・見出し・リード・レイアウト)や社会調査に関わる概念(原因と結果の考察, 命題と仮説, 記述と説明, 独立変数と従属変数等)について復習し説明ができるようにしておくこと。(2.5時間)
講義目的	瀬戸内や吉備の歴史、文化環境に恵まれた岡山の地域性を生かし、仮説の設定、情報収集、検証、立論という計画をたて、見学や観察、調査活動などのアクティブラーニングを実施することを通して、探究に必要な観察力、課題の設定、情報の収集、科学的・客観的態度に基づく情報の分析・吟味、情報の再構成という情報活用能力を身に着けることを目的とする。(この講義は教育学部の学位授与方針のD・Eに強く関与する。)
達成目標	1. 社会研究の方法を理解する。(D・E) 2. 1の方法論に基づき、自らが設定したテーマについて仮説を設定し、検証し、理論を導き出すことができる。(E) 3. 研究の成果をプレゼンテーション等で効果的に伝えることができる。(D)
キーワード	情報活用能力、情報コンテンツの活用、原因と結果の論理、命題と仮説、記述と説明、独立変数と従属変数、検証、概念、作業定義、統制された変数
成績評価(合格基準60)	新聞20%(主に達成目標1・2を評価)、発表30%(主に達成目標2・3を評価)、最終評価試験50%(主に達成目標3を評価)により評価し、総計で得点率60%以上を合格とする。ただし最終評価試験において基準点を設け、得点が100点中60点未満は不合格とする。
関連科目	探究活動を受講しておくことが望ましい。
教科書	『創造の方法学』/高根正昭/講談社現代新書
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 9F 紙田研究室
注意・備考	・本講義は調査活動を主体におく。そのため、課外においても自主的に自ら設定したテーマにそって情報を集めておくことが望ましい。・日ごろから新聞やニュースに目を通し、岡山の自然や歴史、文化に関心をもつことが望ましい。・指導内容は受講状況に応じて変更する場合がある。・講義中の録音、録画、撮影は原則認めない。当別の理由がある場合は事前に相談すること。・試験は定期試験中に行う。
試験実施	実施する

科目名	生徒・進路指導論（初等）（FEP6G210）
英文科目名	Student/Career Guidance and Counseling (Primary)
担当教員名	松岡律（まつおかただし）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション・・・生徒指導・進路指導とは
2 回	教育課程としての生徒・進路指導・・・組織づくり、計画の共有
3 回	問題と指導・・・生活指導としての生徒指導
4 回	児童・生徒理解の方法(1)・・・児童期の心の特性を知る
5 回	児童・生徒理解の方法(2)・・・保護者とのコミュニケーション
6 回	児童・生徒理解の方法(3)・・・教師のカウンセリングマインドとアセスメント
7 回	教育相談との有機的連携・・・治療的、予防的対応
8 回	学級集団に対する生徒指導・・・個別指導とのバランス
9 回	初等段階における進路指導・・・中等段階との差異に着目する
10 回	学校-地域連携の構築と進路指導・・・“ 勤労観 ” や “ 職業観 ” の育成
11 回	関係諸機関との連携・・・生徒指導、進路指導の両面における支援
12 回	指導の実例とポイント(1)・・・小4 男児の例
13 回	指導の実例とポイント(2)・・・小6 女児の例
14 回	指導の実例とポイント(3)・・・中学・高校の例
15 回	キャリア教育と生徒指導・・・人生の先輩としての教師に求められるもの

回数	準備学習
1 回	小学校における生徒・進路指導とは何か、考えておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	学習指導と生徒指導の関係性について、考えを整理しておくこと。（標準学習時間60分）
3 回	生活指導と生徒指導との関係性をよく理解しておくこと。（標準学習時間60分）
4 回	子どもの感受性と表現力と人間関係について調べておくこと。（標準学習時間60分）
5 回	保護者との協調・トラブルについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
6 回	カウンセリングと心理的アセスメントについて調べておくこと。（標準学習時間60分）
7 回	問題行動の予防について考えておくこと。（標準学習時間60分）
8 回	集団指導と個別指導の特徴について調べておくこと。（標準学習時間60分）
9 回	キャリア教育について調べておくこと。（標準学習時間60分）
10 回	街探検や職場見学の実態について調べておくこと。（標準学習時間60分）
11 回	どのような機関があるのか調べておくこと。（標準学習時間60分）
12 回	学級不適応について調べておくこと。（標準学習時間60分）
13 回	高学年女子にありがちな問題について調べておくこと。（標準学習時間60分）
14 回	小学校卒業後の変化について、自身の経験をまとめておくこと。（標準学習時間60分）
15 回	教師と社会との関係性について考えておくこと。（標準学習時間60分）

講義目的	学校には、勉学を教えるだけでなく、子どもの人格発達や将来のキャリア形成に向けた支援を行う社会化機関としての役割がある。「ゆとり」導入以降の混乱の中、「学力向上」という目先の課題に目を奪われがちになるが、児童の将来を考えた時、勉学以外の側面のサポートはもはや必須である。本講義では、子どもが暮らす環境（空間）としての学級を維持していく上で、子どもをどう理解すればいいのか。また、子どもの自己実現に向けたサポートの在り方など、家庭や地域との連携をも視野に入れて理解していくことが目的である。 初等教育学科の学位授与方針Bに深く関与。
達成目標	小学校における生徒指導と進路指導の意味について、中等教育段階とは違う観点から明確に認識し、それに基づき現代の教育課題に対する自らの見解を理論的に述べるができること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	毎回の小レポート（計50％）、最終課題（50％）で総合評価し、60％以上を合格とする。
関連科目	
教科書	なし
参考書	「生徒指導提要」文部科学省
連絡先	
注意・備考	

試験実施	実施しない
------	-------

科目名	初等音楽科教育法（FEP6H210）
英文科目名	Teaching Music for Primary Education
担当教員名	井本美穂（いもとみほ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。小学校学習指導要領の変遷と現行の小学校学習指導要領（音楽）の解釈について説明する。
2 回	年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方を説明する。
3 回	歌唱指導法と歌唱教材研究について説明する。
4 回	歌唱の学習指導案作成について説明する。
5 回	低学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
6 回	中学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
7 回	高学年の歌唱指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
8 回	鑑賞指導法と鑑賞教材研究について説明する。
9 回	鑑賞の学習指導案作成について説明する。
1 0 回	器楽指導法と器楽教材研究について説明する。
1 1 回	器楽の学習指導案作成について説明する。
1 2 回	器楽指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
1 3 回	創作指導法と創作教材研究について説明する。
1 4 回	創作の学習指導案作成について説明する。
1 5 回	創作指導の模擬授業と討議をとおして、効果的な指導法について説明する。
1 6 回	自己課題レポート提出

回数	準備学習
1 回	事前に小学校学習指導要領解説（音楽編）の内容を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
2 回	小学校学習指導要領（音楽）における音楽科の領域ごとの目標を復習しておくこと。学習指導要領解説（音楽編）の「指導計画の作成と内容の取扱い」の部分を読んでおくこと。（標準学習時間80分）
3 回	歌唱の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間100分）
4 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
5 回	低学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
6 回	中学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
7 回	高学年の段階を考慮した歌唱指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
8 回	鑑賞の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
9 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	器楽の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	各自選定した教材に基づく指導案を書いておくこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	器楽指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
1 3 回	第12回の授業内容を復習し、移調に関する課題に取り組むこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	創作の目標および指導内容を復習し、自分の扱う教材を選定しておくこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	創作指導の模擬授業に向けて、準備すること（標準学習時間120分）
1 6 回	これまでの学習を総括し、課題をみつけてレポートを作成すること（標準学習時間180分）

講義目的	小学校学習指導要領の学習および模擬授業を行うことによって、小学校音楽科授業に必要な知識と実践力を習得する。まず小学校学習指導要領の変遷を追い、新小学校学習指導要領（音楽）の位置づけを行う。次に新小学校学習指導要領（音楽）の目標、各領域（A表現、B鑑賞）の指導内容等を学ぶ。また、小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と方法、学習指導案作成の仕方を理解する。以上をふまえて、領域別の指導法を学び、領域別に小学校音楽科学習指導案を作成する。作成した学習指導案にそって、その一部分について模擬授業を行い、それをもとに討議することによって課題を明らかにし、授業計画の見直しと指導法の改善を検討する。（初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する）
------	---

達成目標	小学校学習指導要領の変遷を理解し、新小学校学習指導要領（音楽）を位置づけることができる。 新小学校学習指導要領（音楽）の改訂のポイントを押さえ、内容を十分に理解できる。 小学校学習指導要領に基づいた年間指導計画の立て方、評価の観点と評価方法、音楽科学習指導案作成の仕方がわかる。 領域別指導法等に関する知識を獲得し、音楽科学習指導案を作成できる。 作成した学習指導案に基づき、模擬授業ができる。
キーワード	音楽科指導法、授業実践力、実技応用力
成績評価（合格基準60	実践的指導力および歌唱・楽器演奏等の表現能力について、授業中の模擬授業の発表と討議等をもとに総合的に評価する（60％）。レポートにより、授業の理解度および自己分析力を評価する（40％）。60％以上を合格とする。
関連科目	初等音楽科内容論、ピアノ奏法Ⅰ、ピアノ奏法Ⅱ
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 吉富功修編著『小学校音楽科教育法—学力の構築をめざして』ふくろう出版
参考書	授業内容に添って随時紹介する。授業で補助的に使用する教材は随時配付する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 井本研究室
注意・備考	・この講義では、アクティブラーニングの一環としてグループワークおよびディスカッションを実施する。 ・提出課題については、講義中にコメントおよび模範解答を配布するなどしてフィードバックを行う。 ・授業案作成や模擬授業実施など、この授業では発表が中心となる。授業の復習とともに、次回の事前準備をしっかりとって授業に臨むこと。
試験実施	実施しない

科目名	教育課程論（初等）（FEP6I110）
英文科目名	Educational Curriculum Studies (Primary)
担当教員名	宮本浩治＊（みやもとこうじ＊）、尾島卓＊（おじまたく＊）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション・・・講義の概要、目的、授業計画について説明する。 (尾島 卓＊)
2回	戦後日本のカリキュラム（教育課程）について説明する。 (尾島 卓＊)
3回	カリキュラムと学習指導要領について説明する。 (尾島 卓＊)
4回	学習指導要領の「領域」について説明する。 (尾島 卓＊)
5回	教科の指導と教科外活動の指導について説明する。 (尾島 卓＊)
6回	「総合的な学習の時間」の意義とその指導について説明する。 (尾島 卓＊)
7回	学習指導要領の中の「道徳」の位置付けと意義、その指導について説明する。 (尾島 卓＊)
8回	道徳の教科化ー成熟した市民の育成に向けたカリキュラム開発ーについて説明する。 (尾島 卓＊)
9回	教育内容・教材と教科書(1)ー教材配列から見てくる教科構成としてのカリキュラムーについて説明する。 (宮本 浩治＊)
10回	教育内容・教材と教科書(2)ー学びの履歴としてのカリキュラム開発ーについて説明する。 (宮本 浩治＊)
11回	授業開発と単元開発について説明する。 (宮本 浩治＊)
12回	カリキュラムマネジメントの実際について説明する。 (宮本 浩治＊)
13回	特色ある学校づくりー特色ある教育課程の開発が新しい教育を創り出すーについて説明する。 (宮本 浩治＊)
14回	カリキュラム評価の視点について説明する。 (尾島 卓＊)
15回	まとめをする。 (尾島 卓＊)

回数	準備学習
1回	小学校学習指導要領の13～17頁、小学校学習指導要領解説編の8～9頁を読んでおくこと。（標準学習時間60分、以下同じ）

2 回	小学校学習指導要領解説編の82～84頁を読んでおくこと。
3 回	小学校学習指導要領解説編の84～87頁を読んでおくこと。
4 回	小学校学習指導要領解説編の37～45頁を読んでおくこと。
5 回	小学校学習指導要領解説編の46～51頁を読んでおくこと。
6 回	小学校学習指導要領の110～111頁、小学校学習指導要領解説編の14～20頁を読んでおくこと。
7 回	小学校学習指導要領の102～106頁および小学校学習指導要領解説編の20～24頁を読んでおくこと。
8 回	7 回配布の補助資料を読んでおくこと。
9 回	第8回授業で配布する資料を読み、教科内容の系統性がいかに考えられているのかを考察しておくこと。
1 0 回	習得と活用を意識するために、教科書の単元構成についてレポートを作成すること。
1 1 回	第10回授業で配布する資料を読み、単元開発の実際をまとめておくこと。
1 2 回	第11回授業で配布する資料を読み、カリキュラムマネジメントの視座をまとめておくこと。
1 3 回	第12回授業で配布する教育課程表を読み、学校の特色がいかに考えられているのかをまとめておくこと。
1 4 回	文部科学省HPで今年度実施の「学力・学習状況調査」の小学校問題を見ておくこと。
1 5 回	これまでの授業ノートを読み返すこと

講義目的	1.戦後教育課程の変遷とその特質を理解する。 2.教育における指導と評価の基本原則を理解する。 3.カリキュラム（教育課程）と授業実践の双方向性を理解する。
達成目標	教育課程編成の原理と意義および具体的な方法を理解する。
キーワード	「生きる力」 学習指導要領 義務教育学校
成績評価（合格基準60	ポートフォリオ50%、小レポート20%、最終試験30%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。但し、最終試験において基準点を設け、得点が30点満点中、10点以下の場合不合格とする。
関連科目	特別活動の理論と方法（初等）、教育の方法と技術（初等）
教科書	『小学校学習指導要領』/文部科学省：『小学校学習指導要領解説 総則編』/文部科学省
参考書	『教育方法学』/佐藤 学/岩波書店：『新しい時代の教育課程 第3版』/田中耕治等編/有斐閣アルマ
連絡先	2012princess2@okayama-u.ac.jp（尾島卓）
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	特別支援教育論（FEP6J110）
英文科目名	Special Needs Education
担当教員名	吉利宗久＊（よしとしむねひさ＊）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	イントロダクション。講義の進め方を説明する。特別支援教育の歴史と基本的仕組みを解説する。
2 回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校の目的等を中心に解説する。
3 回	特別支援学校の制度とその現状を特別支援学校への就学手続き等を中心に解説する。
4 回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を特別支援学級の視点から解説する。
5 回	通常の学校における特別支援教育の制度と現状を通級による指導の視点から解説する。
6 回	視覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
7 回	聴覚障害者教育の実態と基礎について解説する。
8 回	知的障害者教育の実態と基礎について解説する。
9 回	肢体不自由者教育の実態と基礎について解説する。
1 0 回	病弱者教育の実態と基礎について解説する。
1 1 回	言語障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 2 回	自閉症・情緒障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 3 回	発達障害者教育の実態と基礎について解説する。
1 4 回	特別支援教育をめぐる新たな動向（インクルーシブ教育を中心に）について解説する。
1 5 回	特別支援教育をめぐる新たな動向（個別の教育支援計画を中心に）について解説する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	授業内容の確認と復習 第 2 回目授業までに参考書などにより、特別支援教育の基礎に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
2 回	特別支援教育の歴史や新しい動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 3 回授業までに参考書などにより、特別支援学校への就学に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
3 回	特別支援学校の目的や種別を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 4 回授業までに参考書などにより、特別支援学級に関し予習を行うこと。（標準学習時間180分）
4 回	特別支援学級の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 5 回授業までに参考書などにより、通級による指導に関し予習を行うこと。（標準学習時間180分）
5 回	通級による指導の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 6 回授業までに参考書などにより、視覚障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
6 回	視覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 7 回授業までに参考書などにより、聴覚障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
7 回	聴覚障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 8 回授業までに参考書などにより、知的障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
8 回	知的障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 9 回授業までに参考書などにより、肢体不自由教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
9 回	肢体不自由教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 0 回授業までに参考書などにより、病弱教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 0 回	病弱教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 1 回授業までに参考書などにより、言語障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 1 回	言語障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 2 回授業までに参考書などにより、自閉症・情緒障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 2 回	自閉症・情緒障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 3 回授業までに参考書などにより、発達障害教育に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 3 回	発達障害教育の内容を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 4 回授業までに参考書などにより、インクルーシブ教育の動向に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 4 回	インクルーシブ教育の動向を簡潔に説明できるように復習を行うこと 第 1 5 回授業までに参考書などにより、個別の教育支援計画に関し予習を行うこと。（標準学習時間120分）
1 5 回	個別の教育支援計画の概要を簡潔に説明できるように復習を行うこと これまでの講義を振り返りながら、障害者問題に関する情報収集を心がけること。（標準学習時間120分）
1 6 回	試験に備えて、1 回から 1 5 回までの内容を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	特別支援教育に関する基礎的な理論の理解を意図し、歴史的な変遷、法制度の内容、障害種別に基づく指導法の原則について教授する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	特別支援教育の基礎を理解するとともに、障害のある子どもに関する支援の動向を把握する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
キーワード	特別支援教育、インクルーシブ教育
成績評価（合格基準60	小レポート（50％）、最終評価試験(50％)により評価する。
関連科目	障害関係諸科目
教科書	『特別支援教育の基礎と動向』／大沼直樹他／培風館
参考書	適宜紹介する。
連絡先	yositosi@okayama-u.ac.jp
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	生活科内容論 (FEP6J210)
英文科目名	Living Environment Studies
担当教員名	筒井愛知* (つついよしとも*)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	火曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション。生活科という教科を理解するために必要な視点や、学生自身の小学生時代の生活科の授業の内容について振り返る。
2回	自然と関わるワークショップを行い、普段見落とされがちな身の回りの自然環境に対して、目を向けるための様々な方法を実践する。
3回	季節の変化や年中行事などが生活にどのようにかかわっているのかを考察する。
4回	自然や物を使った遊びについて紹介し、遊びを通じて自然観が養われたり、自然科学への興味が深まっていくことを解説する。
5回	動植物の飼育・栽培などの方法や実践例を紹介するとともに、学生自身の動植物の飼育・栽培体験を振り返る。
6回	幼児期から児童期の子供の遊びについて、時代と地域による共通点や、相違点を概説する。学生自身の遊び体験を振り返る。
7回	現代的な遊びである電子メディアについて、その歴史や現状を概説する。それを踏まえて現代社会における生活科の意味を再考する。
8回	こどもの手作業や手仕事が、遊びと生活とを結び付けていることを解説する。
9回	学生自身が住んでいる街と、学生自身とのつながりを見直すワークショップを通じて、個人と社会、個人と組織のつながりについて、考える。
10回	こどもを取り巻く学校・地域・公共施設などを調べて、こどもを取り巻く社会的な環境について考える。
11回	学生同士の交流のワークショップを行い、人との交流を進めていくための様々な技法について解説する。
12回	大学周辺の街を探索して、社会的な環境や自然環境などのアクションリサーチを行う。
13回	プレーパークでこどもの様子を観察したり、こどもと関わりながら、生活科全体の振り返りを行う。
14回	大学に入学してから今までの自分を振り返るワークショップを行い、「振り返る」ことの意味を考える。
15回	14回の内容を踏まえて、生活科という教科の意義や授業の展開、指導案などについてまとめて解説する。

回数	準備学習
1回	自らが小学生の時の生活科の内容について、思いだせるだけ思いだし、メモをしてくること。(60分)
2回	朝起きてから、大学に足を運ぶまでの間に、どのような自然を目にしたり、耳にしたかを意識してくること。(60分)
3回	自分が参加したことのある年中行事を書きだすとともに、思い出深いエピソードがあればメモしてくること。(60分)
4回	「自然」という言葉が表している自分にとってのイメージをはっきりとさせておくこと。(60分)
5回	小学校でよく飼育・栽培されている動植物について、調べておくこと。(60分)
6回	こどもの頃に夢中になった遊びをできるだけたくさん思いだしておくこと。(60分)
7回	こどもの頃に夢中になった電子ゲームについて、思いだしておくこと。(60分)
8回	折り紙を二種類、追ってくること。(30分)
9回	行きつけのお店、行きつけの病院、アルバイト先、よく使う交通機関、カード類など、自分と社会とのかかわりについて、確認しておくこと。(60分)
10回	小学生時代に利用した公共施設について、調べておくこと。(60分)
11回	授業後、授業でやったのと同じワークショップを、誰かと行うこと。(60分)
12回	授業後、授業では行かなかった場所に行き、より深く街への理解を進めること。(60分)
13回	授業後、プレーパークにもう一度足を運んでみること。(60分)
14回	授業後、改めて振り返ってみて、レポートの作成に備えること。(60分)
15回	14回分の配布資料やワークシートなどを全て見直しておくこと。(90分)

講義目的	生活科の教科内容について、誕生の背景と意義について知り、生活科の役割について検討する。 学生自らが学んできた生活科を振り返り、生活科での学びが自らの人間形成にどのように関わっているかを考える。 その上で、発達・成長、日常生活と社会、自然科学の視点から、生活科への興味と理解を深めていく。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	(1) 教科の位置付けを理解できる (A) (2) 生活科の特性がわかり他教科との相違を説明できる (A) (3) 学習指導要領に明記されている生活科の目標及び内容について理解できる (A) (4) 生活科の授業(活動)について、具体的な展開方法を検討できる (A)
キーワード	生活、社会、理科、環境、遊び、コミュニケーション
成績評価(合格基準60)	レポート(50%)、授業で行う演習(30%)、授業中の活動(20%)を総合して評価する。
関連科目	生活科教育法 教材分析・開発演習B(算数、理科、生活)
教科書	小学校学習指導要領解説生活編 / 文部科学省 / 日本文教出版
参考書	適宜指定する
連絡先	ph6y-tti@j.asahi-net.or.jp 筒井愛知
注意・備考	受け身ではなく積極的に授業に参加する態度が望まれる。
試験実施	実施しない

科目名	学校経営（FEP6K110）
英文科目名	School Administration
担当教員名	金川舞貴子＊（かながわまきこ＊）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	オリエンテーション：講義の進め方、評価方法等を説明する。
2回	現代の教職と学校：「教員」という職業の歴史の変遷を辿ることを通じて、教職が社会変化や国家制度・政策などと密接な関係を持ちながら、どのような意義や期待、課題などを有するのかを説明する。
3回	学校教育の発展と諸課題：戦後のわが国の学校教育について、制度的な観点から教育政策と学校現場の課題について説明する。
4回	学校教育を支える法制度：義務教育制度がどのように進展してきたのか、「教育を受ける権利」を保障する制度の一つとしての学校教育を支える様々な法律を説明する。
5回	近代公教育制度の成立と構成原理：わが国の公教育制度を支える原理、「教育の機会均等」、それを保障する「義務性」「無償性」「中立性」について説明する。
6回	教育行政の組織と運営：中央と地方の教育行政のしくみと働きを説明する。
7回	教育課程行政とカリキュラム開発：教育課程の法制度について教育権論争、教育課程の編成権、また学習指導要領の拘束性や改訂の歴史などを説明する。その上で、学校現場の創造性や組織性に基づくカリキュラム開発やマネジメントについて説明する。
8回	学校の組織と経営 ～歴史的展開～：学校が組織となるために必要な営み、すなわち学校経営について、その必要性および歴史的展開について説明する。
9回	学校の組織と経営 ～学校組織マネジメントの発想～：学校組織とその経営をめぐるトピックについて具体例をもとに理解を深め、学校経営改革をめぐる近年の動向について説明する。
10回	学校経営の理論的展開 ～科学的管理法～現代化論～：学校経営についての考え方は、一般経営学の理論を参照しつつ、またその時々々の教育政策や教育課題と向き合う形で発展してきた。そこで、学校経営の諸理論が、学校の組織特性をどのように理解し、学校経営のモデルを提示してきたのかを説明する。
11回	学校経営の理論的展開 ～組織文化～組織的知識創造経営～：第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに、学校経営の在り方を説明する。
12回	学校経営の現代的課題と学校組織の特徴：学校経営が現在直面している現代的課題、学校組織としての対応が求められる理由、その際、学校組織の特徴をいかに把握したらいいのかについて検討する。
13回	地域コミュニティの中の学校経営：地域連携の歴史と制度を概観し、学校と地域・保護者の連携という観点から、これからの小学校に求められる学校経営の課題を説明する。
14回	教員の専門性と学校の自律性：学校に配置される教職員等の多様性をそこにおける協働性の重要性について、小学校の特性を踏まえ検討する。
15回	学校評価と学校改善：学校評価制度を概観し、学校評価の意義、および学校改善に資する学校評価の在り方について、小学校の具体事例をもとに検討する。
16回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	近代学校制度が成立して以降の小学校教員・中学校教員の教師像、求められてきた役割について予習すること。（標準学習時間120分）
2回	社会変化や制度・政策との関わりを押さえつつ、教職観の変遷について復習を行うこと。臨時教育審議会答申・教育改革国民会議の提言について予習すること。（標準学習時間120分）
3回	戦後のわが国の学校教育について、制度的観点から教育政策と学校現場の課題について復習を行うこと。2006年に改正された教育基本法について、旧法と比較しながら改正内容を予習すること。（標準学習時間120分）
4回	インクルージョン教育について復習を行うこと。（標準学習時間120分）
5回	現代公教育の構成原理について復習を行うこと。岡山市教育委員会の教育振興基本計画について読み、岡山市の重点的な政策について予習すること。（標準学習時間120分）
6回	文部科学省・教育委員会の意義や役割について復習を行うこと。第7回の授業までに教育課程の編成権、学習指導要領の変遷について教科書の該当箇所を予習すること。（標準学習時間120分）
7回	学校をベースとしたカリキュラム開発・カリキュラムマネジメントについて復習を行うこと。（標準学習時間120分）

8 回	学校経営の基本的な考え方および必要性について復習を行うこと。（標準学習時間120分）
9 回	学校経営改革の動向（組織マネジメント、新しい職）について復習を行うこと。学校経営の近代化論・現代化論について教科書の該当箇所を予習すること。（標準学習時間120分）
10 回	授業で扱った学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。また学校組織の一員としての自分の働き方について自身の考えを準備してくること。（標準学習時間120分）
11 回	第10回に引き続き、学校経営の諸理論をもとに学校の組織特性の理解、学校経営の在り方について復習を行うこと。規制緩和・地方分権下の学校の変化について教科書の該当箇所を予習すること。（標準学習時間120分）
12 回	学校に継続的・組織改善が要求される中、学校組織をどのように捉えて改善の方向性をどのように考えたらいいか、自分の考えをまとめること（復習）。学校と地域の連携が必要とされる背景について予習すること。（標準学習時間120分）
13 回	今日求められる教師の専門性について教科書の該当箇所を予習すること。（標準学習時間120分）
14 回	複数の学校評価資料を丁寧に読み比べることで、学校評価の目的やよりよい学校評価に求められるものについて事前に自身の考えをまとめておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	学校改善に資する学校評価の在り方について復習を行うこと。（標準学習時間120分）
16 回	試験に備えて、1回から15回までの授業内を理解し整理しておくこと。（標準学習時間180分）

講義目的	「経営」と聞くと企業のもの、経営者や管理職がするものといった、どこか遠い世界のイメージが強いかもしれない。しかし、学校には「学校経営」なるものが強く求められており、教師として学校組織で働く上で「経営」は不可欠である。近代の学校というシステムにおいて、なぜ「経営」が必要とされるようになったのか、「学校経営」とは何で、どのような考え方が求められるのか。本講義では、これらの問いを中心に据えながら、近代公教育の成立を含め、学校教育システムの基礎的事項を学ぶ。さらに、現在の学校教育が直面する多様な課題を多面的に検討する中で、今後求められる学校経営の在り方、学校改善の方策を考えていく。学位授与の方針 B に関連する科目である。
達成目標	近代公教育の原理原則を理解し、学校経営・教育行政に関する基礎的知識を習得する。わが国の教育改革の背景や課題を多角的に分析し、自分の考えを論理的に展開できる。学位授与の方針 B に関連する科目である。
キーワード	
成績評価（合格基準60	課題提出（30％）、最終評価試験（70％）により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。但し、最終評価試験において基準点を設け、得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	
教科書	『教育の経営・制度』／田中智志・橋本美保〔監修〕浜田博文〔編著〕／一藝社／2014年／9784863590670
参考書	適宜紹介する。
連絡先	
注意・備考	授業は講義と討議を中心に進めるため、学生の積極的な参加を求める。
試験実施	実施する

科目名	現代教育課題研究 (FEP6K210)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	松岡律 (まつおかただし)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する—グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡)
2 回	諸問題の改善策について討議する—ディスカッション (松岡)
3 回	今後の社会と教育のあり方について—意見発表 (松岡)
4 回	21世紀型学力について問題を提起する：グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森)
5 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森)
6 回	21世紀型教育についての意見発表をする (森)
7 回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司)
8 回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司)
9 回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司)
10 回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西)
11 回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
12 回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
13 回	理数教育の本質とキーコンピテンシー (黒崎)
14 回	学習の本質とアクティブラーニング (黒崎)
15 回	ALACTモデルによる教師の学びと省察 (黒崎)

回数	準備学習
1 回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
2 回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
3 回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
5 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
6 回	21世紀型教育について、自分の考えを 1200 字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと(標準学習時間 90 分)
9 回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200 字)」を仕上げておくこと。(標準学習時間 90 分)
10 回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
11 回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間 90 分)
12 回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 90 分)
13 回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー、科学リテラシーの定義を調べておくこと(標準学習時間 90 分)
14 回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べておくこと(標準学習時間 90 分)
15 回	教員に求められる資質能力、その背景、養成段階の課題を調べること(中央教育審議会答申、教員養成部会、中間まとめ、2016)(標準学習時間 90 分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそ
------	--

	れぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチし、文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	各担当者ごとの提出課題点(20点× 5)を合計して評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	現代教育課題研究 (FEP6K220)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	森敏昭 (もりとしあき)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	理数教育の本質とキーコンピテンシー (黒崎)
2 回	学習の本質とアクティブラーニング (黒崎)
3 回	ALACTモデルによる教師の学びと省察 (黒崎)
4 回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する—グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡)
5 回	諸問題の改善策について討議する—ディスカッション (松岡)
6 回	今後の社会と教育のあり方について—意見発表 (松岡)
7 回	21世紀型学力について問題を提起する：グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森)
8 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森)
9 回	21世紀型教育についての意見発表をする (森)
10 回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司)
11 回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司)
12 回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司)
13 回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西)
14 回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
15 回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)

回数	準備学習
1 回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー、科学リテラシーの定義を調べておくこと (標準学習時間 90 分)
2 回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べておくこと (標準学習時間 90 分)
3 回	教員に求められる資質能力、その背景、養成段階の課題を調べる(中央教育審議会答申、教員養成部会、中間まとめ、2016) (標準学習時間 90 分)
4 回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
5 回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
6 回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
8 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
9 回	21世紀型教育について、自分の考えを1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと (標準学習時間 90 分)
12 回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200字)」を仕上げておくこと。(標準学習時間 90 分)
13 回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
14 回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間 90 分)
15 回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 90 分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそ
------	--

	れぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチし、文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	各担当者ごとの提出課題点(20点× 5)を合計して評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	現代教育課題研究 (FEP6K230)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	小川孝司 (おがわたかし)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	理数教育の本質とキーコンピテンシー (黒崎)
2 回	学習の本質とアクティブラーニング (黒崎)
3 回	ALACTモデルによる教師の学びと省察 (黒崎)
4 回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する—グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡)
5 回	諸問題の改善策について討議する—ディスカッション (松岡)
6 回	今後の社会と教育のあり方について—意見発表 (松岡)
7 回	21世紀型学力について問題を提起する：グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森)
8 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森)
9 回	21世紀型教育についての意見発表をする (森)
10 回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司)
11 回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司)
12 回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司)
13 回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西)
14 回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
15 回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)

回数	準備学習
1 回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー、科学リテラシーの定義を調べておくこと (標準学習時間 90 分)
2 回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べておくこと (標準学習時間 90 分)
3 回	教員に求められる資質能力、その背景、養成段階の課題を調べる(中央教育審議会答申、教員養成部会、中間まとめ、2016) (標準学習時間 90 分)
4 回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
5 回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
6 回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
7 回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
8 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
9 回	21世紀型教育について、自分の考えを1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと (標準学習時間 90 分)
12 回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200字)」を仕上げておくこと。(標準学習時間 90 分)
13 回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
14 回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間 90 分)
15 回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 90 分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそ
------	--

	れぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチし、文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	各担当者ごとの提出課題点(20点× 5)を合計して評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施する

科目名	現代教育課題研究 (FEP6K240)
英文科目名	Research on Educational Issues in Contemporary Society
担当教員名	黒崎東洋郎 (くろさきとよお)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 1時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1 回	少子・高齢・格差社会について問題を提起する—グループワークを通じて取り組む課題を選定 (松岡)
2 回	諸問題の改善策について討議する—ディスカッション (松岡)
3 回	今後の社会と教育のあり方について—意見発表 (松岡)
4 回	21世紀型学力について問題を提起する：グループワークを通じて取り組む課題を選定する (森)
5 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について討議する (森)
6 回	21世紀型教育についての意見発表をする (森)
7 回	読むことの授業の実際を視聴し、児童の集中して学習に取り組み、学び合う姿から、それを支える学習意欲について課題をもち、調べる計画を立てる。(小川孝司)
8 回	学習意欲について調べたことをグループで情報交換し、レポートをより深めるための視点をとらえる。(小川孝司)
9 回	完成した「研究レポート」をグループで情報交換したり、代表の「研究レポート」について議論することを通して、「学習意欲」に関する知見を深める。(小川孝司)
10 回	世界の学校文化や教育的価値観について考えるワークショップを実施する。(奥西)
11 回	日本の学校における外国人児童・生徒との異文化葛藤に関して、具体的事例を基に考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
12 回	教師が外国人を含む児童・生徒の持つ異文化性に気づき、多様性を豊かさとして活かす方法について考える。ディスカッションおよび全体での意見共有を行う。(奥西)
13 回	理数教育の本質としてのキーコンピテンシについて解説する (黒崎)
14 回	主体的な学び、対話的な深い学びを実現するアクティブラーニングの方略について講義とワークショップを行う(黒崎)
15 回	ALACTモデル教師の学びを解説し、教育実践力を培うための授業の省察の在り方をワークショップする(黒崎)

回数	準備学習
1 回	少子化・高齢化、および格差の進行について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
2 回	各国の少子化、高齢化対策および経済政策について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
3 回	諸問題の改善に対して教育がどのように貢献できるか、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
4 回	21世紀型学力について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
5 回	21世紀型学力を育成するための教育方法について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
6 回	21世紀型教育について、自分の考えを 1200 字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 120 分)
8 回	関心をもったテーマについて、その実態や学習意欲の向上に向けた取り組み等を調べ、まとめておくこと(標準学習時間 90 分)
9 回	より深めるための視点をもとに調べたこと見直し、「研究レポート(1200 字)」を仕上げておくこと。(標準学習時間 90 分)
10 回	海外の国どこか1つを選び、学校生活の様子やその国で重要視されている価値観について調べておくこと。(標準学習時間 90 分)
11 回	配布された異文化葛藤事例について、原因を分析し解決案を考えておくこと。(標準学習時間 90 分)
12 回	日本文化と外国人児童・生徒の異文化葛藤に関して、1200字の文章にまとめて提出できるように準備しておくこと。(標準学習時間 90 分)
13 回	PISA報告(2015)の結果及び数学リテラシー、科学リテラシーの定義を調べておくこと(標準学習時間 90 分)
14 回	論点整理(中央教育審議会答申、2015)の3つの柱、アクティブラーニングの定義を調べておくこと(標準学習時間 90 分)
15 回	教員に求められる資質能力、省察力(中央教育審議会答申、教員養成部会、中間まとめ、2016)を調べておくこと(標準学習時間 90 分)

講義目的	「現代教育課題論」を踏まえ、学校運営、教育心理学、教育社会学、教科教育、異文化間教育のそれぞれの領域の課題について、グループワークやディスカッション等を組み合わせ、アクティブラーニングスタイルで、理解を深めることを目標とする。5グループに分かれてテーマを設定し、調査・検討・発表を行う。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	教育に関連する諸問題について各自が客観的視点をもってアプローチし、文献等の資料に基づきつつ諸課題の解決策等について考えを深め、それを客観的記述として文章化できるようになること。
キーワード	
成績評価（合格基準60	各担当者ごとの提出課題点(20点× 5)を合計して評価する。
関連科目	
教科書	
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	教育学原論（FEP6L110）
英文科目名	Principles of Education
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	教育学の研究对象と領域について説明する。
2 回	教育の意義と本質について説明する。
3 回	教育の理念について説明する。
4 回	教育目的の類型と歴史的変遷について説明する。
5 回	教育学における人間論について説明する。
6 回	子どもの弱さから見た教育の必要性和可能性について説明する。
7 回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について説明する。
8 回	ペスタロッチーの教育思想と学校教授学について説明する。
9 回	デューイの教育論と学校論について説明する。
1 0 回	学校の誕生と入社式儀礼教育的意義について説明する。
1 1 回	義務教育思想の成立と発展について説明する。
1 2 回	教職と教員養成の歴史について説明する。
1 3 回	教育制度と学校教育について説明する。
1 4 回	日本の学校教育制度と教育課程について説明する。
1 5 回	人間形成における教育の意義について説明する。
1 6 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	シラバスによって本授業の概要を確認しておくこと。（標準学習時間80分）
2 回	教育学の研究对象や領域について復習しておくこと。教育とは何かという問題に関心を持っておくこと。（標準学習時間100分）
3 回	教育の意義とその本質について復習しておくこと。教育はどうあればよいのかといった、教育の理念について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
4 回	教育の理念について復習しておくこと。教育目的についての考え方やその歴史的変遷などについて関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
5 回	教育目的の類型や歴史的な変遷について復習しておくこと。教育学では人間をどのような存在と見るのかについて関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
6 回	教育学における人間論について復習しておくこと。なぜ教育は必要なのか、また教育は可能なのかなどの問題について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
7 回	弱い存在としての子どもという視点から教育のあり方を復習しておくこと。ルソーの子ども観と教育思想の特質について関心を持っておくこと。（標準学習時間90分）
8 回	ルソーの子ども観と教育思想の特質について復習しておくこと。ペスタロッチーの教育思想について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
9 回	ペスタロッチーの教育思想についてその特質を復習しておくこと。デューイの教育論と学校論について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 0 回	デューイの教育論と学校論について、ペスタロッチーとの違いを調べておくこと。人類社会はなぜ学校をつくったのかについて関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 1 回	入社式という原始的な営みが学校の起源であることの意義を復習しておくこと。教育を義務とする考え方について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 2 回	義務教育という考え方の歴史やその特質について復習しておくこと。教職と教員養成の歴史について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
1 3 回	教職や教員養成の歴史的変遷について復習しておくこと。教育の制度やその中での学校教育について関心をもっておくこと。（標準学習時間90分）
1 4 回	教育制度の多様性や国による学校教育の特質などについて復習しておくこと。前回の授業と関連づけて日本の学校教育制度と教育課程の特長について関心をもっておくこと。（標準学習時間100分）
1 5 回	日本における学校教育制度と教育課程について復習しておくこと。人間形成における教育の意義について考えておくこと。最終評価試験にむけてこれまでの授業の内容を復習しておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	この講義は教育学への入門講義である。教育という人間の営みを対象にして、その本質を思想的、歴史的、社会的、制度的に考察する。成長発達の上にある子どもたちに対して、大人や教師、社会は教育の名において何をなすべきなのか。本講義では、ヒトが人になるための人間形成の基本原則を学ぶ。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	1. 人間のための教育の本質を理解する(B)。 2. 人間形成の基本的な原理と教育論の歴史的展開を理解する(B)。 3. 児童・生徒の指導に必要な基礎的知見と教育の原理を修得する(B)。
キーワード	教育学、教育の理念、人間形成
成績評価(合格基準60)	最終評価試験による評価(80点)およびレポートによる評価(20点)計100点
関連科目	教育学原論、教育史、学校経営、教育行政論
教科書	『よくわかる教育学原論』/安彦忠彦他編/ミネルバ書房(教職論(必修科目)と共通のテキストです。)
参考書	適宜、参考資料をプリントし、配布する。
連絡先	A1号館 9F 山中研究室
注意・備考	この科目は教員免許状取得のための必修科目です。
試験実施	実施する

科目名	初等体育科教育法（FEP6L210）
英文科目名	Teaching Physical Education for Primary Education
担当教員名	笹山健作（ささやまけんさく）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	授業概要に関するオリエンテーション。授業の概要とその進め方について説明する。
2 回	体育科の学習指導要領の内容と変遷について説明する。
3 回	体育科の目標及び内容について説明する。
4 回	体育科のカリキュラムと指導計画作成について説明する。
5 回	体育科の学習形態と学習評価，授業評価について説明する。
6 回	体育科の指導方略と指導技術について説明する。
7 回	体育科の教材・教具と教材研究（体づくり運動，器械運動，陸上運動）について説明する。
8 回	体育科の教材・教具と教材研究（ボール運動，表現運動，水泳）について説明する。
9 回	体育科の指導案作成の考え方と指導案作成について説明する。
10 回	体育科の指導案作成（体づくり運動）と模擬授業の意義・方法について説明する。
11 回	体育科の指導案作成（器械運動・ボール運動）
12 回	模擬授業と討議 体づくり運動について説明する。
13 回	学習指導要領における体育科の保健領域について説明する。
14 回	保健領域の内容と指導案作成（1）毎日の生活と健康，育ちゆく体とわたしについて説明する。
15 回	保健領域の内容と指導案作成（2）心の健康，けがの防止，病気の予防について説明する。
16 回	最終評価試験を実施する

回数	準備学習
1 回	シラバスを確認しておくこと。（標準学習時間60分）
2 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
3 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
4 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
5 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
6 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
7 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
8 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
9 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
10 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
11 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
12 回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
13 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
14 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
15 回	『小学校学習指導要領解説体育編』を読んでおくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	小学校体育科の学習指導要領の目標や内容，カリキュラム等について理解することを目的とする。また、体育科の指導方略，授業評価，教材・教具等について理解し，指導案の作成や模擬授業を実施する。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	学習指導要領における小学校体育科の目標と内容について理解し，指導計画及び指導案を作成できるようにすること。（A・C）
キーワード	小学校，体育，学習指導要領
成績評価（合格基準60	小テスト（30%），学習指導計画案の課題（20%），最終試験（50%）によって総合的に評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	初等体育科内容論
教科書	小学校学習指導要領解説 体育編 / 文部科学省 / 東洋館出版社 / 978-4491031613
参考書	新版 体育科教育学入門 / 高橋健夫他 / 大修館書店 / 978-4469267013
連絡先	A 1 号館 10F 笹山研究室
注意・備考	- 提出課題のフィードバックについては授業中にコメントする。 - 講義中の論音/録画/撮影は原則認めない。特別の理由がある場合事前に相談すること。 - この講義ではアクティブラーニングの一環としてグループワーク，グループディスカッションを

	行う。
試験実施	実施する

科目名	ピアノ奏法（FEP6N110）
英文科目名	Piano Lesson II
担当教員名	井本美穂（いもとみほ）、津上崇*（つがみたかし*）、早川純平*（はやかわじゅんぺい*）、矢木裕子*（やぎひろこ*）
対象学年	1年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1回	「まきばの朝」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2回	「ふじ山」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3回	「春の小川」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4回	「とんび」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5回	「子もり歌」「さくらさくら」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6回	「おぼろ月夜」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8回	「われは海の子」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
9回	「もみじ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
10回	「スキーの歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
11回	「越天楽今様」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
12回	「冬げしき」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
13回	「ふるさと」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
14回	歌唱実技期末試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
15回	弾き歌い実技試験（発表会形式）を実施し、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。 レッスン内容を復習し、第2回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間90分)

2 回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7 回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
14 回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
15 回	弾き歌い実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間80分)

講義目的	小学校教員に必要とされる、歌唱およびピアノ演奏の技術を高めることを目的とする。歌唱については、小学校高学年の歌唱共通教材を用いて合唱するなど、より多様な歌唱方法を学ぶ。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、弾き歌いを中心とした演奏法を学習する。各自の経験やスキルに応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、演奏技術のさらなる向上を図る。期の終わりには弾き歌い実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。(初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
達成目標	強弱やフレーズを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 歌詞の内容にふさわしい表現を工夫してうたうことができる。 小学校で扱われる歌唱教材について、ピアノ伴奏を行いながら歌うことができる。
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏
成績評価(合格基準60)	歌唱実技中間試験(20%)、歌唱実技期末試験(20%)、弾き歌い実技試験(40%)、毎回の授業で出された課題の到達度(20%)によって総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	ピアノ奏法I
教科書	小学校歌唱共通教材、および各自の進度に応じた教材を授業で配付する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室
注意・備考	・この授業は、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。 ・課外学習(個人練習)に励むこと。
試験実施	実施しない

科目名	ピアノ奏法 (FEP60110)
英文科目名	Piano Lesson II
担当教員名	井本美穂 (いもとみほ) , 津上崇* (つがみたかし*) , 早川純平* (はやかわじゅんぺい*) , 矢木裕子* (やぎひろこ*)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	水曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	「まきばの朝」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
2 回	「ふじ山」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
3 回	「春の小川」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
4 回	「とんび」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
5 回	「子もり歌」「さくらさくら」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
6 回	「おぼろ月夜」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
7 回	歌唱実技中間試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
8 回	「われは海の子」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
9 回	「もみじ」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。(全教員) (全教員)
1 0 回	「スキーの歌」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
1 1 回	「越天楽今様」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
1 2 回	「冬げしき」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
1 3 回	「ふるさと」の歌唱、およびピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
1 4 回	歌唱実技期末試験を実施し、各自の到達度と課題を確認する。ピアノ演奏技術を指導する。 (全教員)
1 5 回	弾き歌い実技試験(発表会形式)を実施し、まとめと解説をする。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	これまでのピアノレッスンで学習した曲のなかから1曲弾けるようにしておくこと。 レッスン内容を復習し、第2回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間90分)

2 回	レッスン内容を復習し、第3回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	レッスン内容を復習し、第4回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	レッスン内容を復習し、第5回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
5 回	レッスン内容を復習し、第6回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
6 回	レッスン内容を復習し、第7回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
7 回	歌唱実技試験の内容を復習し、自分の改善点を確認すること。第8回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
8 回	レッスン内容を復習し、第9回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
9 回	レッスン内容を復習し、第10回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
10 回	レッスン内容を復習し、第11回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
11 回	レッスン内容を復習し、第12回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
12 回	レッスン内容を復習し、第13回までに課題を練習しておくこと。(標準学習時間120分)
13 回	レッスン内容を復習し、第14回までに課題を練習しておくこと。歌唱試験に備え、これまでの歌唱曲を復習すること。(標準学習時間120分)
14 回	歌唱実技試験の内容を復習すること。レッスン内容を復習し、弾き歌い実技試験に備えて練習すること。(標準学習時間150分)
15 回	弾き歌い実技試験およびこれまでのレッスンを振り返り、自分の課題を確認すること。(標準学習時間80分)

講義目的	小学校教員に必要とされる、歌唱およびピアノ演奏の技術を高めることを目的とする。歌唱については、小学校高学年の歌唱共通教材を用いて合唱するなど、より多様な歌唱方法を学ぶ。ピアノ演奏については、少人数グループによる指導を受け、弾き歌いを中心とした演奏法を学習する。各自の経験やスキルに応じた弾き歌いおよびピアノ曲を学び、演奏技術のさらなる向上を図る。期の終わりには弾き歌い実技試験を実施し、到達状況を把握するとともに、人前で演奏する力をつける。(初等教育学科の学位授与方針項目Aに強く関与する)
達成目標	強弱やフレーズを工夫して、ピアノ演奏で表現することができる。 歌詞の内容にふさわしい表現を工夫してうたうことができる。 小学校で扱われる歌唱教材について、ピアノ伴奏を行いながら歌うことができる。
キーワード	弾き歌い、歌唱、ピアノ演奏
成績評価(合格基準60)	歌唱実技中間試験(20%)、歌唱実技期末試験(20%)、弾き歌い実技試験(40%)、毎回の授業で出された課題の到達度(20%)によって総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	ピアノ奏法I
教科書	小学校歌唱共通教材、および各自の進度に応じた教材を授業で配付する。
参考書	適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 井本研究室
注意・備考	・この授業は、アクティブラーニングの一環としてグループワークを実施する。 ・演習課題については、レッスンのなかでフィードバックを行う。 ・課外学習(個人練習)に励むこと。
試験実施	実施しない

科目名	E S D理論と実践 (FEP6Q210)
英文科目名	Theory and Practice of ESD
担当教員名	岡本弥彦 (おかもとやすひこ)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	E S D創設の経緯や意義について解説する。
2 回	持続可能な社会づくりに関わる問題を抽出・選択し、それらの特性について考察する。
3 回	E S Dの視点に立った学習指導で重視する能力や態度について考察する。
4 回	持続可能な社会づくりに関わる課題を見いだす視点について解説する。
5 回	E S Dの視点に立った学習指導を進める上での留意事項について解説する。
6 回	E S Dの視点に立った学習指導の枠組みについて解説し、その実践例を紹介する。
7 回	総合的な学習の時間とE S Dの関連について解説する。
8 回	探究的な学習とE S Dの関連について解説する。
9 回	社会に開かれた教育課程におけるE S Dについて解説する。
10 回	社会教育におけるE S Dの現状と課題について解説する。
11 回	E S Dにおける多様な主体の協働 (マルチ・ステークホルダー) について解説する。
12 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その1>
13 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その2>
14 回	教科等の指導計画をE S D化する演習を行う。 <その3>
15 回	E S D化された指導計画を発表・共有し、改善点等について考察する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	【予習】E S Dとは何かについて、インターネットや文献等から調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S D創設の経緯と意義を理解し、E S Dとは何かを説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
2 回	【予習】持続可能な社会につながる全世界的な問題のうち、教材として取り上げてみたいものについて調べておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりに関わる問題の特性を説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
3 回	【予習】学習指導要領で重視されている「生きる力」を構成する資質・能力について復習し、理解しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】E S Dで重視する能力や態度について説明できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
4 回	【予習】「システム」から連想されることや意味することを整理しておくこと (標準学習時間60分)。 【復習】持続可能な社会づくりの視点を理解し、活用できるようにしておくこと (標準学習時間120分)。
5 回	【予習】「地域の魅力を発見しよう」の学習を展開する場合の指導方法を考えておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dを進める上での留意事項を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
6 回	【予習】これまでの学習内容 (能力・態度、構成概念) を再確認して理解しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】E S Dの学習指導過程を構想し展開するために必要な枠組みを理解し、説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
7 回	【予習】各自の小・中・高等学校での「総合的な学習の時間」の内容を思い出して整理しておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】総合的な学習の時間の趣旨を理解し、E S Dとの関連が説明できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。
8 回	【予習】各自の「総合的な学習の時間」を探究的なものにするための構想を描いておくこと (標準学習時間90分)。 【復習】探究的な学習の過程を理解し、授業計画を構想できるようにしておくこと (標準学習時間90分)。

9 回	【予習】自身が受けてきた学校教育の中で、実社会とのつながりを意識した経験を整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】社会に開かれた教育課程とE S D・P B Lの関係を理解し、説明できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 0 回	【予習】学校教育と社会教育の共通点・相違点について整理しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】社会教育におけるE S Dを理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 1 回	【予習】学校教育を充実する上で活用できそうな、学校外の教育資源の例を考えておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】多様な主体の協働の重要性や有効性を理解し、具体例を考えることができるようにしておくこと（標準学習時間90分）。
1 2 回	【予習】これまでの学習内容を再確認して理解しておくとともに、配付物を整理しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】選定した教材について、各自の専門教科の側面から分析しておくこと（標準学習時間60分）。
1 3 回	【予習】選定した教材について、E S Dの視点に基づいて分析しておくこと（標準学習時間120分）。 【復習】E S Dの視点に基づいた教材の分析を完成させておくこと（標準学習時間60分）。
1 4 回	【予習】E S Dの視点に基づいた指導計画を立案しておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】E S D化された指導計画を完成させておくこと（標準学習時間90分）。
1 5 回	【予習】各自が作成した指導計画について、指定された時間で発表できるようにしておくこと（標準学習時間90分）。 【復習】各自が作成した指導計画を評価しておくこと（標準学習時間90分）。
1 6 回	【予習】1 回から15回までの内容をよく理解し整理しておくこと（標準学習時間180分）。

講義目的	E S D（持続可能な開発のための教育）の理論や指導方法等に関する講義、実践事例の紹介、授業設計の演習等を通して、E S Dの目的や内容についての理解を深めるとともに、E S Dの指導過程を構想・展開するための考え方や方法を習得する。学位授与の方針Dに関連する科目である。
達成目標	持続可能な社会づくりに関する現状と課題について理解を深め、E S Dの理論と実践の必要性を認識する（D）。 小・中・高等学校等におけるE S D実践の目標・内容・方法等について理解する（D）。 E S Dの効果的な教材や指導方法、教科等の連携、学社連携等について、事例に基づきながら理解する（D）。 E S Dの授業が設計・実践できる力の基礎を身に付ける（D）。
キーワード	E S D, 持続可能な開発のための教育, 環境・経済・社会・文化, 問題解決学習
成績評価（合格基準60	提出課題60%, 最終評価試験40%により成績を評価し、総計で60%以上を合格とする。
関連科目	
教科書	使用しない。 授業中に資料を配付する。
参考書	授業中に適宜紹介する。
連絡先	D 2 号館 4 F 岡本研究室 086-256-9717 okamotoy@zool.ous.ac.jp
注意・備考	課題（【予習】で示した内容）については、次時の授業において討論や発表等を通して深化させる。 アクティブ・ラーニング（小集団でのグループ協議など）をほとんどの授業で取り入れる。
試験実施	実施する

科目名	科学ボランティア実践指導（FEP6S210）
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇（たきざわのぼる）、吉村功*（よしむらたくみ*）、森田明義*（もりたあきよし*）、山口一裕（やまぐちかずひろ）、高原周一（たかはらしゅういち）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	木曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介を受ける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以上実践する(現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する)ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実
------	--

	施できるようなること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。 3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。 イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。 評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況（報告書に基づく） 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動（教員の評価ならびに受講生相互の評価） 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。 ・本クラスは基本的に指定された曜日・時限に行われるが、科学イベントは基本的に学外で休日に行われる。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているため、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施する

科目名	外国語活動の指導法（FEP6V210）
英文科目名	Teaching Methods for Foreign Languages Activities
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 2時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	はじめに日本での外国語教育の概論を学び、小中高大と一貫した英語教育の中での小学校外国語活動・外国語科の役割を確認する。それらをふまえて、講義の中で行われる活動を通して、外国語活動の基本的な知識を実践的に学んでいく。具体的には、外国語（英語）活動を構成する要素に焦点を当てて体験的に学び、授業プランを作成して模擬授業を行い、その振り返りを通して、コミュニケーション能力の素地を育てるための授業はどのように作っていくのかを具体化していく。そして、実践的な知識と指導技術を体得し、現場に必要な教師力の基礎を育む。
準備学習	毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念、活動、教材について述べられるように予習し、準備しておくこと 活動発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	次期学習指導要領を見据えながら、現在の小学校での行われる外国語活動・外国語科を理解するために、基本的な知識や授業実践について体得することを目的とする。外国語活動・外国語科の授業をデザインするための実践的知識と指導技術を解説し、それらの学びを基にして、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となり、教壇で15分ほどの模擬授業を行って、ディスカッションを行う。また、ポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師の礎を育てる。
達成目標	小学校外国語活動を担当する教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A,C) 教育現場での実践的な外国語活動指導法を身につける(A,D) 児童に即した外国語活動のカリキュラム作成及び授業デザインを行う力をつける(B,E) 実際の模擬授業を通して、授業を行う実践的な力を身につける(A,E)
キーワード	外国語活動 / 外国語科 / コミュニケーション能力 / 授業デザイン / 学習支援
成績評価（合格基準60	定期試験による評価 5 0 %，模擬授業・朗読発表をルーブリックで評価 2 5 %，提出課題による評価 2 5 % ・評価の観点：理論的知識と実践との往還ができている 実際の英語授業における応用ができている 学習指導案の内容，模擬授業の発表内容
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	小学校英語活動資料『Hi, friends!』， 巻 / 東京書籍
参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する
試験実施	実施する

科目名	初等理科内容論（FEP6W110）
英文科目名	Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして学習指導要領の理科の目標を基に、授業の目的と方法、授業計画を解説する。
2 回	小学校3年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
3 回	小学校3年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
4 回	化学分野(1)小学校4年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
5 回	物理分野(2)小学校4年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
6 回	生物分野(1)小学校4年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
7 回	地学分野(2)小学校4年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
8 回	化学分野(1)小学校5年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
9 回	物理分野(2)小学校5年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 0 回	生物分野(1)小学校5年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 1 回	地学分野(2)小学校5年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 2 回	化学分野(1)小学校6年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 3 回	物理分野(2)小学校6年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 4 回	生物分野(1)小学校6年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 5 回	地学分野(2)小学校6年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 6 回	最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を熟読し、「問題解決学習」の意味を予習しておくこと。(60分)
2 回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を復習しておくこと。 小学校3年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
3 回	小学校3年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 小学校3年の内容「B地球と生命」領域で扱われる原理を予習しておくこと。
4 回	校3年の内容「B地球と生命」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 化学分野(1)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。(60分)
5 回	化学分野(1)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。物理分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
6 回	物理分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習してこと。生物分野(1)小学校4年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
7 回	生物分野(1)小学校4年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 地学分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習すること。(60分)
8 回	地学分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。化学分野(1)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習すること。(60分)
9 回	化学分野(1)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。物理分野(2)小学校5年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 0 回	物理分野(2)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。生物分野(1)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)

	0分)
1 1 回	生物分野(1)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習すること。 地学分野(2)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 2 回	地学分野(2)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習すること。 化学分野(1)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 3 回	化学分野(1)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。 物理分野(2)小学校6年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 4 回	物理分野(2)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。 生物分野(1)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 5 回	生物分野(1)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。 地学分野(2)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 6 回	最終評価試験に備えて、1回から1 5 回までの内容を理解し整理しておくこと。

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の学習内容を、個別あるいはグループによる観察実験を通して検討し、科学的な原理の理解をめざす。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	観察実験を通して原理を確実に理解するとともに、授業を立案するにあたっての観察実験に関する内容を、総合的に身につける。・授業を計画立案するにあたっての予備実験の方法やデータの取り方、安全面への配慮等理科学習を指導するに当たっての基礎基本を習得する。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	原理の理解、実験技能の習得、指導時の配慮
成績評価（合格基準60	実験レポート40%、最終評価試験60%の点数により成績を総合的に評価する。ただし、最終評価試験において得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	初等理科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書
参考書	講義の中で適宜紹介する。
連絡先	A 1 号館 1 0 F 山下研究室
注意・備考	・本講義の講義内容は、アクティブラーニングにより目標を目指す講義である・実験時には白衣等の着用、安全ゴーグル着用のこと・指導計画は受講状況により変更することがある・講義中の録音・録画・撮影は原則認めないが、事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	外国語活動の指導法（FEP6W210）
英文科目名	Teaching Methods for Foreign Languages Activities
担当教員名	坂本南美（さかもとなみ）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 3時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義
授業内容	はじめに日本での外国語教育の概論を学び、小中高大と一貫した英語教育の中での小学校外国語活動・外国語科の役割を確認する。それらをふまえて、講義の中で行われる活動を通して、外国語活動の基本的な知識を実践的に学んでいく。具体的には、外国語（英語）活動を構成する要素に焦点を当てて体験的に学び、授業プランを作成して模擬授業を行い、その振り返りを通して、コミュニケーション能力の素地を育てるための授業はどのように作っていくのかを具体化していく。そして、実践的な知識と指導技術を体得し、現場に必要な教師力の基礎を育む。
準備学習	毎回の講義で中心となる内容の復習を行うこと 次時の授業で取り上げられる言葉や鍵概念、活動、教材について述べられるように予習し、準備しておくこと 活動発表の準備も丁寧に行うこと
講義目的	次期学習指導要領を見据えながら、現在の小学校での行われる外国語活動・外国語科を理解するために、基本的な知識や授業実践について体得することを目的とする。外国語活動・外国語科の授業をデザインするための実践的知識と指導技術を解説し、それらの学びを基にして、発表者が教師となり、その他の受講生が全員生徒となり、教壇で15分ほどの模擬授業を行って、ディスカッションを行う。また、ポートフォリオによる振り返りを通して、自律して学び続ける教師の礎を育てる。
達成目標	小学校外国語活動を担当する教員に必要とされる基本的な知識を身につける(A,C) 教育現場での実践的な外国語活動指導法を身につける(A,D) 児童に即した外国語活動のカリキュラム作成及び授業デザインを行う力をつける(B,E) 実際の模擬授業を通して、授業を行う実践的な力を身につける(A,E)
キーワード	外国語活動 / 外国語科 / コミュニケーション能力 / 授業デザイン / 学習支援
成績評価（合格基準60	定期試験による評価 5 0 %，模擬授業・朗読発表をルーブリックで評価 2 5 %，提出課題による評価 2 5 % ・評価の観点：理論的知識と実践との往還ができている 実際の英語授業における応用ができている 学習指導案の内容，模擬授業の発表内容
関連科目	英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法 / 英語科教育法
教科書	小学校英語活動資料『Hi, friends!』， 巻 / 東京書籍
参考書	『学習指導要領』文部科学省のサイトを参照
連絡先	A1号館 10階 坂本研究室
注意・備考	試験は最終評価試験中に行う アクティブラーニングの一環として、ペア・グループディスカッションや発表を行う 講義資料は授業で配布する
試験実施	実施する

科目名	書写 (FEP6X110)
英文科目名	Penmanship
担当教員名	前田秀雄 * (まえだひでお *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 4時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	導入。各自の小中高校での学習を振り返り、書写・書道学習への目標を再確認する。
2 回	「永字八法」を参考にしながら、伝統的な楷書基本点画の執筆方法を説明する。
3 回	「春」字を執筆し毛筆書の本質を説明する。
4 回	「一三」・「土工」を臨書して横画と縦画の執筆法の練習を指導する。
5 回	「十干」・「口目」を臨書して横画・縦画・折れの執筆法の練習を指導する。
6 回	「山里」・「八人」を臨書して折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
7 回	「大木」・「走者」を臨書して横画・縦画・折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
8 回	古典の中にある文字を利用して、「青春」をテーマに作品の製作を指導する。
9 回	筆線を使った「年賀状」の表現を指導する。
10 回	「分散」・「水力」を臨書して、払い・跳ねの執筆法の練習を指導する。
11 回	「魚」「黒点」を臨書して、点の執筆法の練習を指導する。
12 回	「方向」「七光」を臨書して、漢字の結構法の練習を指導する。
13 回	「南風」を臨書して、楷書の用筆法・結構法の習得を指導する。
14 回	「南風」の臨書作品を分析して、楷書の用筆法・結構法を確認する。
15 回	1～14回で仕上げた課題を踏まえて、書写・書道の鑑賞法と評価法を指導する。

回数	準備学習
1 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。
5 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
6 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
7 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
8 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
9 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
10 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
11 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
12 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
13 回	1～12回の授業で学んだことを総合して楷書技法のまとめをすること。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業の成果を踏まえて、楷書技法の鑑賞分析のための独自の判断能力を養うこと。(標準学習時間120分)
15 回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)

講義目的	初等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、小学校における国語科書写として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用し
------	--

	ながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。学位授与の方針 A に関連する科目である。
達成目標	・ 小学校の国語科書写に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、基本点画から始め、仮名・漢字を正しく整えて書くことができること。 ・ 筆で文字を書くことに慣れ、好きになること。 ・ 姿勢や執筆法、基本的な教材教具の工夫や鑑賞についての理解を深めること。学位授与の方針 A に関連する科目である。
キーワード	好学（学を好む・好きこそものの上手なれ）
成績評価（合格基準60	毎回の課題作品60％，レポート20％、最終評価試験20％による総合評価。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
連絡先	
注意・備考	毛筆書道用具・2 B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。
試験実施	実施する

科目名	書写 (FEP6Y110)
英文科目名	Penmanship
担当教員名	前田秀雄 * (まえだひでお *)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	導入。各自の小中高校での学習を振り返り、書写・書道学習への目標を再確認する。
2 回	「永字八法」を参考にしながら、伝統的な楷書基本点画の執筆方法を説明する。
3 回	「春」字を執筆し毛筆書の本質を説明する。
4 回	「一三」・「土工」を臨書して横画と縦画の執筆法の練習を指導する。
5 回	「十干」・「口目」を臨書して横画・縦画・折れの執筆法の練習を指導する。
6 回	「山里」・「八人」を臨書して折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
7 回	「大木」・「走者」を臨書して横画・縦画・折れ・払いの執筆法の練習を指導する。
8 回	古典の中にある文字を利用して、「青春」をテーマに作品の製作を指導する。
9 回	筆線を使った「年賀状」の表現を指導する。
10 回	「分散」・「水力」を臨書して、払い・跳ねの執筆法の練習を指導する。
11 回	「魚」「黒点」を臨書して、点の執筆法の練習を指導する。
12 回	「方向」「七光」を臨書して、漢字の結構法の練習を指導する。
13 回	「南風」を臨書して、楷書の用筆法・結構法の習得を指導する。
14 回	「南風」の臨書作品を分析して、楷書の用筆法・結構法を確認する。
15 回	1～14回で仕上げた課題を踏まえて、書写・書道の鑑賞法と評価法を指導する。
16 回	最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	使用する各種書道用具をきちんと整えておくこと。特に筆の寿命は約 2 年、古くて使いにくくなっている筆は新しいものにしておくこと。(標準学習時間120分)
4 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
5 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
6 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
7 回	正しい執筆法から始まり用筆の方法について、授業で学んだことを何度も復習して筆で文字を書くことに慣れること。筆による執筆に興味を持ち、好きになること。(標準学習時間120分)
8 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
9 回	生活の中にある筆で書かれた文字に興味を持つこと。現代社会における筆文字の価値を考えること。(標準学習時間120分)
10 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
11 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
12 回	毎時間に習得する技法を反復練習して、新しく学ぶ内容を加味しながら、楷書学習の成果を高めること。(標準学習時間120分)
13 回	1～12回の授業で学んだことを総合して楷書技法のまとめをすること。(標準学習時間120分)
14 回	前回の授業の成果を踏まえて、楷書技法の鑑賞分析のための独自の判断能力を養うこと。(標準学習時間120分)
15 回	書写・書道の本質を理解すること。生涯学習、独習の方法を確認すること。(標準学習時間120分)
16 回	試験に備えて1回から15回の授業内容の復習をしておくこと。(標準学習時間120分)

講義目的	初等教育の現場で自信を持って書写指導が出来る教師の育成を目指す。そのため、小学校における国語科書写として必要な、用筆・筆順・字形・字体・字配りなどに関して、硬筆と毛筆とを併用しながら、知識と技能を習得させる能力の養成を目指す。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	・ 小学校の国語科書写に必要な基礎的技能について、毛筆での臨書の実習を中心に、基本点画から始め、仮名・漢字を正しく整えて書くことができること。 ・ 筆で文字を書くことに慣れ、好きになること。 ・ 姿勢や執筆法、基本的な教材教具の工夫や鑑賞についての理解を深めること。学位授与の方針Aに連する科目である。
キーワード	好学（学を好む・好きこそものの上手なれ）
成績評価（合格基準60	毎回の課題作品60％，レポート20％、最終評価試験20％による総合評価。
関連科目	
教科書	使用しない。
参考書	使用しない。
連絡先	
注意・備考	毛筆書道用具・2B鉛筆・新聞紙など、実習に必要な備品を各自準備すること。
試験実施	実施する

科目名	初等理科内容論（FEP6Y120）
英文科目名	Science for Primary Education
担当教員名	山下浩之（やましたひろゆき）
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションとして学習指導要領の理科の目標を基に、授業の目的と方法、授業計画を解説する。
2 回	小学校3年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
3 回	小学校3年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
4 回	化学分野(1)小学校4年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
5 回	物理分野(2)小学校4年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
6 回	生物分野(1)小学校4年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
7 回	地学分野(2)小学校4年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
8 回	化学分野(1)小学校5年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
9 回	物理分野(2)小学校5年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 0 回	生物分野(1)小学校5年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 1 回	地学分野(2)小学校5年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 2 回	化学分野(1)小学校6年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 3 回	物理分野(2)小学校6年の「A物質・エネルギー」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 4 回	生物分野(1)小学校6年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 5 回	地学分野(2)小学校6年の「B生命・地球」領域に関わる内容を実験と観察を通して解説する。
1 6 回	最終評価試験を行う。

回数	準備学習
1 回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を熟読し、「問題解決学習」の意味を予習しておくこと。(60分)
2 回	小学校学習指導要領の理科の目標と学年の目標および内容を復習しておくこと。 小学校3年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
3 回	小学校3年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 小学校3年の内容「B地球と生命」領域で扱われる原理を予習しておくこと。
4 回	校3年の内容「B地球と生命」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 化学分野(1)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。(60分)
5 回	化学分野(1)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。物理分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
6 回	物理分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習してこと。生物分野(1)小学校4年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
7 回	生物分野(1)小学校4年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習しておくこと。 地学分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習すること。(60分)
8 回	地学分野(2)小学校4年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。化学分野(1)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を予習すること。(60分)
9 回	化学分野(1)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。物理分野(2)小学校5年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 0 回	物理分野(2)小学校5年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。生物分野(1)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)

	0分)
1 1 回	生物分野(1)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習すること。地学分野(2)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 2 回	地学分野(2)小学校5年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を復習すること。化学分野(1)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 3 回	化学分野(1)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。物理分野(2)小学校6年の内容「A物質とエネルギー」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 4 回	物理分野(2)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。生物分野(1)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 5 回	生物分野(1)小学校6年の内容「A物質・エネルギー」領域で扱われる原理を復習すること。地学分野(2)小学校6年の内容「B生命・地球」領域で扱われる原理を予習しておくこと。(60分)
1 6 回	最終評価試験に備えて、1回から15回までの内容を理解し整理しておくこと。

講義目的	児童が目的意識を持って観察実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるためには教師自身が十分な知識と技能を習得する必要がある。この授業では各学年の理科の学習内容を、個別あるいはグループによる観察実験を通して検討し、科学的な原理の理解をめざす。学位授与の方針Aに関連する科目である。
達成目標	観察実験を通して原理を確実に理解するとともに、授業を立案するにあたっての観察実験に関する内容を、総合的に身につける。・授業を計画立案するにあたっての予備実験の方法やデータの取り方、安全面への配慮等理科学習を指導するに当たっての基礎基本を習得する。学位授与の方針Aに関連する科目である。
キーワード	原理の理解、実験技能の習得、指導時の配慮
成績評価（合格基準60	実験レポート40%、最終評価試験60%の点数により成績を総合的に評価する。ただし、最終評価試験において得点が100点満点中60点未満の場合は不合格とする。
関連科目	初等理科教育法
教科書	小学校学習指導要領解説理科編 / 文部科学省 / 大日本図書
参考書	講義の中で適宜紹介する。
連絡先	A1号館 10F 山下研究室
注意・備考	・本講義の講義内容は、アクティブラーニングにより目標を目指す講義である・実験時には白衣等の着用、安全ゴーグル着用のこと・指導計画は受講状況により変更することがある・講義中の録音・録画・撮影は原則認めないが、事情がある場合は事前に相談すること。
試験実施	実施する

科目名	教育相談の理論と方法（初等）（FEP6Y210）
英文科目名	Theory and Approach of Educational Counseling (Primary)
担当教員名	渡邊淳一＊（わたなべじゅんいち＊）
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	金曜日 5時限
対象クラス	初等教育学科
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	イントロダクション。授業の進め方を説明する。受講生各自の相談経験に基づいてグループ・ディスカッションを行う。
2回	相談における「傾聴」の特徴とIntersubjectivityについて説明する。
3回	生徒指導と教育相談の異同、学校における教育相談の特質について説明する。
4回	教育相談の体制づくりについて説明する。
5回	教職に欠かせないリフレクションについて説明し、受講生各自の指導経験をリフレクションするワークを行う。
6回	プロセスレコードについて説明し、第5回で扱った指導経験についてのプロセスレコードを作成できるようにする。
7回	T.E.T.におけるACTIVE LISTENINGについて事例を挙げて説明する。
8回	学級担任による教育相談の進め方について、動画を用いて解説する。
9回	学級担任が行う教育相談の演習をし、解説する。
10回	保護者との教育相談的かわりについて『生徒指導提要』を用いて説明し、演習を行う。
11回	『生徒指導提要』図表5-3-3（p.109）にある教育相談の新たな手法について概説する。
12回	構成的グループエンカウンター演習を行う。
13回	SC・SSW・専門機関等との連携について説明し、創作事例を用いた演習を行う。
14回	アンガーマネジメントの必要性、怒りの特徴について概説する。また、児童生徒の暴言暴力を理解する視座について概説する。
15回	認知面からアプローチするアンガーマネジメントについて概説し、演習する。
16回	1回～15回までの総括を説明し、最終評価試験を実施する。

回数	準備学習
1回	自分が中学・高校の時に受けた「教育相談」について思い出しておくこと。 第2回目授業までに、参考書などにより、相談における「傾聴」について予習を行うこと。（標準学習時間90分）
2回	Intersubjectivityについてモデル図を用いて説明できるように復習を行うこと。 第3回目授業までに『生徒指導提要』の第1章を読んでおくこと。（標準学習時間60分）
3回	生徒指導の意義目的と教育相談の意義目的の異同について、説明できるように復習すること。また、学校における教育相談の利点と課題について説明できるようにすること。 第4回目授業までに、『生徒指導提要』第5章第2節を読んでおくこと。（標準学習時間90分）
4回	教育相談の組織、計画、研修、評価などについて説明できるように復習すること。 第5回目授業までに、参考書などにより、教職の即時性、即興性について調べておくこと。（標準学習時間120分）
5回	リフレクションの意義と方法について説明できるように復習すること。第6回目授業までに、レポート課題を完成させること。（標準学習時間120分）
6回	プロセスレコードの意義と方法を理解すること。第7回目授業までにレポート課題を完成させること。（標準学習時間120分）
7回	ACTIVE LISTENINGについて図解できるように復習すること。 第8回目授業までに『生徒指導提要』第5章第3節の2（2）までを読んでおくこと。（標準学習時間60分）
8回	定期教育相談の要点について説明できるように復習すること。 第9回目授業までに『生徒指導提要』第5章第3節の2（2）までを再読しておくこと。（標準学習時間60分）
9回	アンケートを用いて教育相談ができるように練習すること。 第10回目授業までに、『生徒指導提要』第5章第3節2（4）を熟読しておくこと。（標準学習時間60分）
10回	保護者とのかわりの難しさとその背景について説明できるように復習すること。 第11回目授業までに、『生徒指導提要』第5章第3節の2（3）を読んでおくこと。（標準学習

	時間60分)
1 1 回	『生徒指導提要』図表5 - 3 - 3にある各手法について説明できるように復習すること。 第12回目授業までに、参考書などにより、構成的グループエンカウンターについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
1 2 回	学校で構成的グループエンカウンターを実施する際の留意点について説明できるように復習すること。 第13回目授業までに、『生徒指導提要』第5章第4節を読んでおくこと。(標準学習時間60分)
1 3 回	「チーム学校」について説明できるように復習すること。 第14回目授業までに、アンガーマネジメントについて予備知識を得ておくこと。(標準学習時間60分)
1 4 回	児童生徒の暴言暴力について、複数の視座から理解できるように復習すること。 第15回目授業までに、認知行動療法についての予備知識を得ておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	自分自身のアンガーをマネジメントできるよう復習すること。(標準学習時間60分)
1 6 回	1回～15回までの内容をよく理解し整理しておくこと。(標準学習時間180分)

講義目的	本授業は、教育相談に関する基礎知識を修得し、教師として適切に教育相談を実践できる基礎を培うことを目標とする。学位授与の方針Bに関連する科目である。
達成目標	児童生徒の発達上の課題や問題及び保護者の心情について理解できる(B)。 教育相談の理論と方法を理解し、教育相談を実施できる(B)。 教育相談という相互行為を的確に省察できる(B)。 アンガーマネジメントについて理解し、実践できる(B)。
キーワード	生徒指導、カウンセリング、学校教育相談、心理教育、リフレクション、プロセスレコード、エンカウンター、アンガーマネジメント
成績評価(合格基準60)	最終評価試験(50%)、提出課題(30%)、受講態度(20%)により総合的に評価する。
関連科目	カウンセリング
教科書	文部科学省/生徒指導提要/教育図書/9784877302740
参考書	平木典子/カウンセリングの話新版/朝日新聞出版/978-4022598448:トマス・ゴードン(著)/奥沢 良雄ほか(訳)/教師学—効果的な教師=生徒関係の確立/小学館/978-4098371518:F・コルトハーヘン(編著)/武田信子(監訳)/教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ/学文社/978-4762020445:ネットワーク編集委員会(編)/授業づくりネットワークNo.8—教師のリフレクション(省察)入門(授業づくりネットワーク No. 8)/学事出版/978-4761919085:ドナルド・ショーン(著)/佐藤学ほか(訳)/専門家の知恵—反省的实践家は行為しながら考える/ゆみる出版/978-4946509261 など
連絡先	jnchwtbn@mimasaka.ac.jp
注意・備考	この授業を受けるにあたって、児童生徒を直接指導した経験(教科の授業に限らない)があることが望ましい。 試験は最終評価試験期間中に行い、試験形態は筆記試験とする。
試験実施	実施する

科目名	探究活動 A (FEP6Z110)
英文科目名	Investigation Activities IIA
担当教員名	山下浩之(やましたひろゆき)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーションおよび野外活動における一般的な注意および解説を行う。実態調査を綿密に行い、安全面への意識を高めた上で日程やグルーピングを行う。
2 回	旭川 の地質・地形・気象・水質・動植物について解説し、それらがカヌー実習に及ぼす影響と、カヌーによって始めて体感できる内容を理解する。
3 回	カヌーの名称や特性、操縦法の基本を解説するとともに野外活動における危険性とその回避方法について理解する。
4 回	現地の実習場所で地理・地形・水量・危険区域・危険生物等をグループごとに把握する。
5 回	現地の実習場所で、現地での危険をどのように回避すればいいかをグループごとに議論する。
6 回	現地の実習場所で、危険項目の洗い出しと回避方法をグループごとに発表し、議論する。
7 回	現地実習場所で、全員の健康状態を把握した後、ライフジャケットの使用法、浮かび方、安全姿勢等を学ぶ。
8 回	現地実習場所で、パドルの操作方法と前進および後退・回転方法を身につける。
9 回	現地実習場所で、カヌーの乗降りおよび沈した場合のレスキュー方法を身につける。
10 回	旭川周辺の動植物について解説し、実際に同定ができるようにする。生息環境から、生息条件を推測できるようにする。
11 回	旭川と百間川の歴史を追いながら、川とどのようなつきあい方を行い、どのように変え、どのように利用したかを実際の遺跡を見学しながら考察する。
12 回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、それぞれのテーマでまとめる。
13 回	現地でのカヌー実習および探究活動をグループごとに、修正し、発表に備える。
14 回	全グループを半分に分け、前半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。
15 回	全グループを半分に分け、後半の発表会を行う。質疑応答を行い、それぞれのテーマについて議論する。

回数	準備学習
1 回	旭川の上流から下流までの流路を地形図で確認しておくこと。(60分)
2 回	旭川の流域の地質・地形について、地質図等で確認しておくこと。(60分)
3 回	カヌーの名称や特性について、十分に予習しておくこと。(60分)
4 回	旭川の危険生物について、十分に調べておくこと。(45分)
5 回	危険回避の方法について十分に予習しておくこと。(60分)
6 回	現地下見を行う観点を自分なりに整理しておくこと。(60分)
7 回	ライフジャケットの使用法、スローボトルでの救助法などを予習しておくこと。(60分)
8 回	パドルの操作方法について十分に予習しておくこと。(60分)
9 回	カヌー実習時の緊急事態を想定し、どのような救急方法を行うか、また、レスキューをどのように行ったらいいかを十分に検討しておくこと。(60分)
10 回	旭川の周辺にどのような生物が生息しているかをそれぞれの分類グループに分けておくこと。(60分)
11 回	旭川のこれまでの歴史をたどりながら、利用法や災害時の状況および対策を調べておくこと。(60分)
12 回	自分なりのテーマを設定し、グループでの発表に備えること。(60分)
13 回	発表の分担を決め、分担部分については十分に準備を行っておくこと。(60分)
14 回	リハーサルを行い、改善および修正を行うこと。(60分)
15 回	グループごとの発表に積極的に意見ができるようにしておくとともに、自分たちのグループの発表全体の総括を行う(60分)

講義目的	本講義は自然探究活動を中心とした体験重視の授業である。主な目的はカヌーの技能や危険回避等のテクニックを身につけることはもちろんのこと、将来フィールドでの指導者として必要な資質や能力の育成を図るものである。初等教育学科の学位授与の方針 E に関連する科目である。
達成目標	・野外での自然探究活動における注意点を理解し、危険性を回避する方法を学ぶ。(E)・水上でのツールとなるライフジャケット使用法やカヌー操縦の基礎を習得する。(E)・野外での

	自然観察を通して抱いた疑問を解決するためのアプローチの仕方，調べ方を習得する．学位授与の方針 E に関連する科目である。（ E ） ・調べたことがらをまとめ，パワーポイントによる発表法を習得する．（ E ）
キーワード	カヌー・危険回避・フィールド学習・自然探究・協力性・指導法・旭川・百間川・発表法
成績評価（合格基準60	・カヌーの基本的な操作法が身についていること(チェック法20%)．・下見の方法や観点を身につけて実習を行っていること(主にレポート20%)・安全面の確保を十分に行った上で実習していること(チェック法20%)・発表方法を習得していること(チェック法20%)・グループの中で活発な議論を行っていること(主にレポート20%) これらの合計100%のうち60%以上を合格とする．
関連科目	探究活動（山下担当分）
教科書	適宜配布する．
参考書	シリーズ『岡山学』3～6，旭川を科学する Part 1～4．（吉備人出版） 「カヌー & カヤック入門（辰野 勇著）山と溪谷社
連絡先	A1号館山下研究室（1012）
注意・備考	本授業はアクティブラーニングによって本講義目標達成を目指す．本授業は受講者の安全と体験の質確保のために今年度から抽選により40名の履修制限を行うこととする．また，この授業は集中で行われるため，主に土曜日日曜日に行われることも考慮すること．日程については後日教育学部掲示板9F10F等に掲示する．受講決定後5日以後のキャンセルは認めないので注意すること．指導計画は受講状況により変更することがある．講義中の録音・録画・撮影は指導教官が認める範囲で可とするので事前に相談すること．
試験実施	実施しない

科目名	探究活動 C (FEP6Z120)
英文科目名	Investigation Activities IIC
担当教員名	山口隆久(やまぐちたかひさ)
対象学年	1 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション。講義の進めを説明する。社会の成り立ちと活動について説明する。
2 回	マーケットセグメンテーションについて説明する。
3 回	テーマ設定(研究課題の決定)について説明する。
4 回	対象組織(研究課題となる企業や自治体等の決定)について説明する。
5 回	調査計画書の策定(全体計画書の策定)について説明する。
6 回	事前調査(文献調査)について説明する。
7 回	フィールド調査 (訪問)
8 回	フィールド調査 (訪問)
9 回	調査経過報告書について説明する。
1 0 回	調査結果の分析について説明する。
1 1 回	調査報告書 について説明する。
1 2 回	調査報告書 について説明する。
1 3 回	調査結果の報告 (プレゼンテーション)
1 4 回	調査結果の報告 (プレゼンテーション)
1 5 回	ビジネスフィールドワークの総括

回数	準備学習
1 回	企業で働くことのイメージを抱いて、株式会社について予習しておくこと(標準学習時間90分)
2 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
3 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
4 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
5 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
6 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
7 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
8 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
9 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 0 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 1 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 2 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 3 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 4 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)
1 5 回	前回の授業で指摘したポイントをもう一度見直して、復習しておくこと(標準学習時間90分)

講義目的	探究活動 により修得した、科学的、客観的態度で物事の本質を追求し続ける基礎的能力を、具体的なフィールド活動を通して向上させることを講義目的とする。実社会では、営利を目的とした活動から非営利活動に至るまで様々な機能を持った組織体が社会を構成している。個々の組織体(企業、NGO・NPO、自治体、各種団体等)がどのような活動を通して社会に貢献しているかを事前調査、フィールド調査、調査結果の分析を通して社会の仕組みや活動について理解を深める。
達成目標	企業活動や非営利団体の活動の一端を、文献調査と実地調査により、実態と課題について分析を行う。これらを通して企業の現場に触れる機会を持つとともに、活動後の発表や提言を行うことによって、探究に必要な観察力、実践力、分析力を培うことを達成目標とする。
キーワード	PBL(問題発見 解決型学習(Problem-Based Learning))、地域ブランド、フィールドワーク、企業、自治体、プレゼンテーション
成績評価(合格基準60	ビジネスフィールドワーク全体(テーマと対象組織体の設定方法、全体計画の策定、事前調査、実地調査、報告書のまとめ、報告会の発表)を通じた取り組み方。全体計画の策定30%、フィールド調査の成果30%、報告書の策定と発表(プレゼンテーション)40%
関連科目	探求活動
教科書	都度、プリントを配布する。
参考書	適宜、指示する。
連絡先	経営学部経営学科 山口研究室(A1号館7階)

	t-yama@mgt.ous.ac.jp
注意・備考	基本的にはグループワーク中心の集中講義です。 今年度は、10/13（土）、11/10（土）、12/8（土）の各1コマ～5コマを予定しております。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア活動 (FEP6Z210)
英文科目名	Science Educational Volunteer Activities
担当教員名	滝澤昇 (たきざわのぼる), 吉村功* (よしむらたくみ*), 森田明義* (もりたあきよし*), 山口一裕 (やまぐちかずひろ), 高原周一 (たかはらしゅういち)
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	科学ボランティア活動の進め方および成果発表会について説明する。 科学ボランティアリーダー資格認定について説明する。 (高原 周一)
2 回	地域で24時間以上の科学ボランティア活動を行う。この中で少なくとも1回は、科学ボランティア実践指導 および で扱ったテーマ以外で、科学教室 (サイエンスショーも含む) の講師もしくはブース出展責任者を務めること。 (高原 周一)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
1 0 回	
1 1 回	
1 2 回	
1 3 回	
1 4 回	科学ボランティア活動証明書、活動報告書、科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を提出する。成果発表会の発表内容を調整するとともに、発表準備を行う。企画書およびプレゼンテーション用資料を作成する。 (高原 周一)
1 5 回	成果発表会を行う。 (全教員)

回数	準備学習
1 回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、本学の「科学ボランティアリーダー養成事業」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2 回	参加する科学ボランティア活動の事前申請および準備を行うこと。活動参加後に所定の様式で報告書を作成し、速やかに科学ボランティアセンターまで提出すること。(標準学習時間各回90分)
3 回	
4 回	
5 回	
6 回	
7 回	
8 回	
9 回	
1 0 回	
1 1 回	
1 2 回	
1 3 回	
1 4 回	科学ボランティアリーダー認定申請書および科学ボランティア活動実績報告書を作成すること。これまでの科学ボランティア活動について総括し、振り返りレポートを作成すること。発表会での発表内容について考えておくこと。(標準学習時間90分)
1 5 回	企画書を作成すること。成果発表会の準備を行うこと。成果発表会で行う実験・工作等については、必ず事前に予行演習をしておくこと。(標準学習時間90分)

講義目的	地域で開催される科学イベントや科学実験教室にボランティアとして参加することで地域の科学教育振興に貢献するとともに、科学ボランティア活動に必要な能力および社会人として必要な汎用的能力の向上を図る。最後に、これまでの科学ボランティア活動のまとめとして成果発表会を行う。なお、この成果発表会は科学ボランティアリーダー資格認定の最終試験を兼ねる。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学教育振興に貢献する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学イベントを自ら企画・運営することができる。 3) 科学実験教室や科学イベントで使える教材を5つ以上知っている。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などをもっている。
キーワード	地域貢献 科学イベント 科学実験教室 成果発表会 科学ボランティアリーダー
成績評価（合格基準60	本学および地域で行った科学ボランティア活動の活動時間・件数（20%）、活動報告書（20%）、振り返りレポート（10%）、成果発表会の企画書（10%）、発表内容（40%）により評価する。
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ・
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示する。
連絡先	教育学部初等教育学科 高原周一（A1号館3階、e-mail: takahara[アットマーク]ped.ous.ac.jp TEL: 086-256-9607）もしくは科学ボランティアセンター（B4号館1階、TEL: 086-256-9570）
注意・備考	・この科目は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・成果発表会までに科学ボランティア活動の活動時間数が24時間に達する見込みのある学生が履修すること。 ・科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導 の単位を修得済か履修中であることが望ましい。 ・科学ボランティア活動部分（2～13回目）については1年次から活動を認める。ただし、科学ボランティア活動の説明会（科学・工作ボランティア入門の講義の1回目）に参加するか科学ボランティアセンターでの講習を受けた後に活動すること。 ・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（日時・場所は教務の掲示板に張り出す）に必ず出席すること。 ・科学ボランティア活動、成果発表会での発表によりアクティブ・ラーニングを行う。 ・講義資料は講義中に配布する。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。 ・発表会における教員の評価はその場でフィードバックされる。
試験実施	実施しない

科目名	科学ボランティア実践指導 (FEP6Z220)
英文科目名	Practical Course for Science Educational Volunteer Activities II
担当教員名	滝澤昇(たきざわのぼる), 吉村功*(よしむらたくみ*), 森田明義*(もりたあきよし*), 山口一裕(やまぐちかずひろ), 高原周一(たかはらしゅういち)
対象学年	2年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	演習

回数	授業内容
1回	ガイダンス：講義内容と進め方の説明を受けこの講義の意義と進め方を理解する。また理科大学認定資格：科学ボランティアリーダーの詳細説明と出展可能な科学イベントの紹介をうける。 (全教員)
2回	チームおよび指導教員が決定され、各グループで活動方針・内容についての討論をする。 (全教員)
3回	科学イベント準備(1)：出展内容を決定し、次回までにメンバー各自がやっておくべきこと(宿題：実験材料・器具の調達、実験原理の調査、イベント当日の進行の検討など)を決める。 (全教員)
4回	科学イベント準備(2)：事前準備に基づいて実験器具およびプレゼンテーションなどの準備・練習をし、次回までの宿題を決める。 (全教員)
5回	科学イベント準備(3)：発表会予行練習をする。次回までの宿題を決める。 (全教員)
6回	科学イベント準備(4)：発表会に向けて練習を重ね仕上げる。 (全教員)
7回	科学イベントを実施する。 (全教員)
8回	事後指導を受け、レポートを作成する。 (全教員)

回数	準備学習
1回	このシラバスをよく読んでこの講義の内容を理解するとともに、「科学ボランティアリーダー」について理解しておくこと。(標準学習時間30分)
2回	第1回ガイダンスで紹介された情報に基づいて、どのイベントで、どのような活動をしたいかを考えておくこと。(標準学習時間120分)
3回	前回の討論に基づいて、内容を各自考案し、チームメンバーと情報を交換しておくこと。(標準学習時間120分)
4回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
5回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
6回	授業時間中に決めた宿題を行ない、次回の授業に備えること。さらに必要に応じ、随時チーム打ち合わせを持つこと。(標準学習時間120分)
7回	本番に備え、チームで随時練習をすること。また必要な道具類を最終チェックしておくこと。(標準学習時間120分)
8回	反省点を各自で整理しておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	チームを組んで地域などで開催される科学イベントで講師として科学ボランティア活動を2時間以上実践する(現地での準備時間等を含む。ただし40分以上の教室形式、またはサイエンスショーを実践する)ことができるようになること。またこの科学ボランティア活動を安全かつ効果的に実
------	--

	施できるようなること。チーム内での討論、教員への報告、科学イベントでのプレゼンテーションによりアクティブ・ラーニングを行う。（初等教育学科の学位授与方針E「科学ボランティアやフィールドワークでの活動を通じて科学や自然を深く理解し、教育実践の基礎力を身につけている」に強く関与）
達成目標	1) 地域の科学ボランティア活動に積極的に参画・協力する意欲をもつ。 2) 科学実験教室や科学実験ショーが、教材開発・選定から準備、実施まで自力でできる。 3) 科学実験教室や科学実験ショーの実施に必要な科学的知識を習得することができる。 4) 社会人として必要な企画力、情報収集力、問題解決力、チームワークとリーダーシップ、コミュニケーション力などを身につけている。
キーワード	地域での実践 科学イベント 科学ボランティア 楽しい科学実験
成績評価（合格基準60	毎回の授業において自己の活動をレポートとして提出する。報告書の記載内容は、(1)活動日時・場所・実働時間、(2)活動内容(詳細に)、(3)活動の自己評価(400字程度)などである。 イベントでの評価は、活動報告書とともに教員の評価ならびに受講生相互の評価も加味する。 評価の配分はつぎのとおり 1) 毎回の準備活動状況(報告書に基づく) 20%、 2) 企画書の内容 20% 3) 実践活動(教員の評価ならびに受講生相互の評価) 20%、 4) 事後報告書 20%、 5) 読書感想文 20%
関連科目	科学・工作ボランティア入門、科学ボランティア実践指導Ⅰ、科学ボランティア活動
教科書	使用しない。
参考書	適宜指示します。科学ボランティアセンターには、関連する図書・資料が多数ありますので、利用して下さい。
連絡先	○工学部 バイオ・応用化学科 滝澤 昇 研究室：B6号館 5 階 電話：086-256-9552 電子メール：takizawan [アトマーク] dac.ous.ac.jp オフィスアワーは、mylog で確認のこと ○科学ボランティアセンター所在：B4号館 1 階 電話：086-256-9570 電子メール：svc [アトマーク] ridai-svc.ous.ac.jp 同センターには、午後は概ね教員が常駐しています。
注意・備考	・受講者が20名を超える場合は受講制限することがあるので、ガイダンス（＝初回の講義）には必ず出席すること。ガイダンスの日時・場所は教務の掲示板に張り出す。 ・チームごとに決めた指導教員が学内で事前・事後指導を行う。日程はチームごとに担当教員と相談して決定する。 ・この授業は本学の科学ボランティアリーダー認定制度の必修科目である。 ・「科学ボランティアリーダー養成科目」は以下の順番で受講することを推奨する。 「科学・工作ボランティア入門」→「科学ボランティア実践指導Ⅰ」→「科学ボランティア実践指導Ⅱ」→「科学ボランティア活動」 ・この授業は、受講者の主体的な活動（アクティブ・ラーニング）により成り立っているので、積極的に活動すること。 ・講義資料は講義中に配布するとともに、Momo-campus からpdfファイルを取得できるようにする。 ・講義中および発表会の録音／録画／撮影は自由であるが、他者への再配布（ネットへのアップロードを含む）は禁止する。発表会の様子は記録用として教員が録画・撮影することがある。 ・発表会における教員の評価は事後指導時にフィードバックされる。
試験実施	実施する

科目名	教育ボランティア（FEP6Z230）
英文科目名	Educational Volunteer II
担当教員名	山中芳和（やまなかよしかず）、森敏昭（もりとしあき）、小川孝司（おがわたかし）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、松岡律（まつおかただし）、山下浩之（やましたひろゆき）、紙田路子（かみたみちこ）、井本美穂（いもとみほ）、笹山健作（ささやまけんさく）、妻藤純子（さいとうじゅんこ）、原田省吾（はらだしょうご）
対象学年	2 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科
単位数	1.0
授業形態	実験実習

回数	授業内容
1 回	事前指導を行う (全教員)
2 回	実習(1) (全教員)
3 回	実習(2) (全教員)
4 回	実習(3) (全教員)
5 回	実習(4) (全教員)
6 回	実習(5) (全教員)
7 回	実習(6) (全教員)
8 回	実習(7) (全教員)
9 回	実習(8) (全教員)
1 0 回	実習(9) (全教員)
1 1 回	実習(10) (全教員)
1 2 回	実習(11) (全教員)
1 3 回	実習(12) (全教員)
1 4 回	グループ・リフレクションを行う (全教員)
1 5 回	成果発表を行う (全教員)

回数	準備学習
----	------

1 回	N P O等でのボランティアに必要なことについて調べておくこと。(標準学習時間60分)
2 回	事前指導を踏まえ、一般の人々とのコミュニケーションの持ち方について熟考しておくこと。(標準学習時間60分)
3 回	今後の活動の中で、自分ができることについてよく考えること。(標準学習時間60分)
4 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
5 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
6 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
7 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
8 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
9 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
10 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
11 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
12 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
13 回	前回の活動を踏まえ、今後自分ができることについてよく考えておくこと。(標準学習時間60分)
14 回	これまでの活動を踏まえ、自分の成果と課題について整理しておくこと。(標準学習時間60分)
15 回	自身の活動について、レポート・プレゼンテーションとしてまとめておくこと。(標準学習時間60分)

講義目的	「教育ボランティア」での活動体験を踏まえて、この授業においても大学の授業外の時間を使い、教育関連施設のボランティアとして、教育的活動の補助及び子どもの遊びや学習の支援活動を行う。特に近隣の教育関連N P Oとの連携により、主として児童生徒の集团的活動の企画や運営、活動に参画することで、子どもを理解し、教師として子どもの学習や生活の集団を支持的風土に満ちた集団に高めていく力の育成を目指す。(初等教育学科の学位授与方針B・D、中等教育学科の学位授与方針：国語E、英語Bに最も強く関与する)
達成目標	N P O職員や子どもの保護者、他のボランティア参加者など、多様な人々との関わりの中で活動を企画し運営して行く中で、学校関係者や子供だけでなく様々な人と円滑にコミュニケーションできる力を身につけること。 組織の中で自発的に自分の役割を見つけ、率先しかつ協調して動けるようになること。
キーワード	
成績評価(合格基準60%)	ボランティア受け入れ先からの評価および、事後指導におけるレポートを総合的に評価する。60%以上を合格とする。
関連科目	教育ボランティア
教科書	なし
参考書	
連絡先	
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	小学校教育実習（FEP6Z310）
英文科目名	Elementary School Teaching Practice I
担当教員名	小川孝司（おがわたかし）、森敏昭（もりとしあき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、紙田路子（かみたまちこ）、妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	3 年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科（～18）
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	教育実習 は、実習校において行われる。各教科の授業や特別活動の観察、研究協議を中心に行う。また、指導教員の授業をもとに指導案を作成したり、初めての实地授業や当番活動を実践したりすることにより、指導に必要な基本的なことを理解し修得する。観察や実践したことは適宜記録し、実習日誌に記録として整理し記述する。
準備学習	「教育実習の手引」を熟読し、「教育実習の内容と方法」「実習日誌のねらいと書き方」「教育実習上の注意」を確認しておくこと。また、大学で履修した各教科の内容論や教育法、実習事前指導での授業内容を振り返ったり、指導教員の指示に従い、学習指導案や補助教材の作成等の事前準備に取り組むとともに、自らの実践についての考察等を実習日誌等に記述すること。
講義目的	小学校の教職を目指す学生が、実際の学校現場において教育活動に参加する。学習者から指導者へと視点を転換し、教師の立場から教職の実務を学ぶことを目的とする。（本講義は、初等教育学科の学位授与方針の A・B・C に該当する。）
達成目標	学校現場における 2 週間の実習の中で、各教科等の指導内容を理解し、その具体的な指導法について理解することができる（A・C）。学級経営、授業実践の参加や観察を通して子ども理解を深め、進んで子どもにかかわることができる（B）。以上を通して、自己のあり方を見つめ、教職に関わることの責任の重さを自覚することができる（B）。
キーワード	児童理解 学習の流れ 実践的指導力の基礎
成績評価（合格基準60	教育実習校側の資料、実習生の取組状況(実習日誌等)及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員の協議により評価する。総計 60 %以上を合格とする。
関連科目	各教科の内容論及び教育法 教育実習事前・事後指導
教科書	実習校で使用する教科書
参考書	実習校で使用する参考書 各教科等の小学校学習指導要領解説
連絡先	担当の教育学部指導教員
注意・備考	
試験実施	実施しない

科目名	小学校教育実習（FEP6Z320）
英文科目名	Elementary School Teaching Practice II
担当教員名	小川孝司（おがわたかし）、森敏昭（もりとしあき）、黒崎東洋郎（くろさきとよお）、紙田路子（かみたまちこ）、妻藤純子（さいとうじゅんこ）
対象学年	3年
開講学期	秋学期
曜日時限	集中講義 その他
対象クラス	初等教育学科（～18）
単位数	2.0
授業形態	実験実習
授業内容	教育実習は、小学校教育実習に引き続き、ねらいに沿った当番活動や各教科等の本質に根ざした実地指導を实践し、その成果を反省・考察して学級経営のあり方やよりよい授業づくりを探る。実習の最終段階では教生経営に取り組み、学級担任としての業務の全体を経験する。これらの経験は、「教育実習のましめ」に整理し教育実習を総括する。
準備学習	実践した当番活動や各教科等の実地授業について、その成果や考察を実習日誌に記述し、次への実践に生かすこと。また、指導教員等の指示に従い、学習指導案や補助教材、学級の実態に合った当番活動の実施案等を作成すること。
講義目的	小学校教育実習における学びをさらに深め、実践的指導力の基礎を培うことを目的とする。（本講義は、初等教育学科学位授与方針のA・B・Cに該当する）
達成目標	学校現場における2週間の実習の中で、教科等の本質に根ざした選択教科等の授業や教生経営の授業を通して、学習指導力の向上を図る（A・C）。ねらいを明確に持った当番活動や日常生活の指導を通して、生徒指導力の向上を図る（B）。以上を通して、小学校教育の意義と役割、教職に関わることの使命感を身に付け教師力の深化を図る（B）。
キーワード	実践的指導力 教師力
成績評価（合格基準60	教育実習校側の資料、実習生の取組状況（実習日誌）及び実習生が作成した報告書に基づき、教育実習担当教員の協議により評価する。総計で60%以上を合格とする。
関連科目	教育実習 教育実習事前・事後指導 教職実践演習
教科書	実習校で使用する教科書
参考書	実習校で使用する参考書
連絡先	担当の教育学部指導教員
注意・備考	
試験実施	実施しない